

令和6年度 広域連携DMOとしてのデジタルマーケティング事業
「北海道民の観光に対する満足度調査」

調査分析報告書

令和7年1月
HOKKAIDO TOURISM ORGANIZATION
北海道観光機構

1. 属性集計
2. 単純集計結果
3. クロス集計分析
4. 地域の現状

事業の目的：

本道を訪れる観光客の満足度を高め、再訪したいと思われる観光地の創出のために、「自地域の観光による発展への意識」「観光客の受け入れへの意識」「観光産業や施策への支持意識」に影響を及ぼす要因として、以下を測定し、本道における①現状の把握、②昨年度調査との比較・変化要因の抽出、③課題の抽出、④打ち手の検討を行う基礎資料とすること。

- ①居住地満足度（住民の地域への「愛着」や「誇り」）の測定
- ②社会的満足度（観光客への評価・観光地としての居住地への評価）の測定
- ③経済的満足度（観光が地域にもたらす経済面的恩恵への評価）の測定

上記、3種類の満足度を基に総合満足度を算出するとともに、「消費者の旅行行動や価値観」、「観光地・施設との距離」、「観光産業との関わり」、「地域の観光への評価」などを聞いた他の設問とのクロス集計により要因の抽出を行った。

測定後は、広大な領域を有し、地域ごとに産業構造の異なる本道において、以下の視点でエリア分析を行った。

- ①エリア毎、居住地自体の人口規模毎の「満足度の差異」と要因の抽出
- ②人口減少と「満足度」の関係の抽出
- ③地域における「観光産業」の比重と「満足度」の関係の抽出
(居住地の1人あたり観光入込客数、宿泊・飲食サービス業従業者比率)

また、オーバーツーリズム等が満足度に与える影響を抽出するため、京都府で同様の調査を行い、比較データとした。

事業名：令和6年度広域連携DMOとしてのデジタルマーケティング事業「北海道民の観光に対する満足度調査」

調査機関：北海道新聞社営業局

調査内容：① 消費者属性

- ② 満足度算出に関する基準設問
- ③ 満足度に影響を及ぼす「要因」抽出のための各種設問

※設問表は別添

実査期間：令和6年10月25日（金）～11月3日（日）

実査方式：Webアンケート調査

集客対象：北海道内に居住する20代以上および、比較データとしての京都府内消費者

集客対策：北海道の地域産品を賞品としたアンケートキャンペーンの実施

集客手法：<道内消費者>

- (A) 道新メールマガジン会員（約23万人）への一斉メール送信
- (B) 楽天インサイト社パネルへのアンケート調査

<京都府内消費者>

- (C) 楽天インサイト社パネルへのアンケート調査

集客実績：(A) 道新メールマガジン会員 8,799人（重複・エラー回答削除後）

- (B) 楽天インサイトパネル 1,000人
- (C) 楽天インサイトパネル 550人

周辺調査：以下、オープンデータから取得

- (ア) 直近25年の人口増減率（令和2年度 国勢調査を基準とした）
- (イ) 市町村別の宿泊施設・飲食業事業所での就業者数

統計手法：道内調査は道新メールマガジン会員・楽天インサイト合計9,799人（重複回答削除後）の回答データを、ウェイトバック集計を用いて振興局単位で年齢・性別が人口比に準拠した3,000人の母集団に調整し、分析対象とした。

令和6年1月の住民基本台帳年齢階級別人口（外国人を除く）の20歳以上を基準とし、20歳以上の人口4,316,504人に対し、信頼水準95%、許容誤差5%で必要とされるサンプル数は384サンプル。

本調査における3,000人のサンプル数はそれを超える。

分析手法：単純集計・クロス集計分析

■ ウェイトバック集計とは

調査において重要な属性の割合を調査対象の母集団に合わせるための手法。回答率が調査の質に影響を与えるアンケート集計で主に用いられる。

【例】男性100人、女性200人の集団に対してアンケート調査を実施したが、何らかの理由で回答者は男性60人、女性40人であった。

調査結果では、本来33%である男性の回答が60%と過半数を占める一方、本来67%存在する女性の回答が40%と少なくなっているため、このままでは結果の解釈が難しい。

【ウェイトバック作業】

女性の回答者数に2を掛けて（男性60、女性120）ウェイトバックし、本来の割合（男性33%：女性67%）に戻す。

それに加えて、n数を全体の母数（男性100人+女性200人=300人）に戻すため、すべての回答者数に対して300/180を掛ける。

以上の作業により、アンケート結果の解釈を回答率の影響を加味せずに行うことが可能になる。

■ 本調査でウェイトバック集計を用いる理由

北海道観光に対する考え方や態度は居住地域（振興局）、性別、年代によって異なることが想定される。

一方、サンプルの取得状況は母集団（全道20歳以上人口【外国人を除く】）の分布に対し以下の偏りを残しているため、調査結果を母集団の分布に近づけることで、より正確な調査結果の解釈が可能になると考えられる。

- ・サンプルの振興局別割合は石狩振興局が56.69%となっており、母集団の割合（46.39%）より多い。
- ・サンプルの男女比（男性54.30%：女性45.70%）は、母集団の男女比（男性46.63%：女性53.37%）に対し男性がやや多い。
- ・サンプルの年代は50代（24.15%、母集団16.76%）、60代（34.16%、母集団15.65%）が母集団より多い一方、20代（3.57%、全道9.96%）などが少ない。

上記のような母集団との割合の差異をウェイトバックにより補正し、本調査のサンプル（n=3,000）の比率が全道の20歳以上日本人の振興局・年代・性別の人口割合と一致するようにする。（ウェイトバック結果を次のページに示す）

分析サンプル3000件の内訳

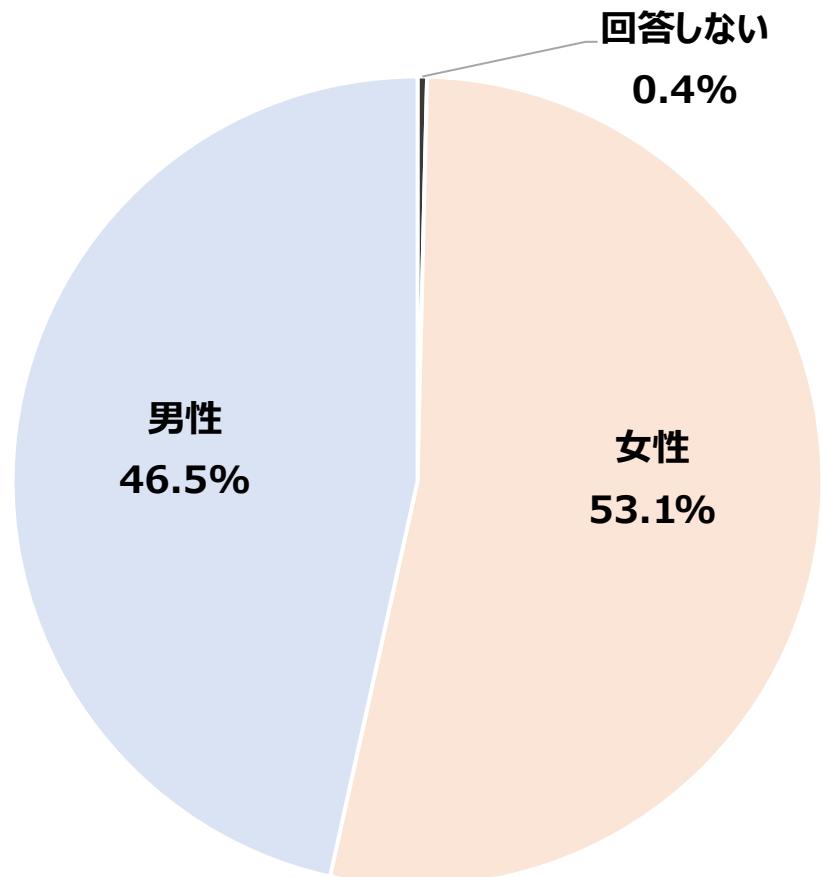
3,000サンプル (ウェイトバック後)	20代			30代			40代			50代			60代			70代以上			総計	構成比	住民基本 台帳
	ウェイトバック値		住民基本 台帳	ウェイトバック値		住民基本 台帳	ウェイトバック値		住民基本 台帳	ウェイトバック値		住民基本 台帳	ウェイトバック値		住民基本 台帳	ウェイトバック値		住民基本 台帳			
	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比	人数	構成比	構成比			
空知総合振興局	12	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	21	0.7%	0.7%	25	0.8%	0.8%	27	0.9%	0.9%	62	2.1%	2.1%	162	5.4%	5.4%
男性	7	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	11	0.4%	0.4%	12	0.4%	0.4%	13	0.4%	0.4%	25	0.8%	0.8%	75	2.5%	2.5%
女性	6	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	10	0.3%	0.3%	13	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	37	1.2%	1.2%	87	2.9%	2.9%
石狩振興局	160	5.3%	5.3%	180	6.0%	6.0%	232	7.7%	7.7%	243	8.1%	8.1%	211	7.0%	7.0%	375	12.5%	12.4%	1,401	46.7%	46.4%
男性	79	2.6%	2.6%	88	2.9%	2.9%	112	3.7%	3.7%	116	3.9%	3.9%	99	3.3%	3.3%	151	5.0%	5.0%	645	21.5%	21.5%
女性	80	2.7%	2.7%	91	3.0%	3.0%	118	3.9%	3.9%	126	4.2%	4.2%	110	3.7%	3.7%	222	7.4%	7.4%	747	24.9%	24.9%
後志総合振興局	9	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	16	0.5%	0.5%	19	0.6%	0.6%	18	0.6%	0.6%	42	1.4%	1.4%	114	3.8%	3.8%
男性	5	0.2%	0.2%	5	0.2%	0.2%	8	0.3%	0.3%	9	0.3%	0.3%	9	0.3%	0.3%	16	0.5%	0.5%	52	1.7%	1.7%
女性	4	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	8	0.3%	0.3%	9	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	26	0.9%	0.9%	61	2.0%	2.0%
胆振総合振興局	20	0.7%	0.7%	23	0.8%	0.8%	33	1.1%	1.1%	36	1.2%	1.2%	33	1.1%	1.1%	73	2.4%	2.4%	218	7.3%	7.2%
男性	11	0.4%	0.4%	12	0.4%	0.4%	17	0.6%	0.6%	18	0.6%	0.6%	16	0.5%	0.5%	30	1.0%	1.0%	104	3.5%	3.5%
女性	9	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	16	0.5%	0.5%	18	0.6%	0.6%	17	0.6%	0.6%	43	1.4%	1.4%	113	3.8%	3.8%
日高振興局	2	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	12	0.4%	0.4%	34	1.1%	1.2%
男性	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	17	0.6%	0.6%
女性	0	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	7	0.2%	0.2%	17	0.6%	0.6%
渡島総合振興局	18	0.6%	0.6%	21	0.7%	0.7%	32	1.1%	1.1%	37	1.2%	1.2%	36	1.2%	1.2%	75	2.5%	2.5%	219	7.3%	7.3%
男性	9	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	16	0.5%	0.5%	18	0.6%	0.6%	17	0.6%	0.6%	29	1.0%	1.0%	99	3.3%	3.3%
女性	8	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	16	0.5%	0.5%	19	0.6%	0.6%	19	0.6%	0.6%	46	1.5%	1.5%	119	4.0%	4.0%
檜山振興局	0	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	8	0.3%	0.3%	17	0.6%	0.6%
男性	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	8	0.3%	0.3%
女性	0	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	10	0.3%	0.3%
上川総合振興局	24	0.8%	0.8%	29	1.0%	1.0%	41	1.4%	1.4%	45	1.5%	1.5%	44	1.5%	1.5%	93	3.1%	3.1%	276	9.2%	9.2%
男性	13	0.4%	0.4%	15	0.5%	0.5%	21	0.7%	0.7%	21	0.7%	0.7%	21	0.7%	0.7%	38	1.3%	1.3%	127	4.2%	4.2%
女性	12	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	21	0.7%	0.7%	23	0.8%	0.8%	23	0.8%	0.8%	55	1.8%	1.8%	148	4.9%	4.9%
留萌振興局	0	0.0%	0.1%	1	0.0%	0.1%	3	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	9	0.3%	0.3%	21	0.7%	0.8%
男性	0	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	4	0.1%	0.1%	10	0.3%	0.4%
女性	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	6	0.2%	0.2%	11	0.4%	0.4%
宗谷総合振興局	1	0.0%	0.1%	4	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	5	0.2%	0.4%	26	0.9%	1.1%
男性	0	0.0%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	15	0.5%	0.6%
女性	1	0.0%	0.0%	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	0	0.0%	0.2%	11	0.4%	0.6%
オホーツク総合振興局	14	0.5%	0.5%	16	0.5%	0.5%	22	0.7%	0.7%	25	0.8%	0.8%	25	0.8%	0.8%	53	1.8%	1.8%	155	5.2%	5.1%
男性	8	0.3%	0.3%	8	0.3%	0.3%	12	0.4%	0.4%	12	0.4%	0.4%	12	0.4%	0.4%	21	0.7%	0.7%	74	2.5%	2.5%
女性	6	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	11	0.4%	0.4%	12	0.4%	0.4%	13	0.4%	0.4%	31	1.0%	1.0%	81	2.7%	2.7%
十勝総合振興局	19	0.6%	0.6%	22	0.7%	0.7%	29	1.0%	1.0%	31	1.0%	1.0%	30	1.0%	1.0%	59	2.0%	1.9%	190	6.3%	6.3%
男性	10	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	15	0.5%	0.5%	15	0.5%	0.5%	15	0.5%	0.5%	24	0.8%	0.8%	90	3.0%	3.0%
女性	9	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	14	0.5%	0.5%	16	0.5%	0.5%	15	0.5%	0.5%	34	1.1%	1.1%	100	3.3%	3.3%
釧路総合振興局	11	0.4%	0.4%	13	0.4%	0.4%	19	0.6%	0.6%	21	0.7%	0.7%	21	0.7%	0.7%	42	1.4%	1.4%	127	4.2%	4.2%
男性	6	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	9	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	10	0.3%	0.3%	17	0.6%	0.6%	59	2.0%	2.0%
女性	5	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	9	0.3%	0.3%	11	0.4%	0.4%	11	0.4%	0.4%	25	0.8%	0.8%	68	2.3%	2.2%
根室振興局	4	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	6	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	7	0.2%	0.2%	12	0.4%	0.4%	40	1.3%	1.3%
男性	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	5	0.2%	0.2%	19	0.6%	0.6%
女性	2	0.1%	0.1%	2	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	3	0.1%	0.1%	7	0.2%	0.2%	20	0.7%	0.7%
総計	293	9.8%	10.0%	342	11.4%	11.4%	467	15.6%	15.5%	506	16.9%	16.8%	472	15.7%	15.7%	920	30.7%	30.7%	3,000	100.0%	100.0%

※ウェイトバック値は小数点以下を含むため、各項目の詳細は合計と一致しないことがある。

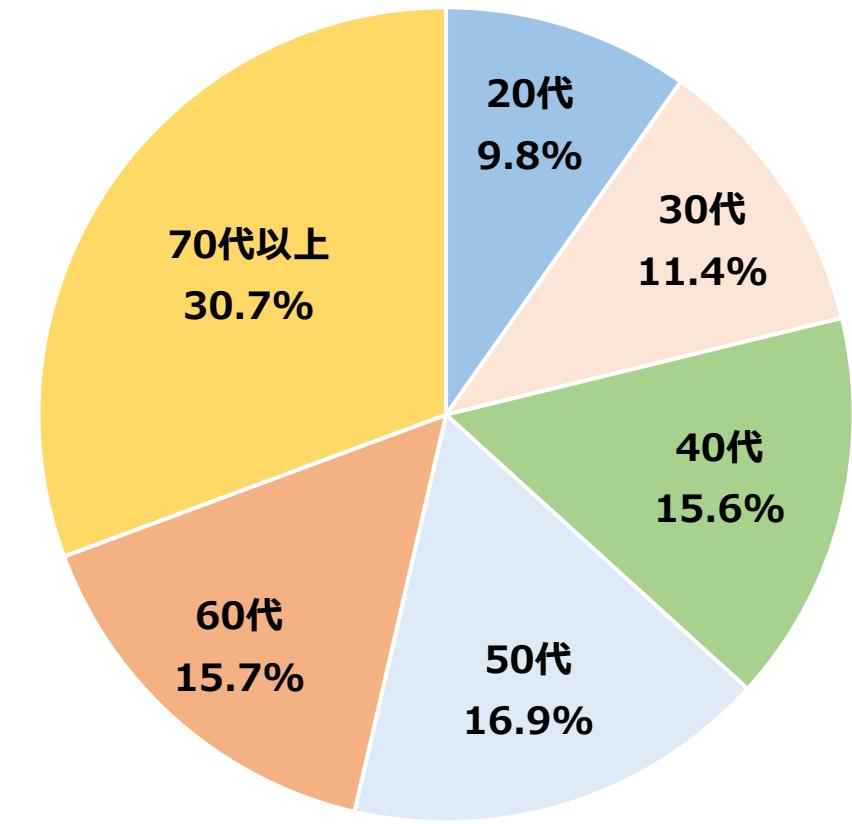
※各振興局の男女計には、それぞれ「性別：回答しない」を選択した回答者（ウェイトバック後総計11サンプル）のウェイトバック値を含む。

1 属性集計

性別



年代



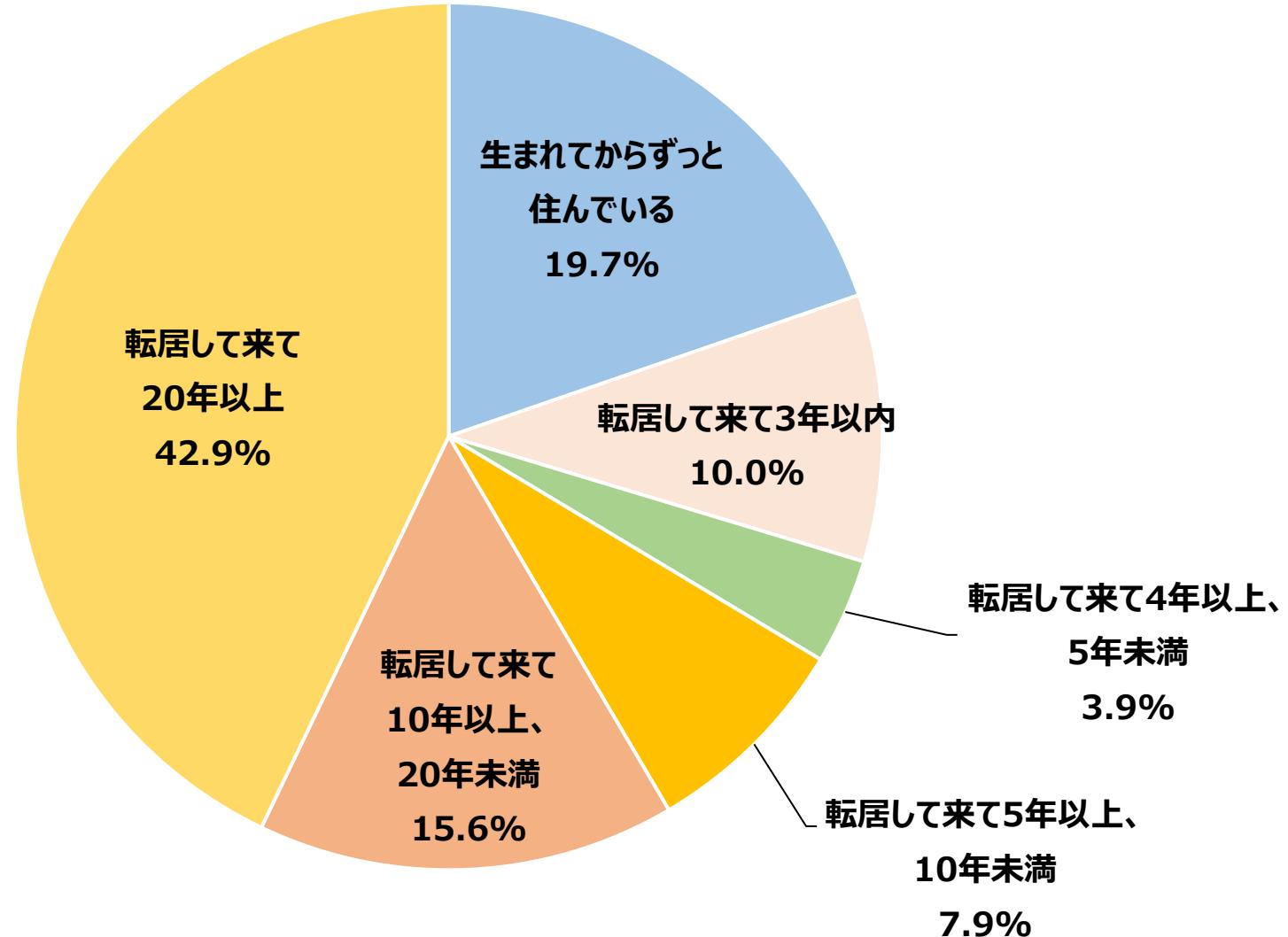
居住自治体

市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比	市町村名	人数	構成比
札幌市	1,191	39.7%	深川市	15	0.5%	安平町	6	0.2%	標津町	3	0.1%	増毛町	2	0.1%
旭川市	194	6.5%	芽室町	15	0.5%	岩内町	6	0.2%	せたな町	3	0.1%	泊村	2	0.1%
函館市	155	5.2%	幕別町	14	0.5%	栗山町	6	0.2%	洞爺湖町	3	0.1%	天塩町	2	0.1%
釧路市	101	3.4%	稚内市	14	0.5%	長沼町	6	0.2%	厚真町	3	0.1%	雨竜町	2	0.1%
帶広市	99	3.3%	名寄市	13	0.4%	苦前町	6	0.2%	広尾町	3	0.1%	浦幌町	2	0.1%
苫小牧市	88	2.9%	遠軽町	13	0.4%	留萌市	6	0.2%	下川町	3	0.1%	訓子府町	2	0.1%
小樽市	78	2.6%	砂川市	13	0.4%	当別町	5	0.2%	鶴居村	3	0.1%	礼文町	2	0.1%
江別市	64	2.1%	美唄市	12	0.4%	清水町	5	0.2%	新冠町	3	0.1%	喜茂別町	2	0.1%
北見市	63	2.1%	根室市	12	0.4%	俱知安町	5	0.2%	大空町	3	0.1%	豊富町	2	0.1%
岩見沢市	56	1.9%	富良野市	11	0.4%	芦別市	5	0.2%	標茶町	3	0.1%	美深町	2	0.1%
室蘭市	54	1.8%	白老町	11	0.4%	赤平市	5	0.2%	弟子屈町	3	0.1%	秩父別町	2	0.1%
千歳市	46	1.5%	釧路町	11	0.4%	鷹栖町	5	0.2%	仁木町	3	0.1%	奈井江町	2	0.1%
北広島市	39	1.3%	東神楽町	10	0.3%	羽幌町	5	0.2%	興部町	3	0.1%	鹿追町	2	0.1%
音更町	29	1.0%	湧別町	9	0.3%	枝幸町	5	0.2%	新十津川町	3	0.1%	滝上町	2	0.1%
恵庭市	29	1.0%	美幌町	9	0.3%	上富良野町	5	0.2%	津別町	3	0.1%	鹿部町	2	0.1%
伊達市	27	0.9%	八雲町	8	0.3%	江差町	5	0.2%	松前町	3	0.1%	その他	48	1.6%
石狩市	27	0.9%	士別市	8	0.3%	三笠市	5	0.2%	和寒町	3	0.1%	計	3,000	100.0%
登別市	23	0.8%	東川町	8	0.3%	斜里町	4	0.1%	比布町	3	0.1%			
北斗市	21	0.7%	森町	7	0.2%	日高町	4	0.1%	上士幌町	2	0.1%			
網走市	20	0.7%	別海町	7	0.2%	様似町	4	0.1%	足寄町	2	0.1%			
滝川市	19	0.6%	余市町	7	0.2%	浜中町	4	0.1%	新得町	2	0.1%			
中標津町	17	0.6%	南幌町	6	0.2%	本別町	4	0.1%	むかわ町	2	0.1%			
紋別市	16	0.5%	美瑛町	6	0.2%	長万部町	4	0.1%	二セコ町	2	0.1%			
七飯町	16	0.5%	浦河町	6	0.2%	池田町	4	0.1%	共和町	2	0.1%			
新ひだか町	15	0.5%	今金町	6	0.2%	佐呂間町	3	0.1%	清里町	2	0.1%			

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

お住いの自治体での居住期間

	人数	構成比
生まれてからずっと住んでいる	592	19.7%
転居して来て3年以内	299	10.0%
転居して来て4年以上、5年未満	118	3.9%
転居して来て5年以上、10年未満	238	7.9%
転居して来て10年以上、20年未満	467	15.6%
転居して来て20年以上	1,287	42.9%
総計	3,000	100.0%

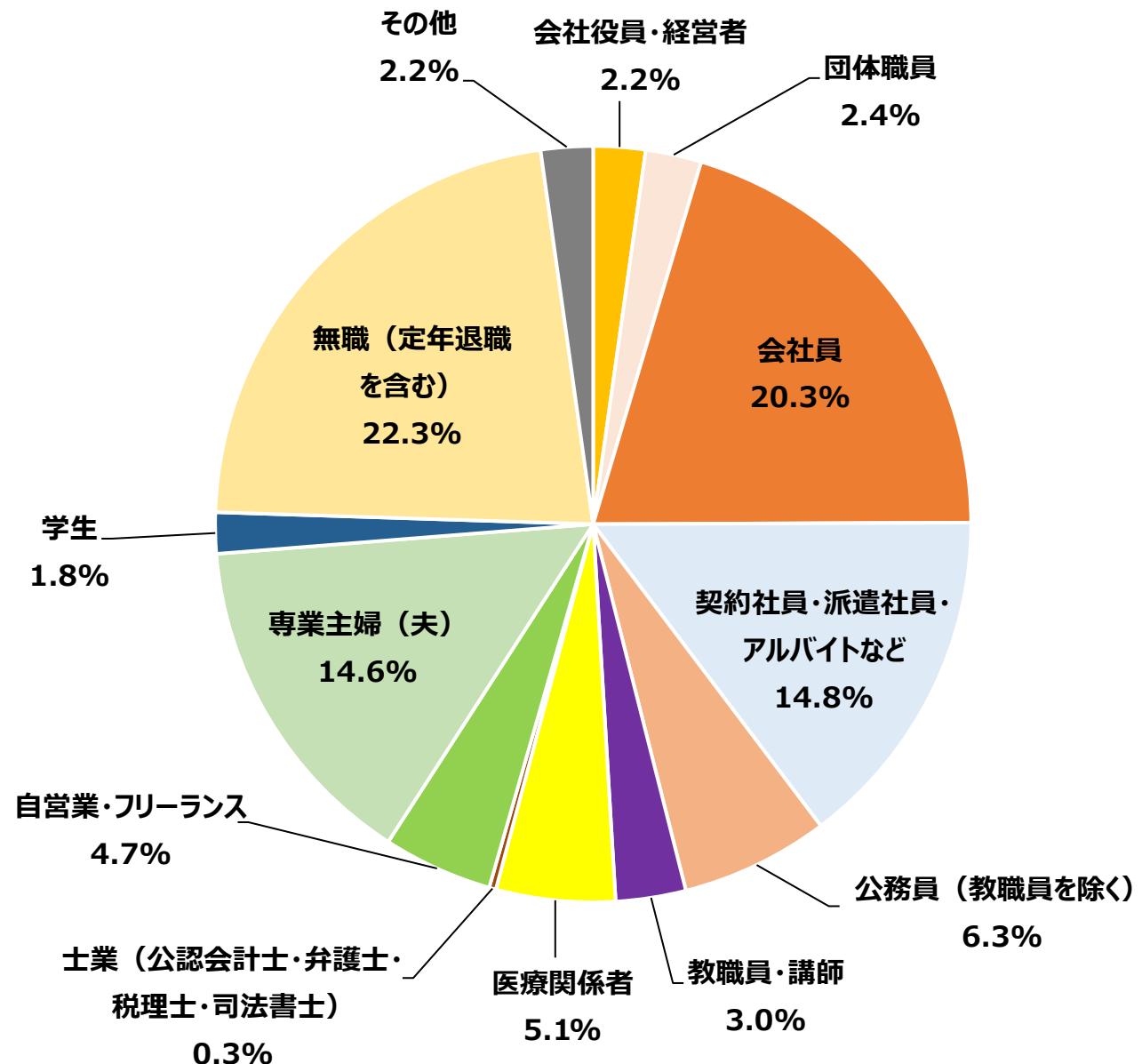


※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

1-1 回答者の属性 4/6

職種

	人数	構成比
会社役員・経営者	67	2.2%
団体職員	72	2.4%
会社員	610	20.3%
契約社員・派遣社員・アルバイトなど	443	14.8%
公務員（教職員を除く）	190	6.3%
教職員・講師	90	3.0%
医療関係者	153	5.1%
士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）	9	0.3%
自営業・フリーランス	141	4.7%
専業主婦（夫）	439	14.6%
学生	53	1.8%
無職（定年退職を含む）	668	22.3%
その他	67	2.2%
総計	3,000	100.0%



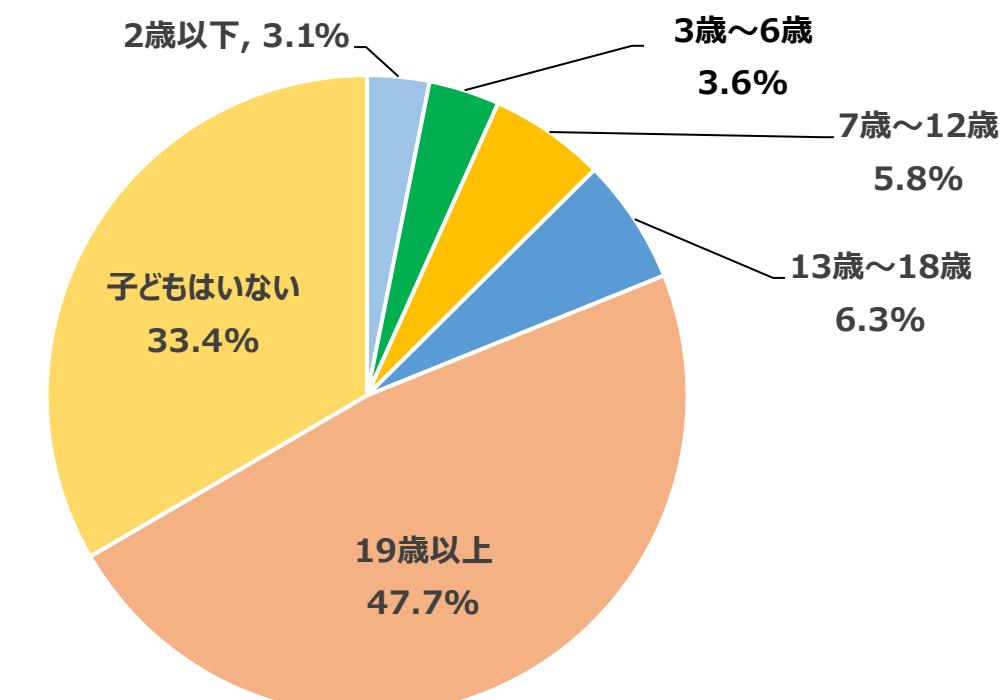
※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

業種

	人数	構成比
農業・林業	64	2.1%
漁業（水産養殖業を含む）	9	0.3%
鉱業（採石業、砂利採取業を含む）	4	0.1%
建設業（土木・工事業を含む）	125	4.2%
製造業	131	4.4%
電気・ガス・熱供給・水道業	27	0.9%
情報通信業	71	2.4%
運輸業・郵便業	84	2.8%
卸売業・小売業	178	5.9%
金融業・保険業	81	2.7%
不動産業・物品賃貸業	48	1.6%
宿泊業・飲食サービス業	88	2.9%
複合サービス事業	39	1.3%
その他のサービス業	250	8.3%
教育・学習支援業	177	5.9%
学術研究・専門技術サービス業	41	1.4%
医療・福祉業	392	13.1%
公務	224	7.5%
その他	825	27.5%
無回答	140	4.7%
総計	3,000	100.0%

末子の年齢

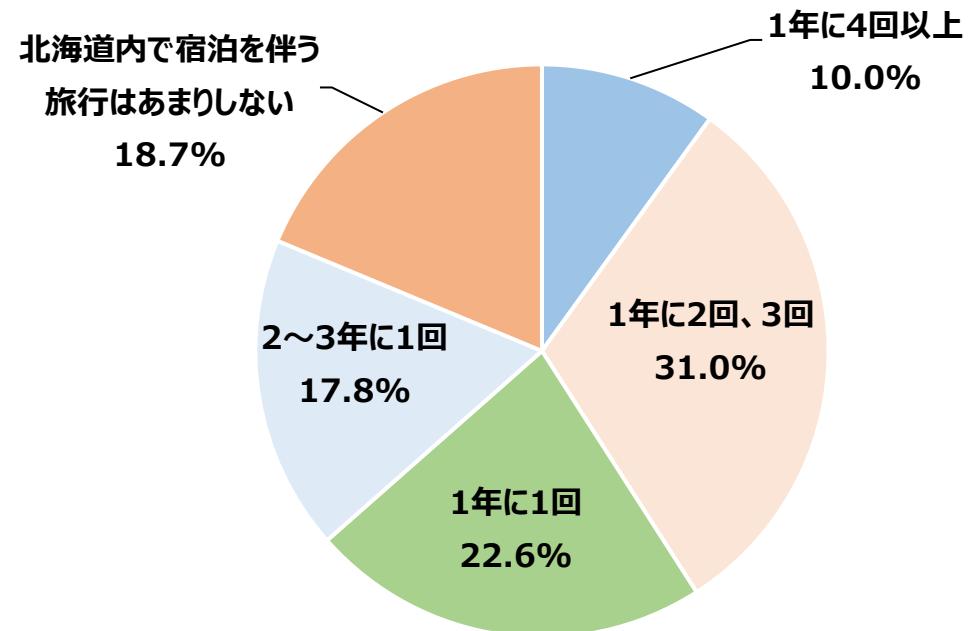
	人数	構成比
2歳以下	94	3.1%
3歳～6歳	107	3.6%
7歳～12歳	175	5.8%
13歳～18歳	190	6.3%
19歳以上	1,432	47.7%
子どもはない	1,001	33.4%
総計	3,000	100.0%



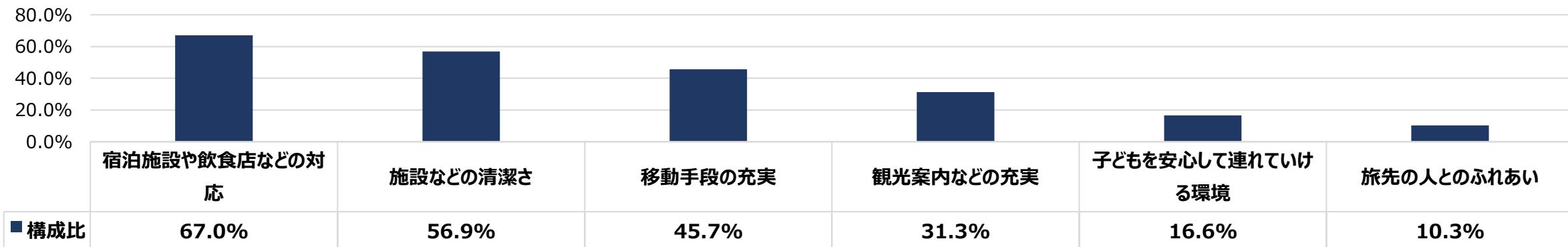
※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

北海道内の宿泊を伴う旅行に行く頻度

	人数	構成比
1年に4回以上	299	10.0%
1年に2回、3回	929	31.0%
1年に1回	677	22.6%
2~3年に1回	533	17.8%
北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない	562	18.7%
総計	3,000	100.0%



旅先で重要視する要素



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

1-2 総合満足度の算出

満足度	点数 配分	設問	選択肢	回答 比率	回答数	採点	最高得点	最低得点
居住地 満足度	100	13. お住まいの地域に、愛着や誇りを感じますか (単一回答)	とても感じる	25.4%	763	100	100	-100
			感じる	47.8%	1,435	50		
			どちらともいえない	19.8%	593	0		
			あまり感じない	4.9%	146	-50		
			感じない	2.1%	63	-100		
社会的 満足度	100	18. 親類・友人・知人などに、お住まいの地域の観光をお薦めしたいですか (単一回答)	とてもお薦めしたい	11.5%	345	50	50	-50
			お薦めしたい	39.9%	1,198	25		
			どちらともいえない	36.8%	1,103	0		
			あまりお薦めしたくない	7.7%	231	-25		
			お薦めしたくない	4.1%	123	-50		
	100	20. 観光客と関わりを持ちたいと思いますか (単一回答)	観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	3.6%	108	50	50	-50
			困っているときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	26.0%	780	25		
			自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	57.9%	1,736	-25		
			関わりを持ちたくない	12.5%	375	-50		
			観光客の来店で売上が増加して、給与などへの好影響があった	2.8%	83	5		
経済的 満足度	100	22. お住まいの府県や市町村への観光客来訪があなた自身にもたらす影響について、あてはまるものすべてお選びください。(いくつでも)	新規出店が増加するなど、買い物環境が向上した	6.0%	180	5	25	-25
			街並みが美しくなる、まちに活気が出るなど、生活環境が向上した	9.9%	297	5		
			観光客と接することで、交流が促進されて、交友関係が広がった	3.7%	110	5		
			公共交通機関や施設が充実して、利便性が向上した	5.4%	161	5		
			観光地・施設などやその周辺地域が混雑して、迷惑を感じた	15.5%	466	-5		
			公共交通機関が混雑して、迷惑を感じた	13.3%	400	-5		
			道路が渋滞して、迷惑を感じた	13.1%	393	-5		
			宿泊施設が近隣にできて、良くない影響(騒音・ゴミ・車両の出入りなど)によって、迷惑を感じた	4.5%	136	-5		
			観光客のマナー違反(ゴミのポイ捨て・食べ歩き・道に広がっての歩行など)によって、迷惑を感じた	18.4%	552	-5		
			該当するものはない	49.3%	1,480	0		
			その他	1.4%	42	0		
	100	23. あなたが考える「観光が地域にもたらす影響」について、あてはまるものすべてお選びください。(いくつでも)	観光客が買い物、宿泊することで地域経済が活性化して、雇用が促進される	55.1%	1,652	5	25	-25
			公共交通機関の利用が増加して、列車・バスの本数の維持や増便につながる	23.3%	700	5		
			税収が増加して、行政サービスの向上に役立つ	27.3%	818	5		
			地域の文化や伝統、自然景観の情報が広く発信されて、その保全や維持につながる	22.2%	667	5		
			観光客が訪れることで、地域が活性化する	51.4%	1,543	5		
			観光地・施設などやその周辺地域が混雑して、迷惑を感じる人がいる	22.2%	667	-5		
			公共交通機関が混雑して、迷惑を感じる人がいる	18.8%	565	-5		
			道路が渋滞して、迷惑を感じる人がいる	17.9%	536	-5		
			宿泊施設が近隣にできて、良くない影響(騒音・ゴミ・車両の出入りなど)によって、迷惑を感じる人がいる	13.1%	393	-5		
			観光客のマナー違反(ゴミのポイ捨て・食べ歩き・道に広がっての歩行など)によって、迷惑を感じる人がいる	29.8%	894	-5		
			該当するものはない	10.2%	305	0		
			その他	0.6%	18	0		
	100	24. 地域の経済発展に、観光が重要な役割を果たしていると思いますか。	とても思う	26.0%	781	50	50	-50
			思う	49.9%	1,498	25		
			どちらともいえない	17.4%	522	0		
			あまり思わない	4.6%	139	-25		
			思わない	2.0%	61	-50		

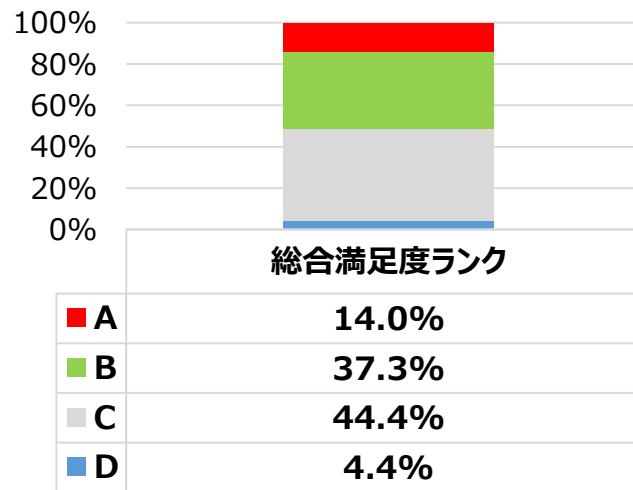
※上記「回答数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

回答者毎に、左記の基準設問に対し、回答内容から採点を行った上で、各満足度ごとに回答者全体からの「偏差値」を算出した。

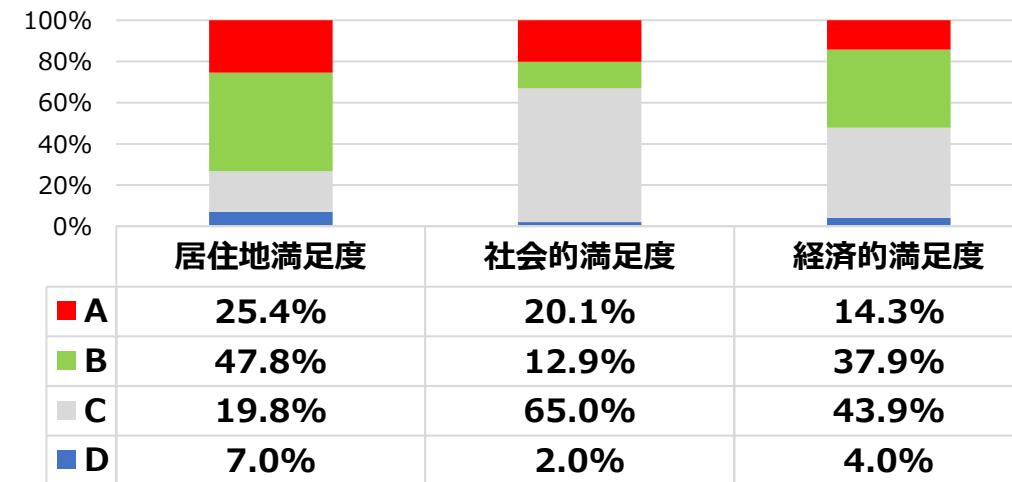
総合満足度の算出は全ての基準設問への回答の積算値から偏差値を算出した。

1-3 北海道における総合満足度 1/2

総合満足度構成比



各満足度毎の構成比



	A		B		C		D	
	偏差値60以上		偏差値50以上60未満		偏差値30以上50未満		偏差値30未満	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
居住地満足度	763	25.4%	1,435	47.8%	593	19.8%	209	7.0%
社会的満足度	602	20.1%	388	12.9%	1,949	65.0%	61	2.0%
経済的満足度	428	14.3%	1,137	37.9%	1,316	43.9%	120	4.0%
総合満足度	419	14.0%	1,118	37.3%	1,331	44.4%	132	4.4%

算出した偏差値から、各満足度ごとに以下A～Dの4ランクへの分類を行い、分析の指標とした。

- ◎ランクA 偏差値60以上
- ◎ランクB 偏差値50以上、60未満
- ◎ランクC 偏差値30以上、50未満
- ◎ランクD 偏差値30未満

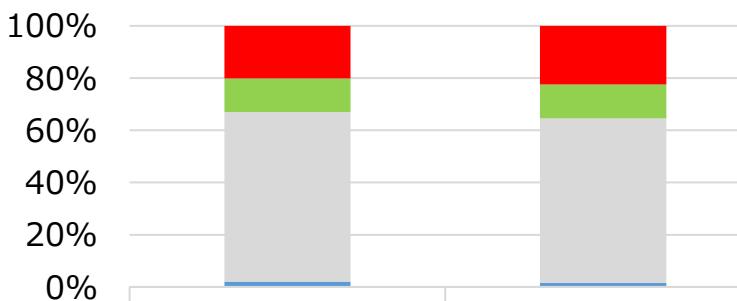
本道における課題が「社会的満足度」にあることが分かる。

(※別項にて、各満足度について「京都府」データとの差異比較、および差異の抽出を行った)

総合満足度構成比



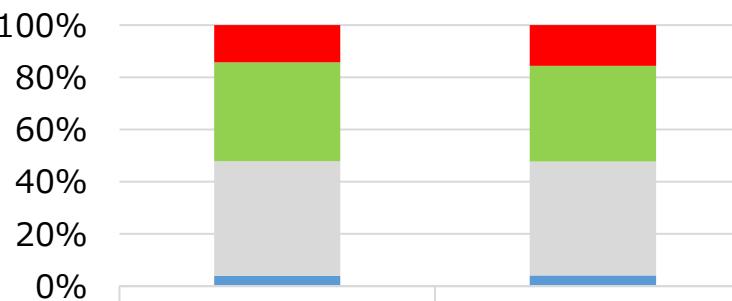
社会的満足度構成比



居住地満足度構成比



経済的満足度構成比



前ページの満足度を、昨年度調査で算出した満足度と比較した。

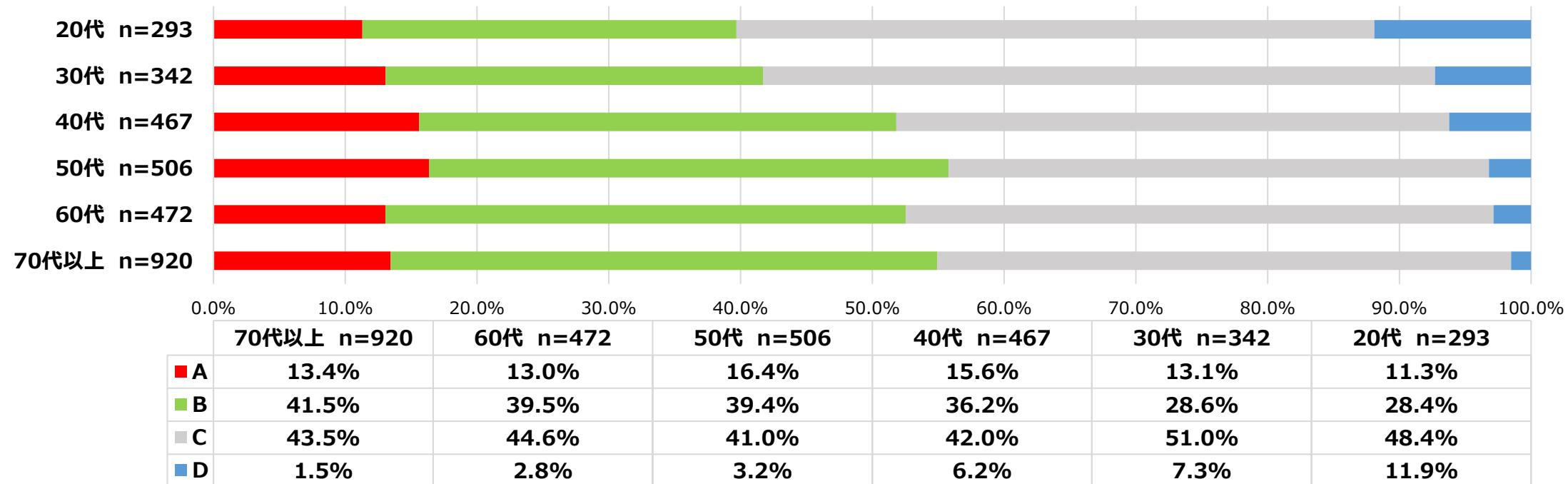
総合満足度ではAランクが2.1%減少し、Dランクが1.2%増加しているが、概ね昨年通りの分布となっている。

その他の満足度についてもAランクが微減しているほか大きな違いは見られない。
居住地満足度、経済的満足度ではDランクも微減しており、Bランク・Cランクが微増している。

■年代（総合満足度）

総合満足度×年代

(n=3000)



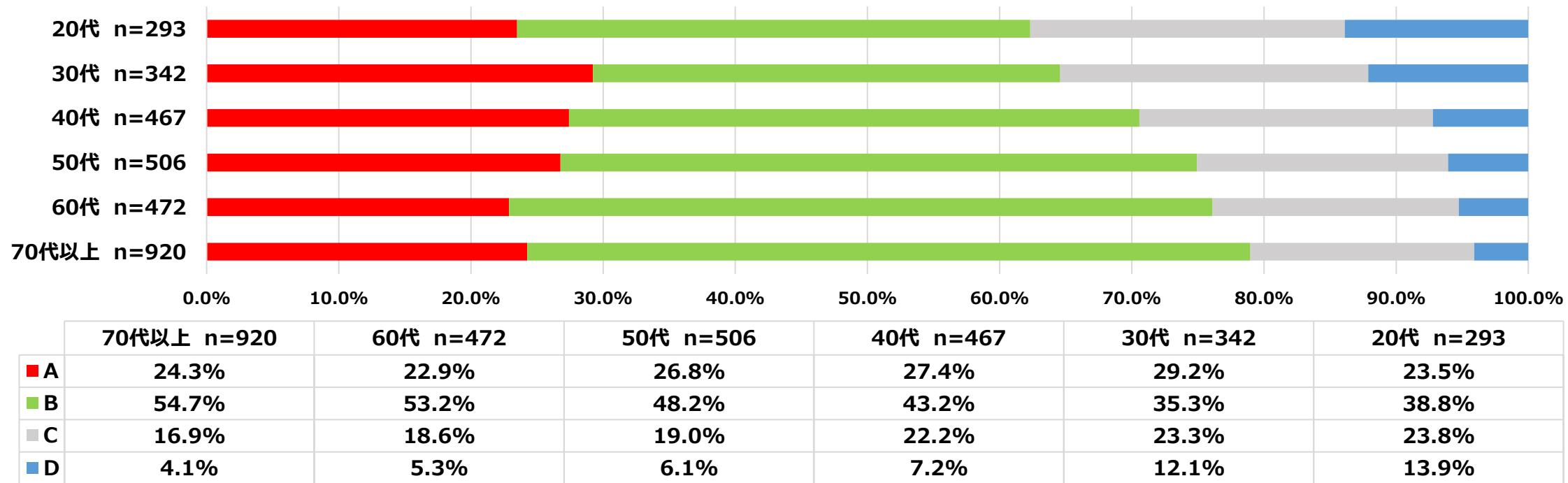
Aランク・Bランクの合計は、20代・30代で40%程度と低い一方、40代以上のすべての年代で50%以上と高くなっている、中高年者の方が観光への満足度が高いことがわかる。

Dランクの割合も20代～40代で高めになっているが、50代以降では低い。

■年代 (居住地満足度)

居住地満足度×年代

(n=3000)



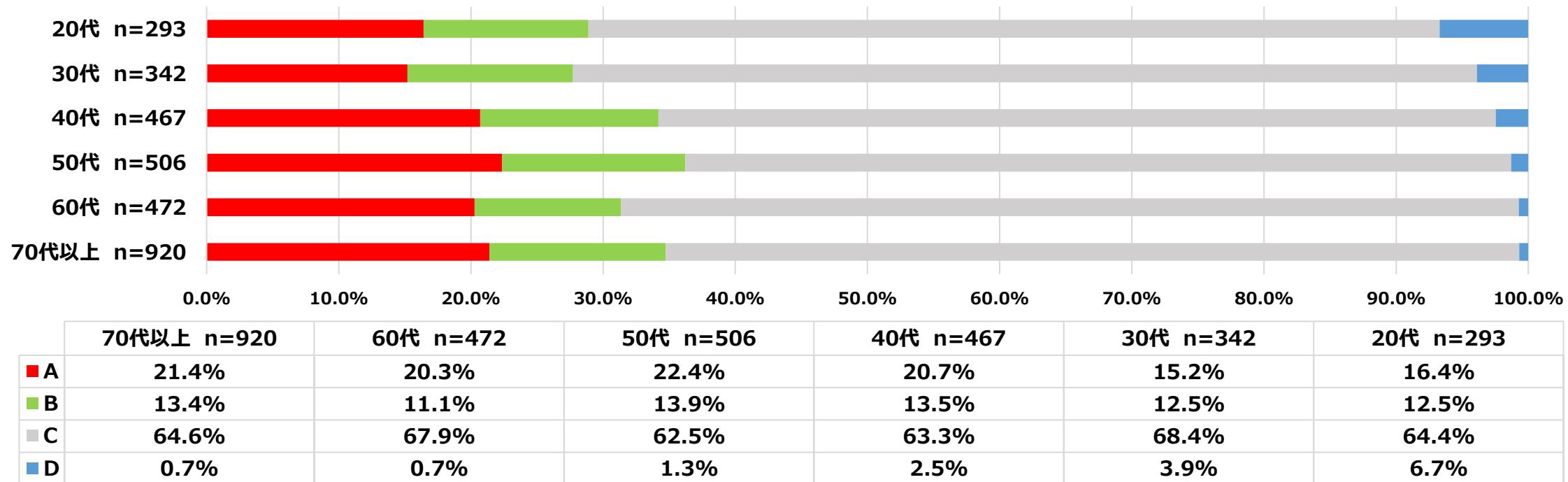
Aランクは30代が29.2%と最も高いが、最も低い20代でも23.5%と大きな差はない。

Aランク・Bランクの合計は、年代とともに上昇しており、居住地への愛着や誇りは年齢に従って高くなる傾向がみられる。

■年代（社会的満足度）

社会的満足度×年代

(n=3000)

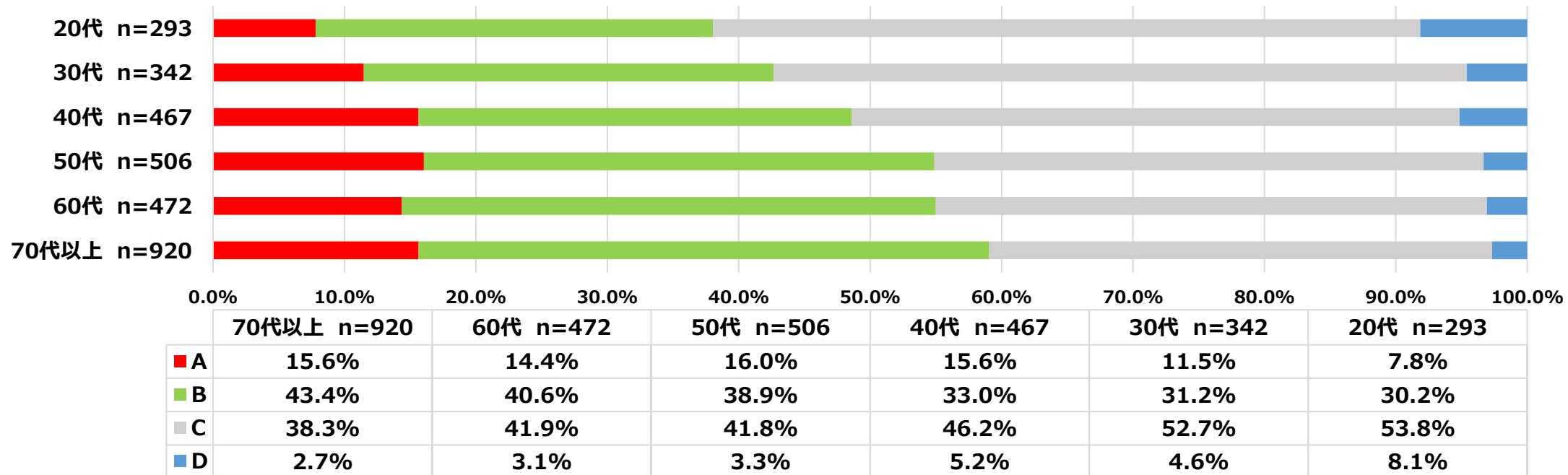


Aランク・Bランクの合計は、20代・30代と比較して、40代以上では若干高め。
 最も低い30代の27.7%と最も高い50代の38.1%を比較すると約10%の差がある。
 Dランクの割合は、年代が上がるにしたがって減少する傾向がみられる。

■年代（経済的満足度）

経済的満足度×年代

(n=3000)



Aランク・Bランクの合計は、70代以上が59.0%と最も高く、20代が38.0%と最も低い。
中高年ほど観光による経済的恩恵を評価している傾向。

■性別（総合満足度）

総合満足度×性別

(n=3000)



回答しない n=11		女性 n=1593	男性 n=1396
■ A	7.6%	13.4%	14.7%
■ B	23.1%	37.0%	37.6%
■ C	64.4%	45.9%	42.4%
■ D	4.9%	3.6%	5.3%

Aランク・Bランクの合計は、男性（52.3%）が女性（50.4%）と比べてわずかに高い。

■性別（居住地満足度）

居住地満足度×性別

(n=3000)



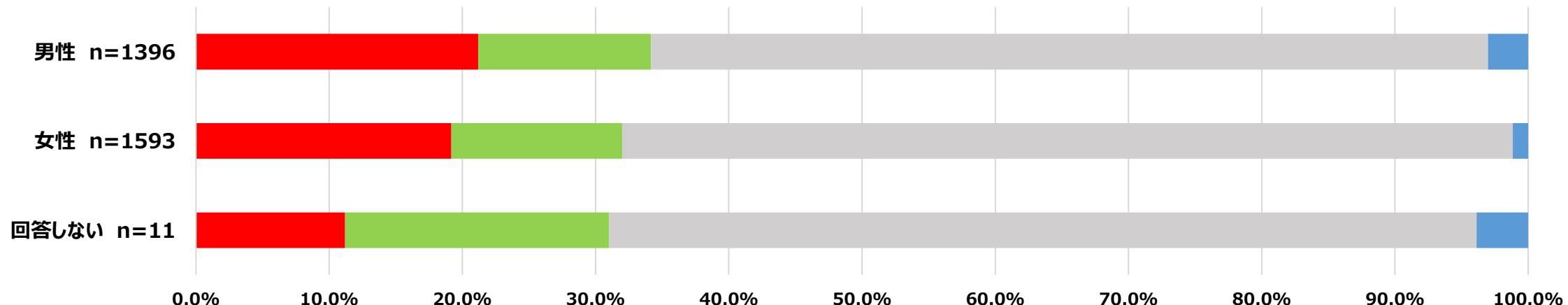
回答しない n=11		女性 n=1593	男性 n=1396
A	16.3%	24.5%	26.6%
B	50.0%	49.0%	46.5%
C	32.0%	20.2%	19.2%
D	1.7%	6.3%	7.7%

Aランクの割合は男性（26.6%）がわずかに女性（24.5%）より高い一方、AランクとBランクの合計では男性が73.1%、女性が73.5%で逆転する。

■性別（社会的満足度）

社会的満足度×性別

(n=3000)



回答しない n=11		女性 n=1593	男性 n=1396
■ A	11.2%	19.2%	21.2%
■ B	19.8%	12.8%	13.0%
■ C	65.1%	66.9%	62.8%
■ D	3.9%	1.1%	3.0%

Aランク・Bランクの合計は、男性（34.2%）が女性（32.0%）より高い。
一方、Dランクの割合も男性（3.0%）が女性（1.1%）よりわずかに高い。

■性別（経済的満足度）

経済的満足度×性別

(n=3000)



回答しない n=11		女性 n=1593	男性 n=1396
A	7.2%	13.3%	15.4%
B	32.6%	38.5%	37.2%
C	48.5%	45.0%	42.6%
D	11.7%	3.2%	4.8%

Aランク・Bランクの合計は、男性（52.6%）が女性（51.8%）より高い。
一方、Dランクの割合も男性（4.8%）が女性（3.2%）より高い。

■ 職業（総合満足度）

総合満足度×職業

(n=3000)



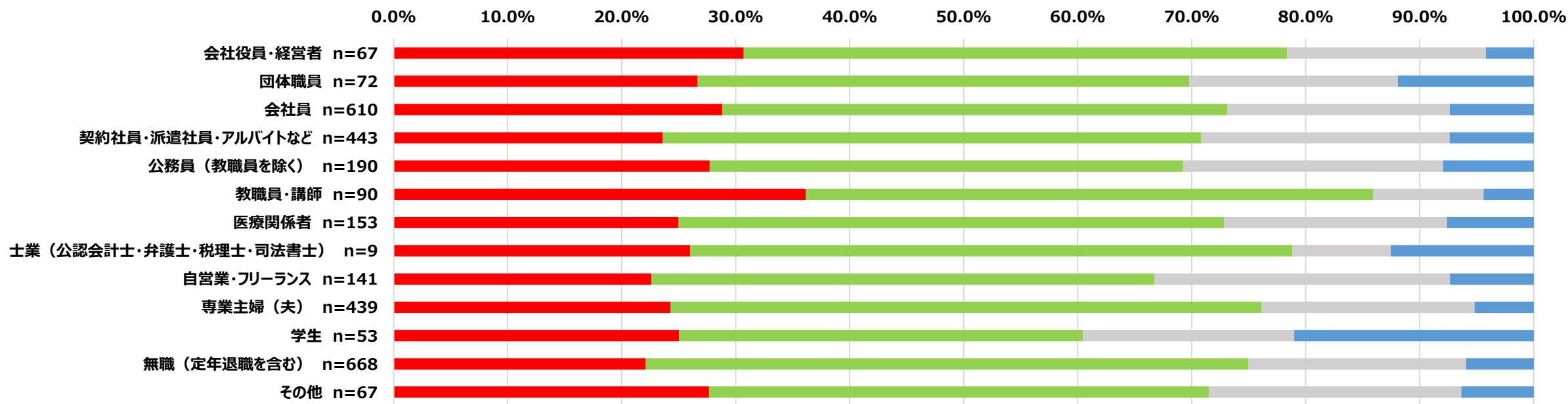
	その他 n=67	無職（定年退職を含む） n=668	学生 n=53	専業主婦（夫） n=439	自営業・フリーランス n=141	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士） n=9	医療関係者 n=153	教職員・講師 n=90	公務員（教職員を除く） n=190	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=443	会社員 n=610	団体職員 n=72	会社役員・経営者 n=67
■ A	14.7%	12.4%	13.4%	11.1%	16.4%	22.9%	10.6%	24.3%	16.3%	12.9%	15.7%	12.1%	21.5%
■ B	35.5%	37.4%	29.9%	40.8%	34.0%	32.1%	37.7%	43.0%	36.9%	35.7%	35.7%	38.3%	43.0%
■ C	44.6%	47.2%	44.4%	44.7%	44.7%	43.4%	46.5%	31.3%	41.2%	47.1%	42.7%	42.2%	34.0%
■ D	5.1%	2.9%	12.3%	3.4%	4.9%	1.7%	5.2%	1.4%	5.6%	4.2%	5.9%	7.5%	1.6%

Aランク・Bランクの合計が高いのは、「教職員・講師」（67.3%）、「会社役員・経営者」（64.5%）など。
一方、「学生」ではAランク・Bランクの合計が43.3%と最も低い。

■ 職業（居住地満足度）

居住地満足度×職業

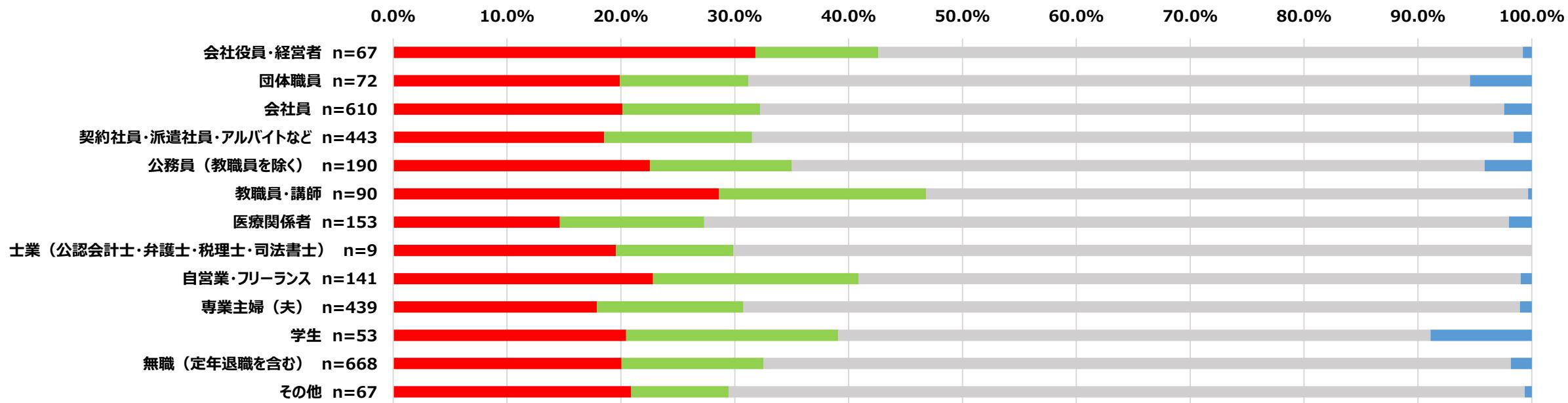
(n=3000)



	その他 n=67	無職（定年退職を含む） n=668	学生 n=53	専業主婦（夫） n=439	自営業・フリーランス n=141	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士） n=9	医療関係者 n=153	教職員・講師 n=90	公務員（教職員を除く） n=190	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=443	会社員 n=610	団体職員 n=72	会社役員・経営者 n=67
■ A	27.7%	22.1%	25.0%	24.3%	22.6%	26.0%	25.0%	36.1%	27.7%	23.6%	28.8%	26.7%	30.7%
■ B	43.8%	52.9%	35.4%	51.9%	44.1%	52.8%	47.8%	49.8%	41.5%	47.2%	44.3%	43.1%	47.7%
■ C	22.1%	19.1%	18.5%	18.7%	25.9%	8.6%	19.6%	9.7%	22.8%	21.8%	19.5%	18.3%	17.4%
■ D	6.3%	5.9%	21.0%	5.2%	7.4%	12.5%	7.6%	4.4%	8.0%	7.4%	7.4%	11.9%	4.2%

Aランク・Bランクの合計が高いのは、「教職員・講師」（85.9%）、「士業」（78.8%）、「会社役員・経営者」（78.4%）など。一方、こちらも「学生」でAランク・Bランクの合計が60.4%と最も低い。

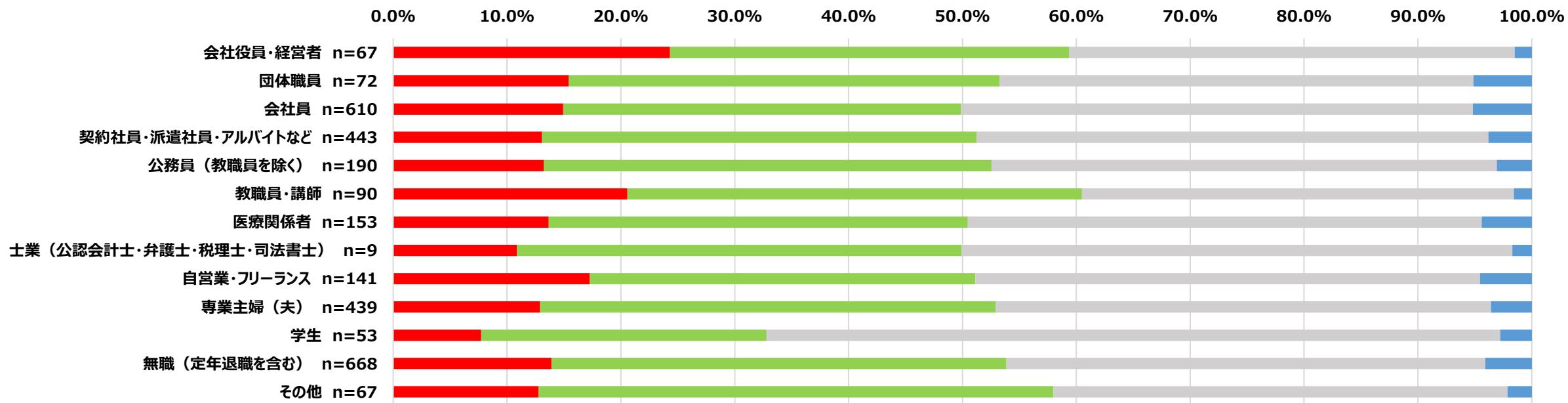
■ 職業（社会的満足度）

社会的満足度×職業
(n=3000)

	その他 n=67	無職（定年退職を含む）n=668	学生 n=53	専業主婦（夫）n=439	自営業・フリーランス n=141	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）n=9	医療関係者 n=153	教職員・講師 n=90	公務員（教職員を除く）n=190	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=443	会社員 n=610	団体職員 n=72	会社役員・経営者 n=67
■ A	20.9%	20.0%	20.5%	17.9%	22.8%	19.5%	14.6%	28.6%	22.5%	18.5%	20.1%	19.9%	31.8%
■ B	8.5%	12.5%	18.6%	12.9%	18.1%	10.3%	12.7%	18.2%	12.5%	13.0%	12.1%	11.3%	10.8%
■ C	69.9%	65.7%	52.0%	68.2%	58.2%	70.1%	70.7%	52.9%	60.8%	66.9%	65.3%	63.4%	56.6%
■ D	0.6%	1.8%	8.9%	1.0%	1.0%	0.0%	2.0%	0.3%	4.1%	1.6%	2.4%	5.4%	0.8%

Aランク・Bランクの合計が高いのは、「教職員・講師」（46.8%）、「会社役員・経営者」（42.6%）、「自営業・フリーランス」（40.9%）など。一方、「医療関係者」はAランク・Bランクの合計が27.3%と最も低い。

■ 職業（経済的満足度）

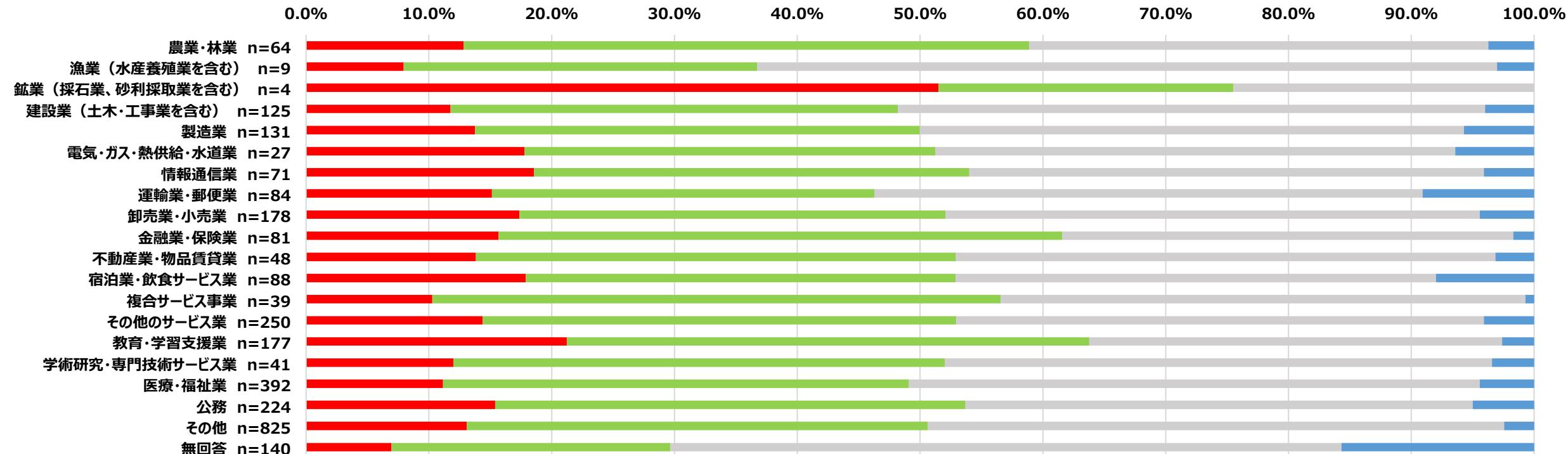
経済的満足度×職業
(n=3000)

	その他 n=67	無職（定年退職を含む）n=668	学生 n=53	専業主婦（夫）n=439	自営業・フリーランス n=141	士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）n=9	医療関係者 n=153	教職員・講師 n=90	公務員（教職員を除く）n=190	契約社員・派遣社員・アルバイトなど n=443	会社員 n=610	団体職員 n=72	会社役員・経営者 n=67
■ A	12.8%	13.9%	7.7%	12.9%	17.3%	10.9%	13.7%	20.6%	13.2%	13.1%	14.9%	15.4%	24.3%
■ B	45.2%	40.0%	25.1%	40.0%	33.9%	39.1%	36.8%	39.9%	39.3%	38.2%	35.0%	37.8%	35.1%
■ C	39.9%	42.0%	64.4%	43.5%	44.3%	48.4%	45.1%	37.9%	44.4%	44.9%	45.0%	41.6%	39.1%
■ D	2.1%	4.1%	2.8%	3.6%	4.6%	1.7%	4.4%	1.6%	3.1%	3.8%	5.2%	5.1%	1.5%

Aランク・Bランクの合計が高いのは、「教職員・講師」（60.5%）、「会社役員・経営者」（59.4%）など。
一方、「学生」はAランク・Bランクの合計が32.8%と最も低い。

総合満足度×業種
(n=3000)

■業種（総合満足度）

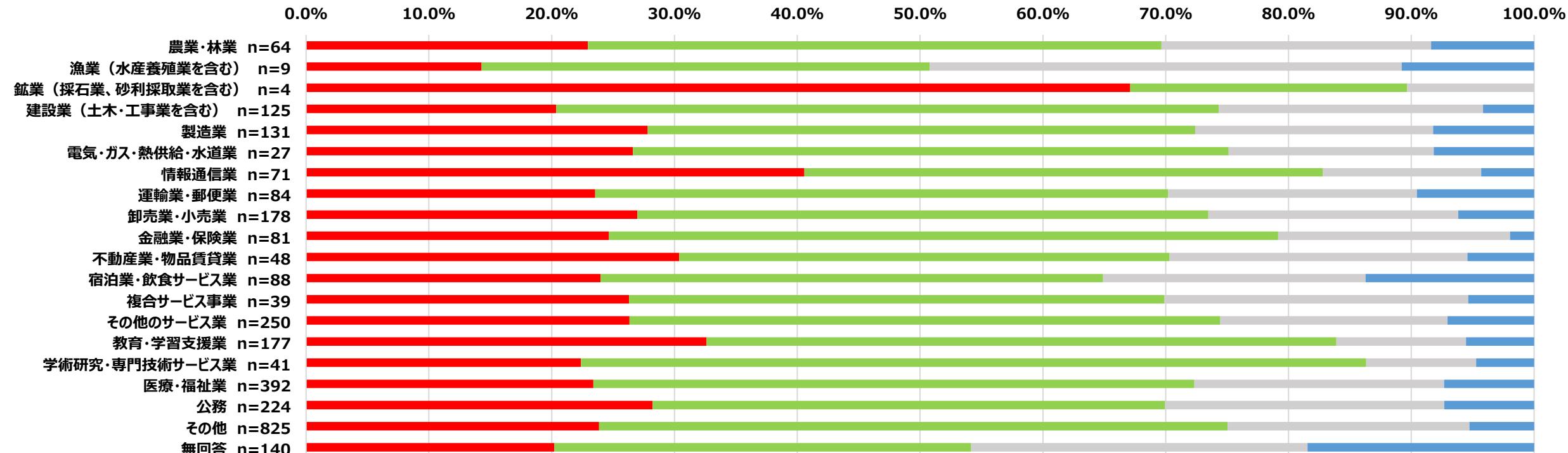


Aランク・Bランクの合計は、サンプルの少ない「鉱業」を除くと「教育・学習支援業」が63.7%で最も高い。
「宿泊業・飲食サービス業」のAランク・Bランクの合計は52.9%と全業種の平均程度である。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

居住地満足度×業種
(n=3000)

■業種 (居住地満足度)



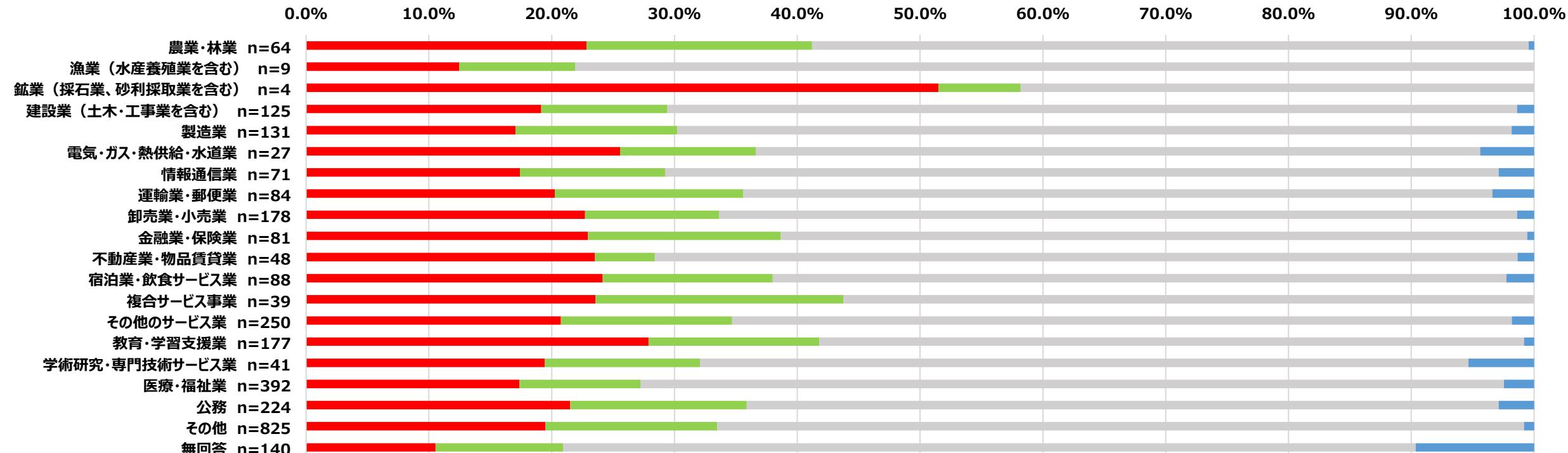
	無回答 n=140	その他 n=825	公務 n=224	医療・福祉 業 n=392	学術研究・ 専門技術 サービス業 n=41	教育・学習 支援業 n=177	その他のサー ビス業 n=250	複合サービス 事業 n=39	宿泊業・飲 食サービス業 n=88	不動産業・ 物品販賣業 n=48	金融業・保 険業 n=81	卸売業・小 売業 n=178	運輸業・郵 便業 n=84	情報通信業 n=71	電気・ガス・ 熱供給・水 道業 n=27	製造業 n=131	建設業（土 木・工事業を 含む） n=125	鉱業（採石 業、砂利採 取業を含 む） n=4	漁業（水産 養殖業を含 む） n=9	農業・林業 n=64
■A	20.2%	23.9%	28.2%	23.4%	22.4%	32.6%	26.3%	26.3%	24.0%	30.4%	24.7%	27.0%	23.5%	40.6%	26.6%	27.8%	20.4%	67.1%	14.3%	23.0%
■B	33.9%	51.2%	41.7%	48.9%	63.9%	51.3%	48.1%	43.6%	40.9%	39.9%	54.5%	46.5%	46.6%	42.2%	48.5%	44.6%	54.0%	22.6%	36.5%	46.7%
■C	27.4%	19.7%	22.7%	20.4%	8.9%	10.6%	18.5%	24.7%	21.4%	24.3%	18.9%	20.4%	20.3%	12.9%	16.7%	19.4%	21.5%	10.3%	38.5%	22.0%
■D	18.4%	5.3%	7.3%	7.3%	4.7%	5.5%	7.1%	5.4%	13.7%	5.4%	2.0%	6.2%	9.5%	4.3%	8.2%	8.2%	4.2%	0.0%	10.8%	8.4%

「宿泊業・飲食サービス業」のAランク・Bランクの合計は、64.9%と他業種より低い傾向がある。
また、Dランクの割合も13.7%となっており、「無回答」を除く全業種で最も高い。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

社会的満足度×業種
(n=3000)

■業種（社会的満足度）



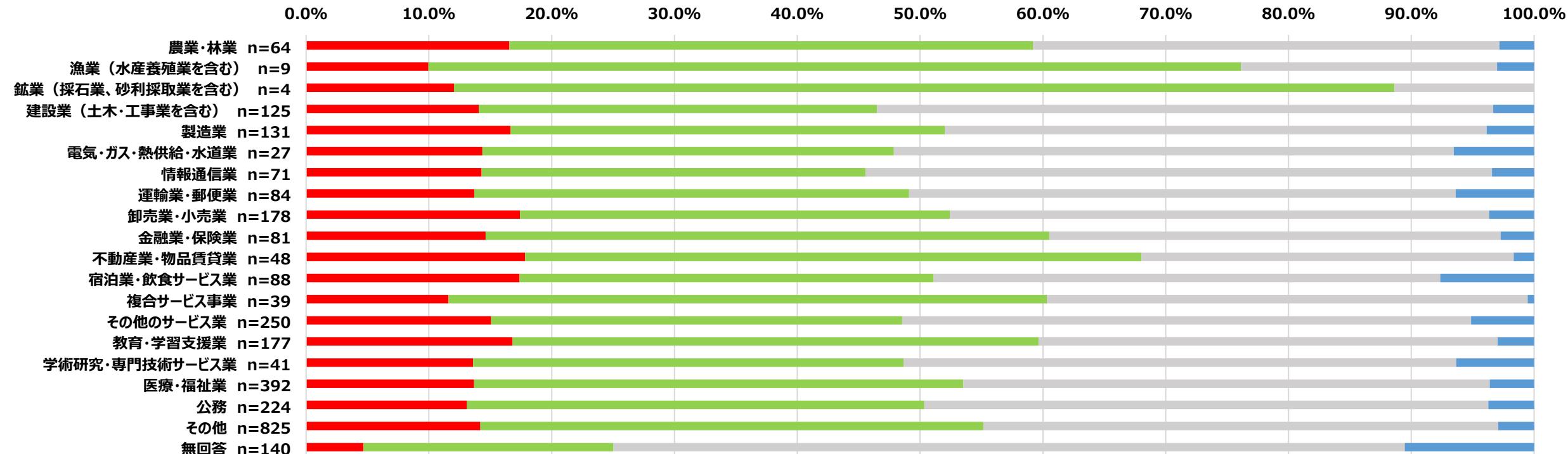
	無回答 n=140	その他 n=825	公務 n=224	医療・福祉 業 n=392	学術研究・ 専門技術 サービス業 n=41	教育・学習 支援業 n=177	その他のサー ビス業 n=250	複合サービス 事業 n=39	宿泊業・飲 食サービス業 n=88	不動産業・ 物品賃貸業 n=48	金融業・保 険業 n=81	卸売業・小 売業 n=178	運輸業・郵 便業 n=84	情報通信業 n=71	電気・ガス・ 熱供給・水 道業 n=27	建設業（土 木・工事業を 含む） n=125	鉱業（採石 業、砂利採 取業を含 む） n=4	漁業（水産 養殖業を含 む） n=9	農業・林業 n=64	
■A	10.5%	19.5%	21.5%	17.4%	19.4%	27.9%	20.7%	23.6%	24.2%	23.5%	23.0%	22.7%	22.3%	17.4%	25.6%	17.0%	19.1%	51.5%	12.5%	22.8%
■B	10.4%	14.0%	14.4%	9.8%	12.6%	13.9%	14.0%	20.2%	13.8%	4.9%	15.7%	10.9%	15.3%	11.8%	11.1%	13.2%	10.3%	6.7%	9.5%	18.4%
■C	69.4%	65.7%	61.2%	70.3%	62.6%	57.4%	63.5%	56.2%	59.8%	70.2%	60.8%	65.0%	61.0%	67.9%	59.0%	67.9%	69.2%	41.8%	78.1%	58.3%
■D	9.6%	0.8%	2.9%	2.5%	5.3%	0.8%	1.8%	0.0%	2.3%	1.3%	0.5%	1.4%	3.4%	2.9%	4.4%	1.8%	1.4%	0.0%	0.0%	0.4%

Aランク・Bランクの合計は、サンプルの少ない「鉱業」を除くと「複合サービス事業」が43.8%で最も高く、次いで「教育・学習支援業」(41.8%)、「農業・林業」(41.2%)が高い。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

経済的満足度×業種
(n=3000)

■業種（経済的満足度）



	無回答 n=140	その他 n=825	公務 n=224	医療・福祉 業 n=392	学術研究・ 専門技術 サービス業 n=41	教育・学習 支援業 n=177	その他のサー ビス業 n=250	複合サービス 事業 n=39	宿泊業・飲 食サービス業 n=88	不動産業・ 物品賃貸業 n=48	金融業・保 険業 n=81	卸売業・小 売業 n=178	運輸業・郵 便業 n=84	情報通信業 n=71	電気・ガス・ 熱供給・水 道業 n=27	製造業 n=131	建設業（土 木・工事業を 含む） n=125	鉱業（採石 業、砂利採 取業を含 む） n=4	漁業（水産 養殖業を含 む） n=9	農業・林業 n=64
■A	4.7%	14.2%	13.1%	13.7%	13.6%	16.8%	15.1%	11.6%	17.4%	17.8%	14.6%	17.4%	13.7%	14.3%	14.4%	16.7%	14.1%	12.0%	10.0%	16.6%
■B	20.4%	41.0%	37.3%	39.8%	35.1%	42.8%	33.5%	48.7%	33.7%	50.2%	45.9%	35.0%	35.4%	31.3%	33.5%	35.4%	32.4%	76.6%	66.2%	42.7%
■C	64.4%	41.9%	45.9%	42.9%	45.0%	37.4%	46.3%	39.2%	41.3%	30.3%	36.8%	43.9%	44.5%	51.0%	45.6%	44.1%	50.2%	11.4%	20.9%	38.0%
■D	10.5%	2.9%	3.7%	3.6%	6.3%	3.0%	5.1%	0.5%	7.7%	1.7%	2.7%	3.7%	6.4%	3.4%	6.5%	3.9%	3.3%	0.0%	3.0%	2.8%

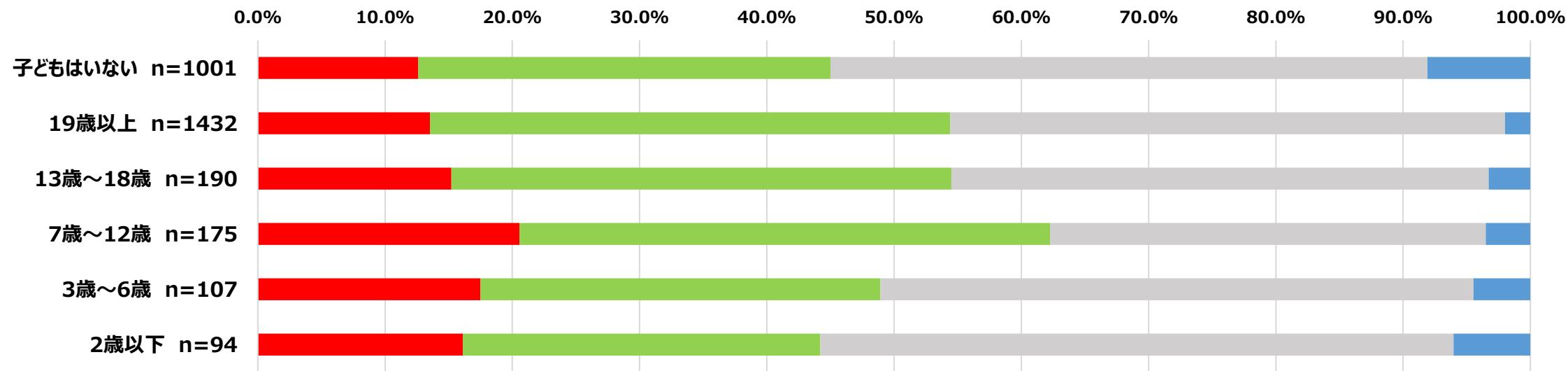
Aランク・Bランクの合計は、サンプルの少ない「鉱業」「漁業」を除くと「不動産業・物品賃貸業」が68.0%で最も高い一方、「宿泊業・飲食サービス業」は51.1%と他業種と比べて顕著に高いわけではない。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

■ 末子年齢層（総合満足度）

総合満足度×末子年齢層

(n=3000)



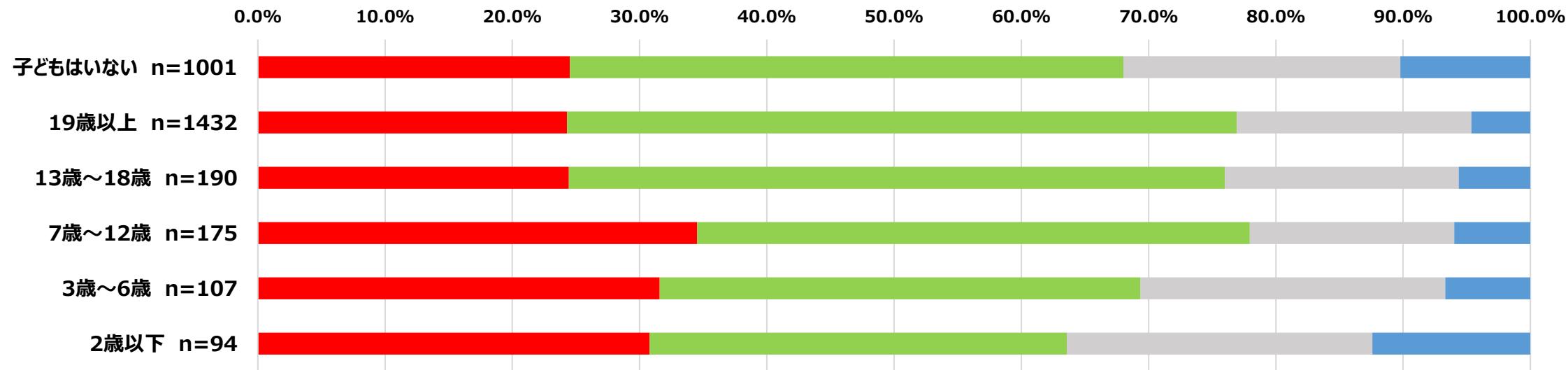
	2歳以下 n=94	3歳～6歳 n=107	7歳～12歳 n=175	13歳～18歳 n=190	19歳以上 n=1432	子どもはない n=1001
■ A	16.1%	17.5%	20.6%	15.2%	13.5%	12.6%
■ B	28.1%	31.4%	41.7%	39.3%	40.9%	32.4%
■ C	49.8%	46.6%	34.2%	42.2%	43.6%	46.9%
■ D	6.0%	4.5%	3.5%	3.3%	2.0%	8.1%

Aランク・Bランクの合計は、「7歳～12歳」で62.3%と最も高い一方、「2歳以下」（44.2%）、「子どもはない」（45.0%）で低くなっている。

■ 末子年齢層（居住地満足度）

居住地満足度×末子年齢層

(n=3000)

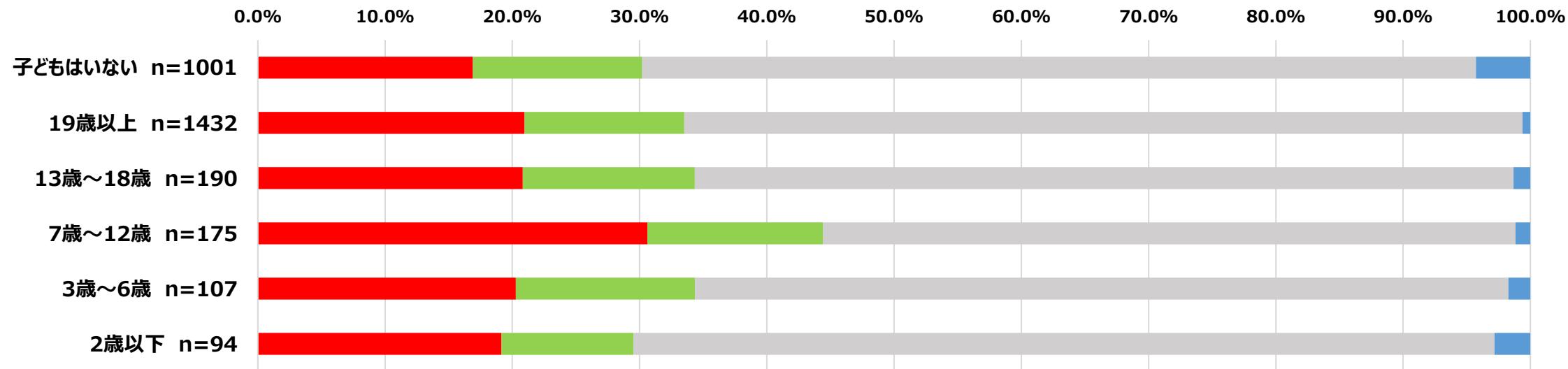


Aランク・Bランクの合計は、「7歳～12歳」「13歳～18歳」「19歳以上」で各70%以上と高い一方、「2歳以下」「3歳～6歳」「子どもはいない」では60%台である。現住所での居住年数と関係している可能性がある。

■ 末子年齢層（社会的満足度）

社会的満足度×末子年齢層

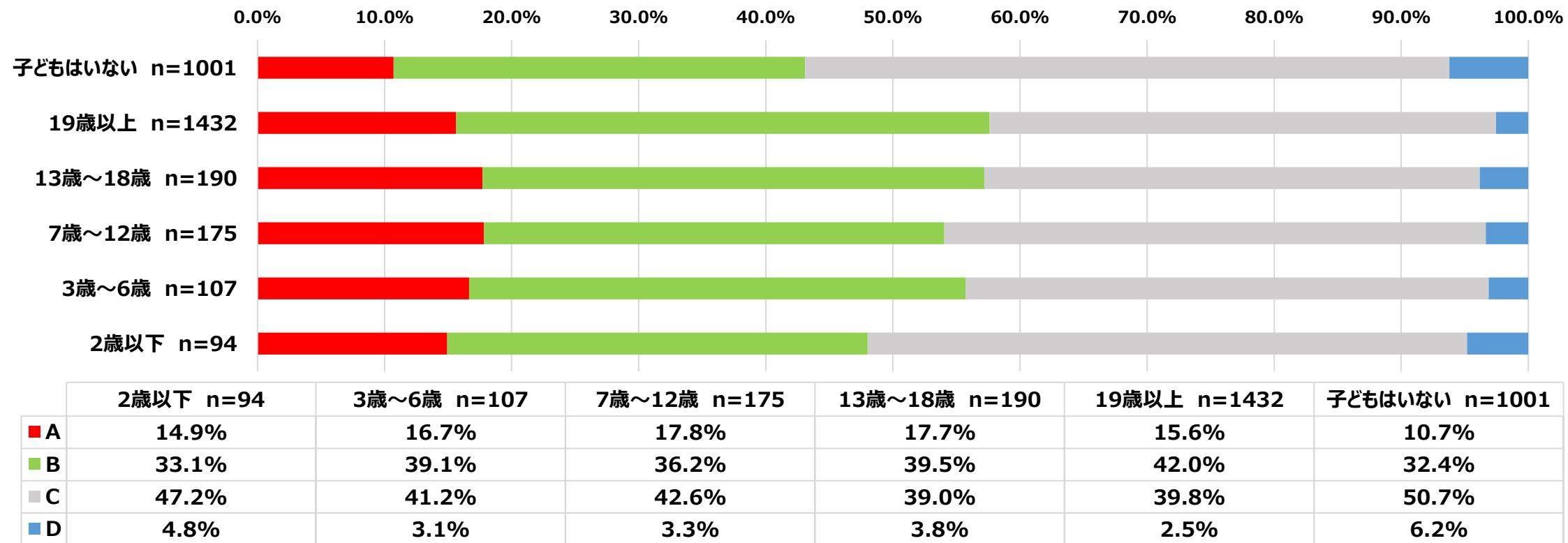
(n=3000)



	2歳以下 n=94	3歳～6歳 n=107	7歳～12歳 n=175	13歳～18歳 n=190	19歳以上 n=1432	子どもはない n=1001
■ A	19.1%	20.3%	30.6%	20.8%	21.0%	16.9%
■ B	10.4%	14.1%	13.8%	13.5%	12.5%	13.3%
■ C	67.7%	63.9%	54.4%	64.3%	65.9%	65.5%
■ D	2.8%	1.7%	1.2%	1.3%	0.6%	4.3%

Aランク・Bランクの合計は、「7歳～12歳」で44.4%と突出して高い一方、「2歳以下」で29.5%と最も低くなっている。

■ 末子年齢層（経済的満足度）

経済的満足度×末子年齢層
(n=3000)

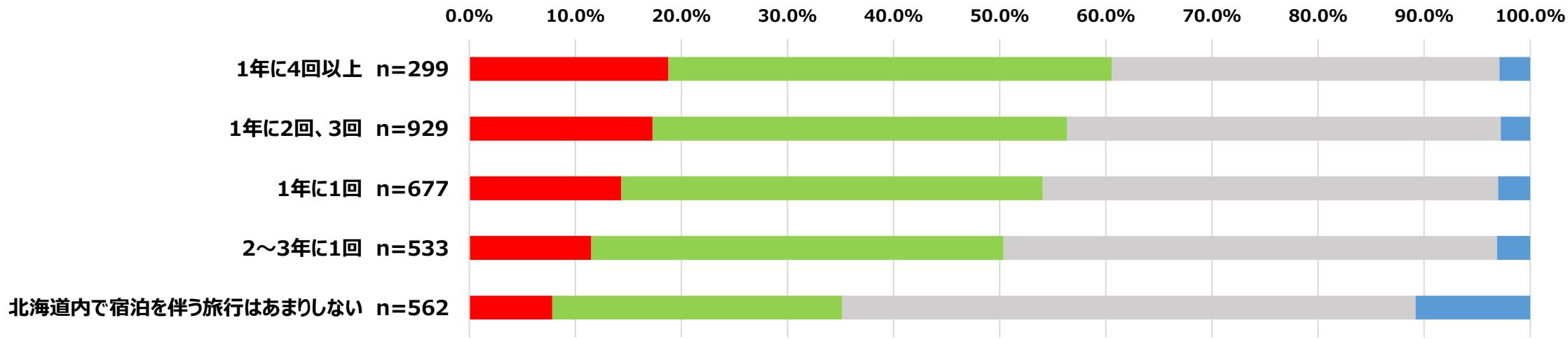
Aランク・Bランクの合計は、3歳以上の4カテゴリが50%を超える一方、「2歳以下」「子どもはいない」で40%台と低くなっている。年代と関連している可能性もある。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。

■道内宿泊旅行頻度（総合満足度）

総合満足度×道内宿泊旅行頻度

(n=3000)

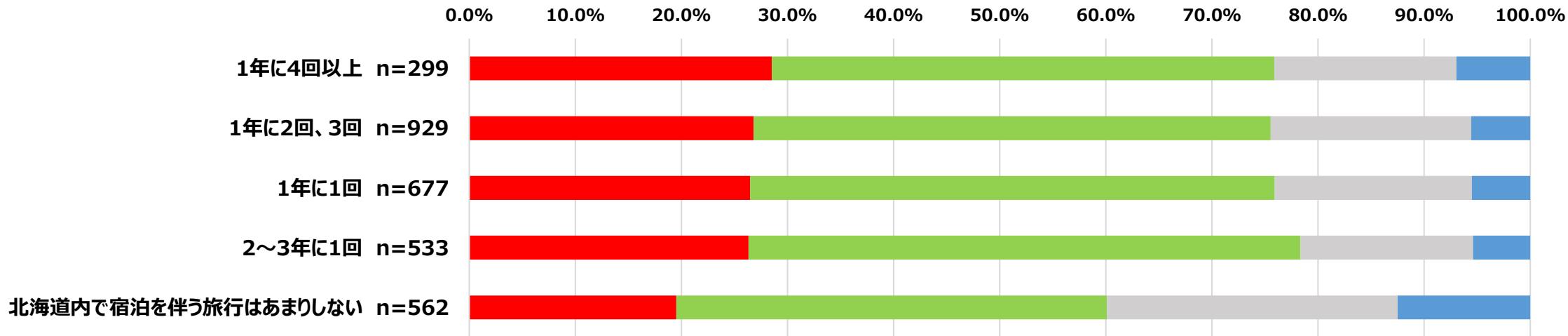


北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=562	2～3年に1回 n=533	1年に1回 n=677	1年に2回、3回 n=929	1年に4回以上 n=299
■ A 7.8%	11.5%	14.3%	17.3%	18.8%
■ B 27.3%	38.9%	39.7%	39.1%	41.8%
■ C 54.0%	46.5%	42.9%	40.9%	36.6%
■ D 10.8%	3.1%	3.0%	2.8%	2.9%

Aランク・Bランクの合計は、旅行頻度が最も高い「1年に4回以上」が60.6%と最も高く、旅行頻度が下がるに従って低くなる。

■道内宿泊旅行頻度（居住地満足度）

居住地満足度×道内宿泊旅行頻度
(n=3000)

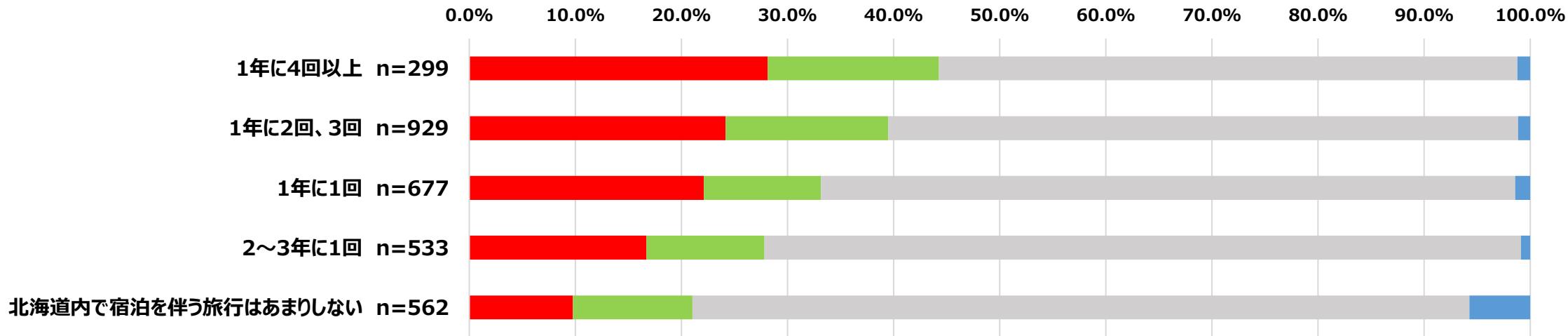


	北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=562	2~3年に1回 n=533	1年に1回 n=677	1年に2回、3回 n=929	1年に4回以上 n=299
A	19.5%	26.3%	26.5%	26.8%	28.5%
B	40.6%	52.0%	49.5%	48.7%	47.4%
C	27.4%	16.2%	18.6%	18.9%	17.2%
D	12.5%	5.4%	5.5%	5.6%	7.0%

Aランク・Bランクの合計は、「2~3年に1回」以上のすべてのカテゴリで70%以上と高い一方、「宿泊を伴う旅行はあまりしない」層では60.1%と突出して低い。

■道内宿泊旅行頻度（社会的満足度）

社会的満足度×道内宿泊旅行頻度
(n=3000)



	北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=562	2～3年に1回 n=533	1年に1回 n=677	1年に2回、3回 n=929	1年に4回以上 n=299
A	9.8%	16.7%	22.1%	24.2%	28.1%
B	11.3%	11.1%	11.0%	15.3%	16.1%
C	73.2%	71.3%	65.4%	59.4%	54.5%
D	5.7%	0.9%	1.4%	1.1%	1.2%

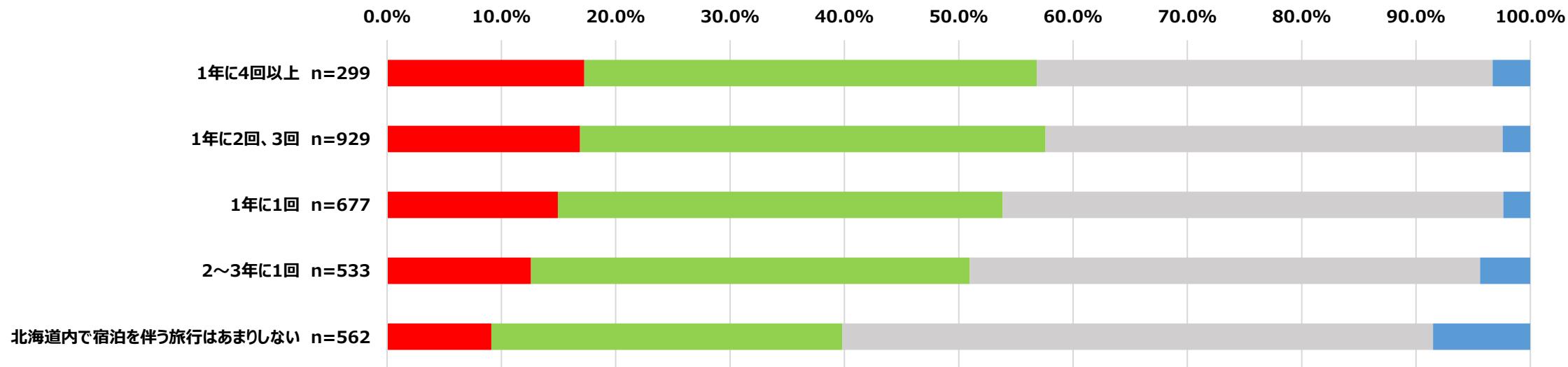
総合満足度とほぼ同じ傾向がみられる。

Aランク・Bランクの合計は、旅行頻度が最も高い「1年に4回以上」が44.2%と最も高く、旅行頻度が下がるに従って低くなる。

■道内宿泊旅行頻度（経済的満足度）

経済的満足度×道内宿泊旅行頻度

(n=3000)

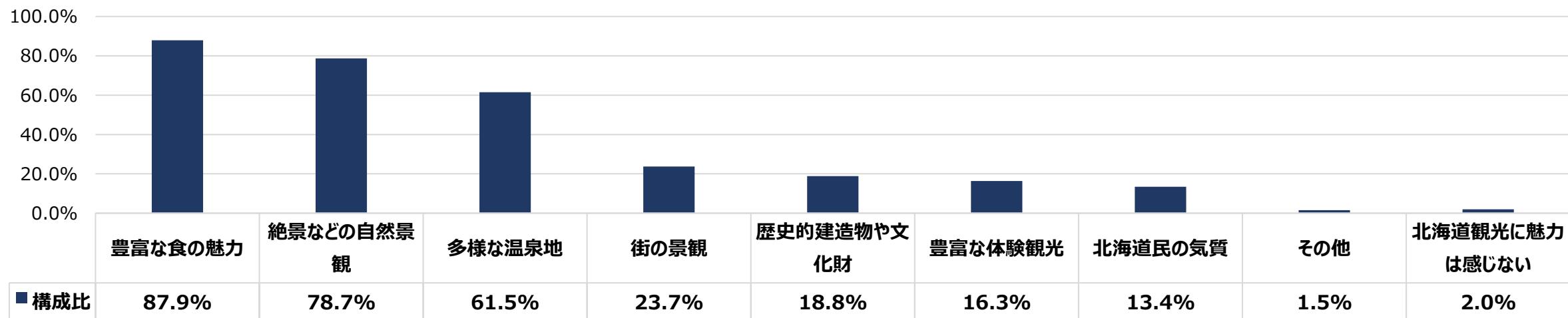


	北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない n=562	2~3年に1回 n=533	1年に1回 n=677	1年に2回、3回 n=929	1年に4回以上 n=299
■ A	9.1%	12.6%	14.9%	16.9%	17.3%
■ B	30.7%	38.4%	38.9%	40.7%	39.6%
■ C	51.7%	44.6%	43.8%	40.0%	39.9%
■ D	8.5%	4.4%	2.4%	2.4%	3.3%

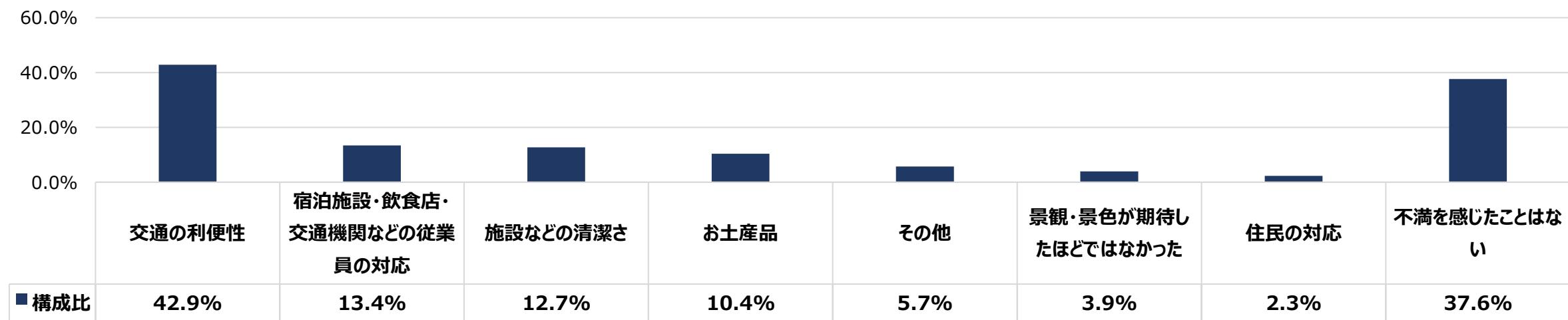
居住地満足度と同じく、Aランク・Bランクの合計は、「宿泊を伴う旅行はあまりしない」層が39.8%と突出して低くなっている。

2 単純集計結果

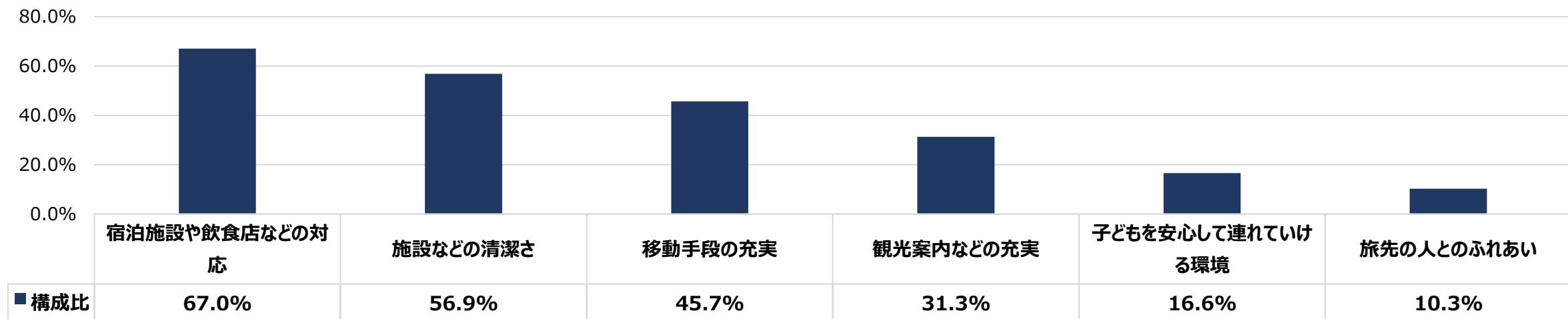
北海道観光の魅力



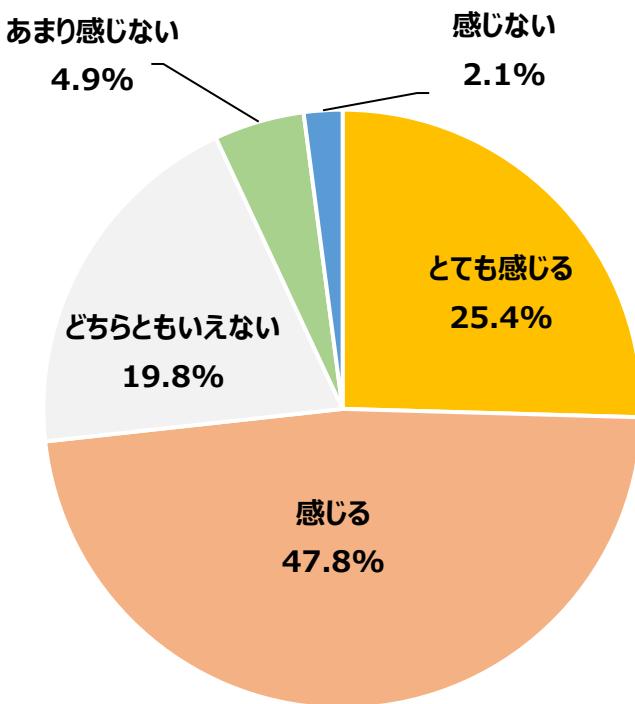
北海道内を観光して不満を感じたこと



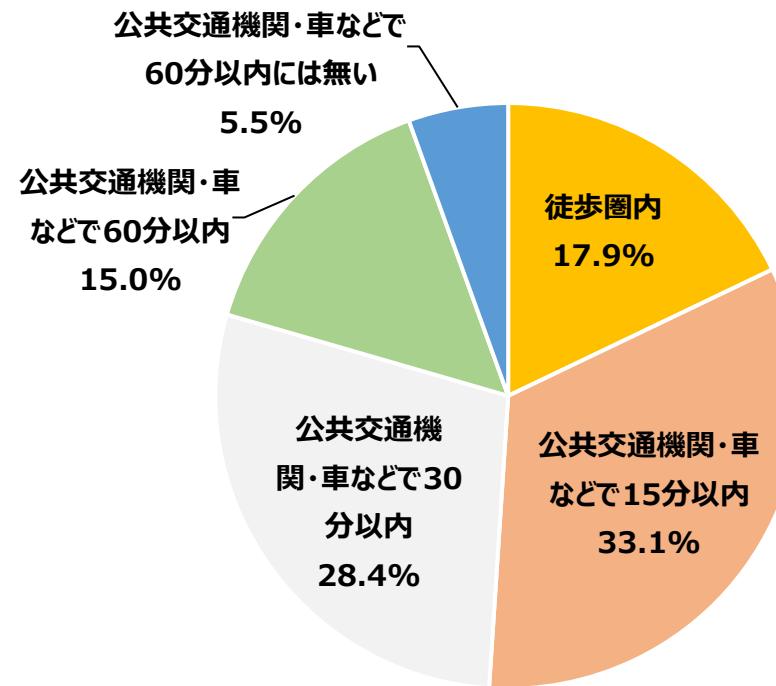
旅先で重要視する要素



お住まいの地域に愛着や誇りを感じますか



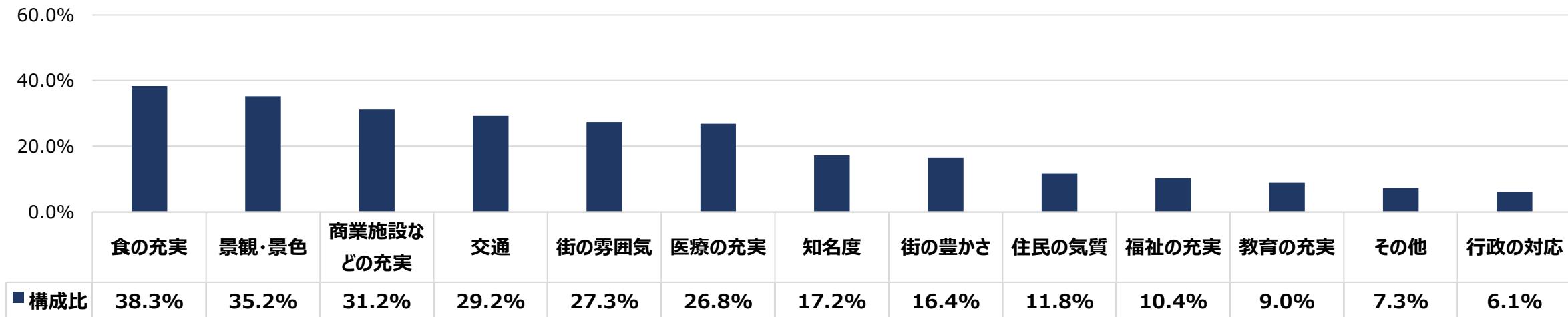
お住まいから一番近い観光スポットや施設までの距離



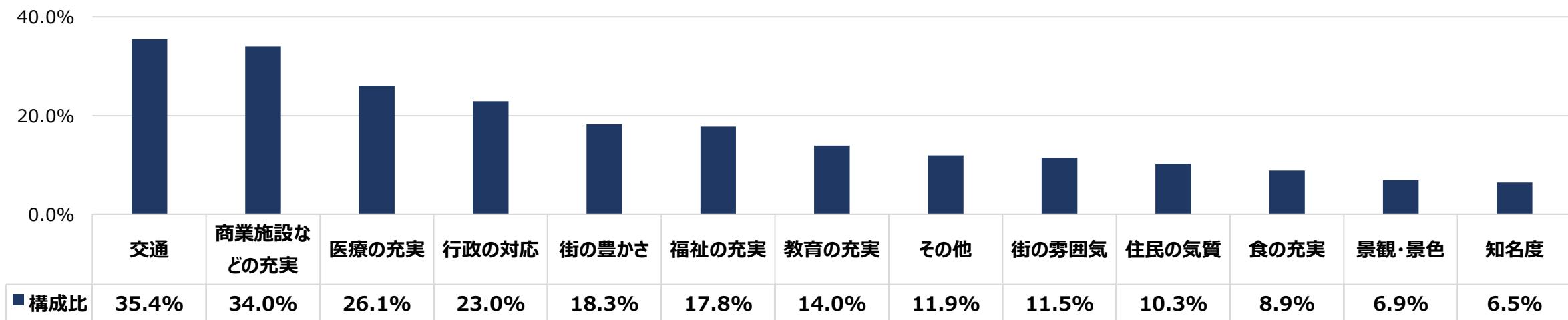
※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

	人数	構成比
徒歩圏内	537	17.9%
公共交通機関・車などで15分以内	994	33.1%
公共交通機関・車などで30分以内	853	28.4%
公共交通機関・車などで60分以内	450	15.0%
公共交通機関・車などで60分以内には無い	165	5.5%
総計	3,000	100.0%

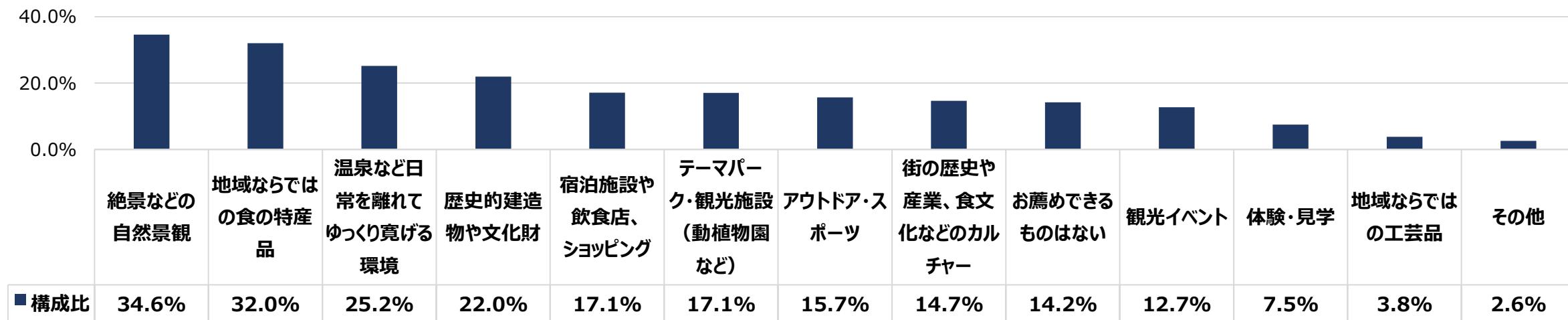
お住まいの地域に「満足」しているポイント



お住まいの地域に「不満」を感じているポイント

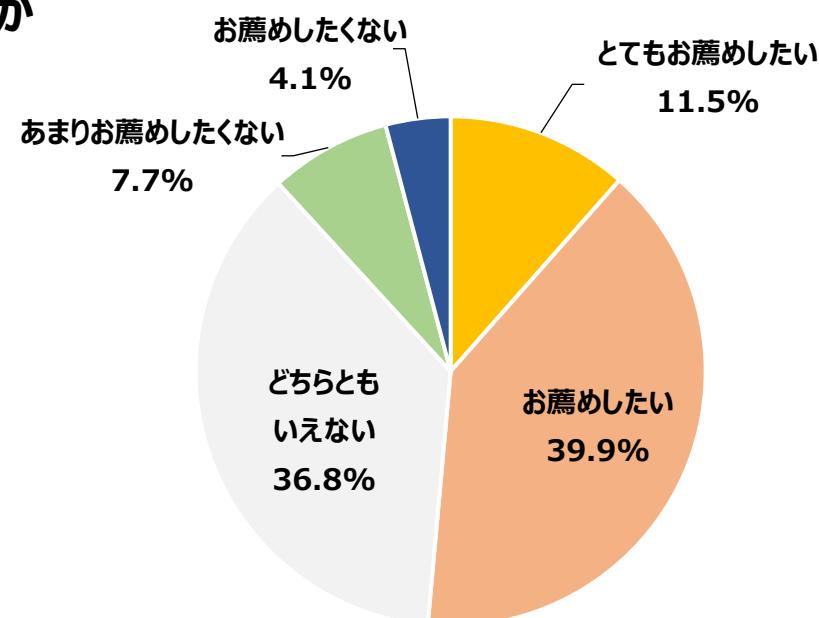


お住まいの市町村や近隣で、観光客にお薦めできるもの



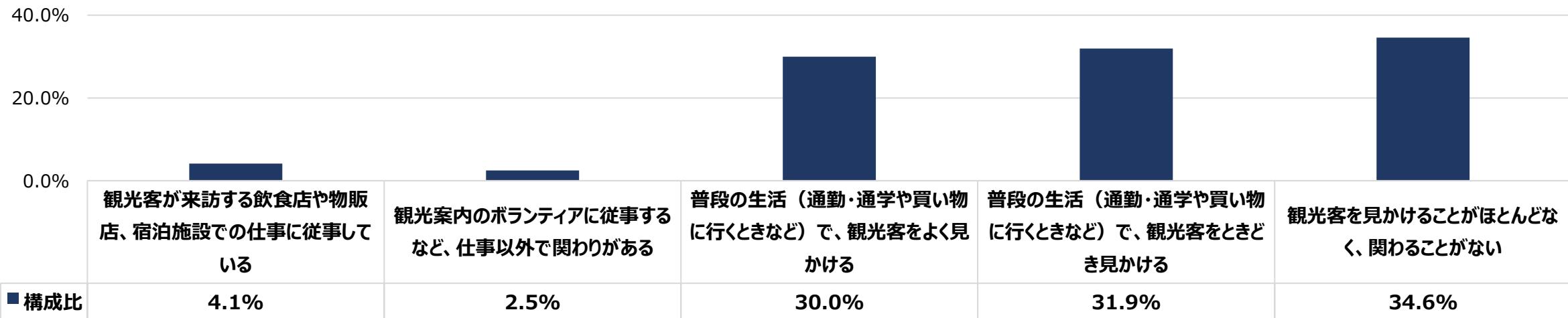
親類・友人・知人などに、お住まいの地域の観光をお薦めしたいですか

	人数	構成比
とてもお薦めしたい	345	11.5%
お薦めしたい	1,198	39.9%
どちらともいえない	1,103	36.8%
あまりお薦めしたくない	231	7.7%
お薦めしたくない	123	4.1%
総計	3,000	100.0%



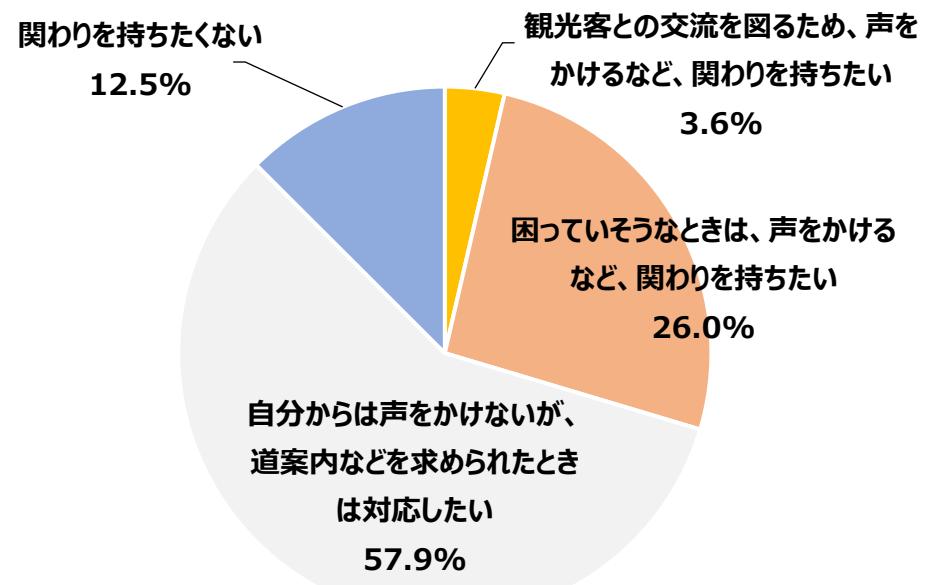
※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

普段、観光客との関わりはありますか



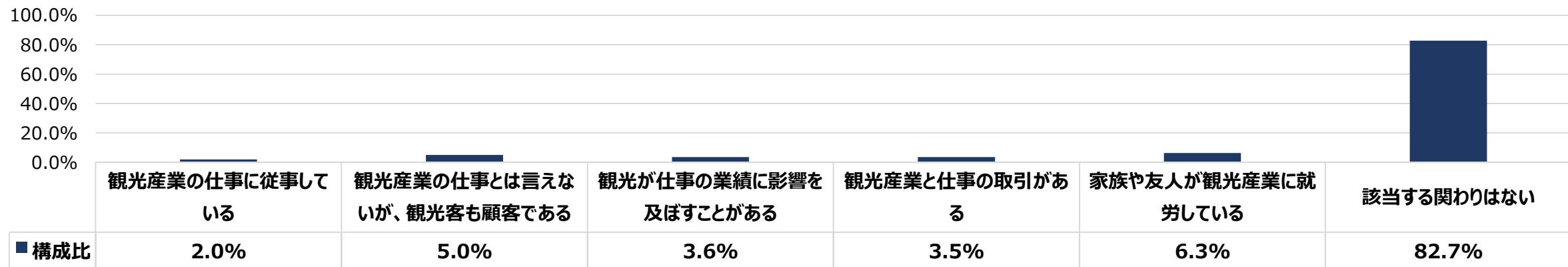
観光客と関わりを持ちたいと思いますか

	人数	構成比
観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	108	3.6%
困っているときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	780	26.0%
自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	1,736	57.9%
関わりを持ちたくない	375	12.5%
総計	3,000	100.0%

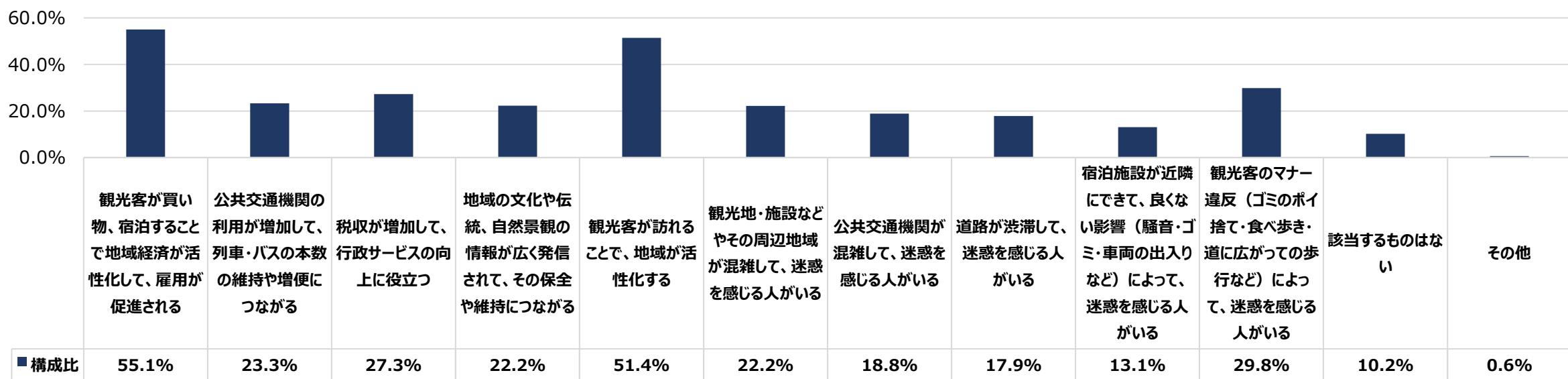


※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

観光産業との関わりはありますか

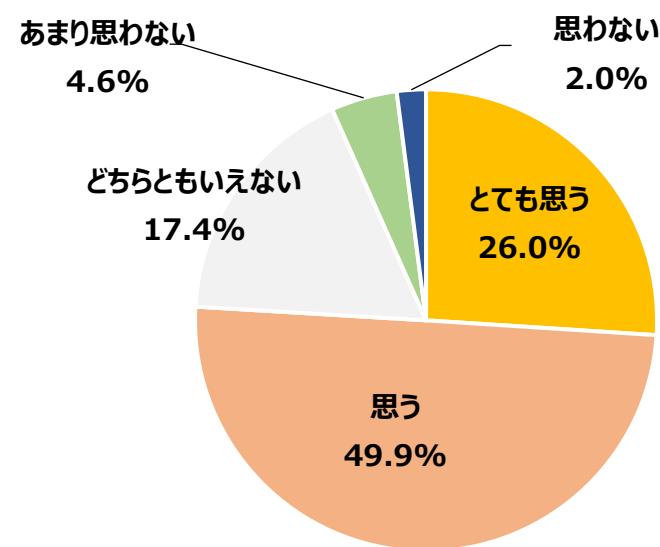


あなたが考える「観光が地域にもたらす影響」



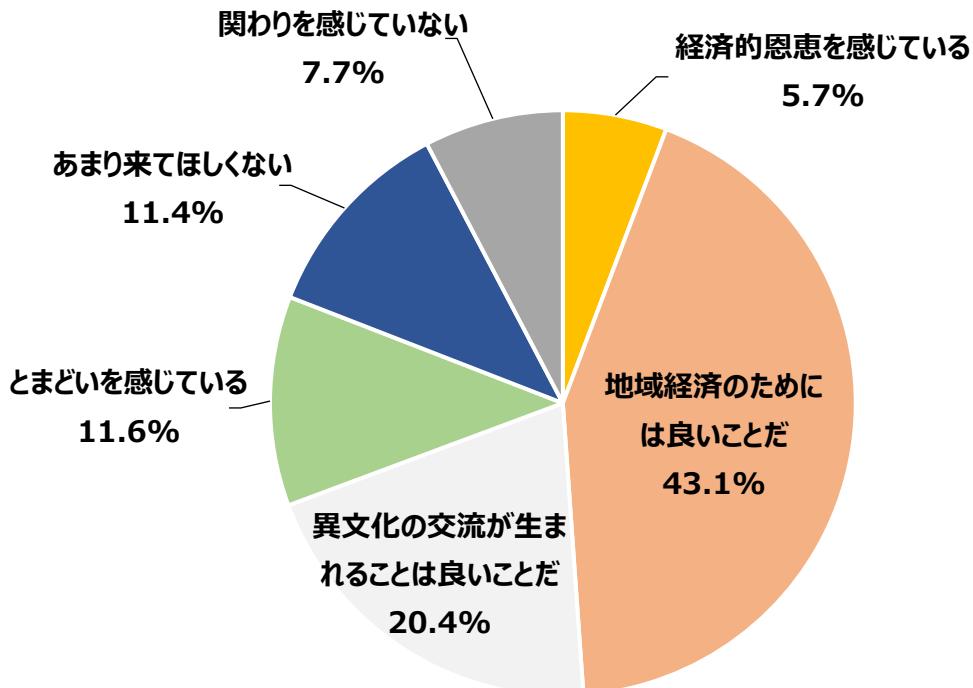
地域の経済発展に、観光が重要な役割を果たしていると思いますか

	人数	構成比
とても思う	781	26.0%
思う	1,498	49.9%
どちらともいえない	522	17.4%
あまり思わない	139	4.6%
思わない	61	2.0%
総計	3,000	100.0%



訪日外国人観光客が増えることについて、どう感じていますか

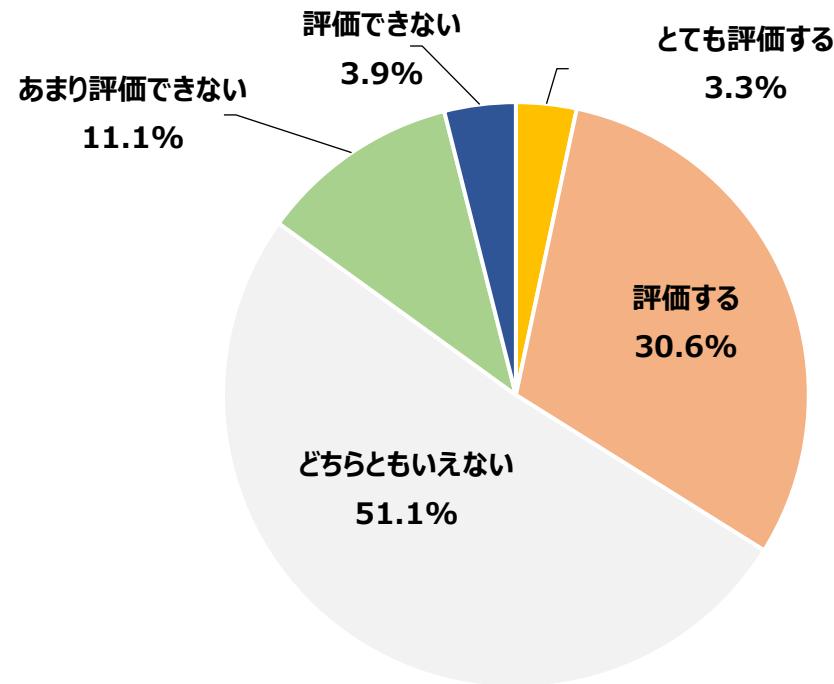
	人数	構成比
経済的恩恵を感じている	172	5.7%
地域経済のためには良いことだ	1,294	43.1%
異文化の交流が生まれることは良いことだ	613	20.4%
とまどいを感じている	347	11.6%
あまり来てほしくない	342	11.4%
関わりを感じていない	231	7.7%
総計	3,000	100.0%



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

観光に関する地域の行政や観光協会、経済界の取り組みについて、あなたの評価を教えてください

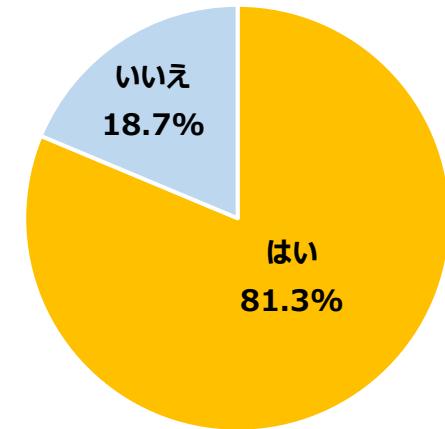
	人数	構成比
とても評価する	100	3.3%
評価する	917	30.6%
どちらともいえない	1,532	51.1%
あまり評価できない	333	11.1%
評価できない	118	3.9%
総計	3,000	100.0%



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

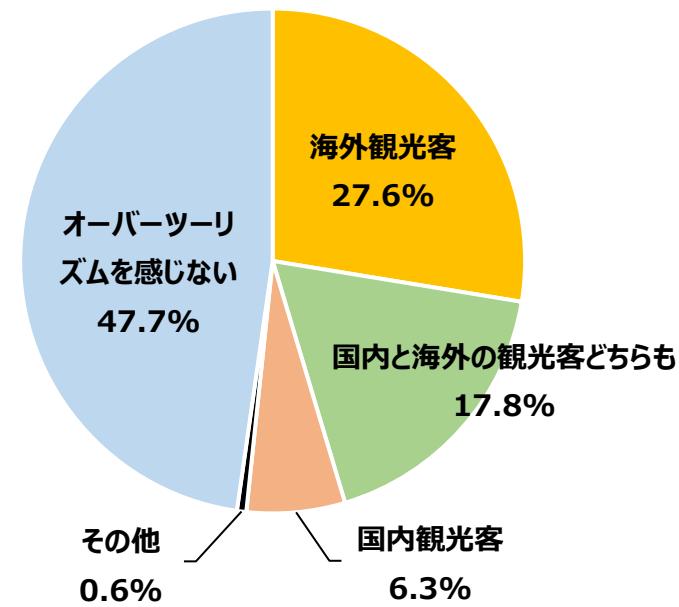
あなたは、「オーバーツーリズム」という言葉を知っていましたか

	人数	構成比
はい	2,439	81.3%
いいえ	561	18.7%
総計	3,000	100.0%



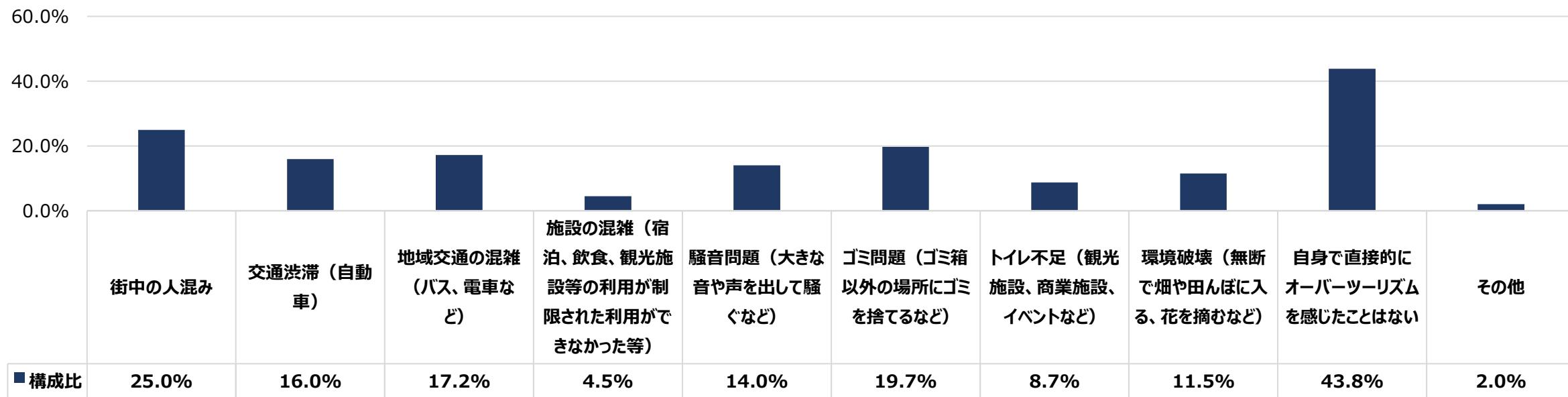
お住まいの地域の「オーバーツーリズム」は、国内または海外どちらの観光客によるものですか

	人数	構成比
海外観光客	828	27.6%
国内と海外の観光客どちらも	534	17.8%
国内観光客	189	6.3%
その他	18	0.6%
オーバーツーリズムを感じない	1,432	47.7%
総計	3,000	100.0%



※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

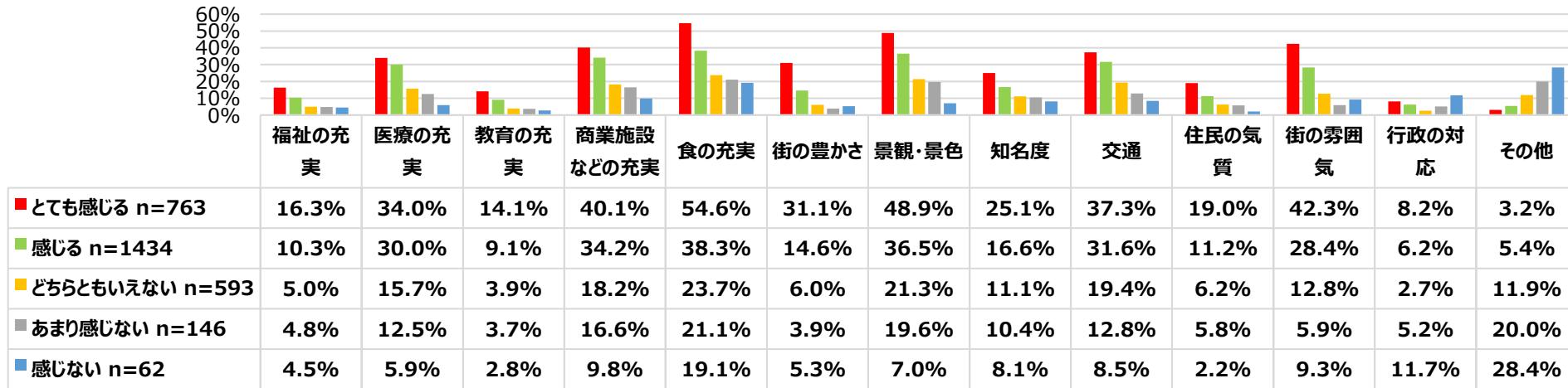
お住まいの地域で、あなたが体験した「オーバーツーリズム」



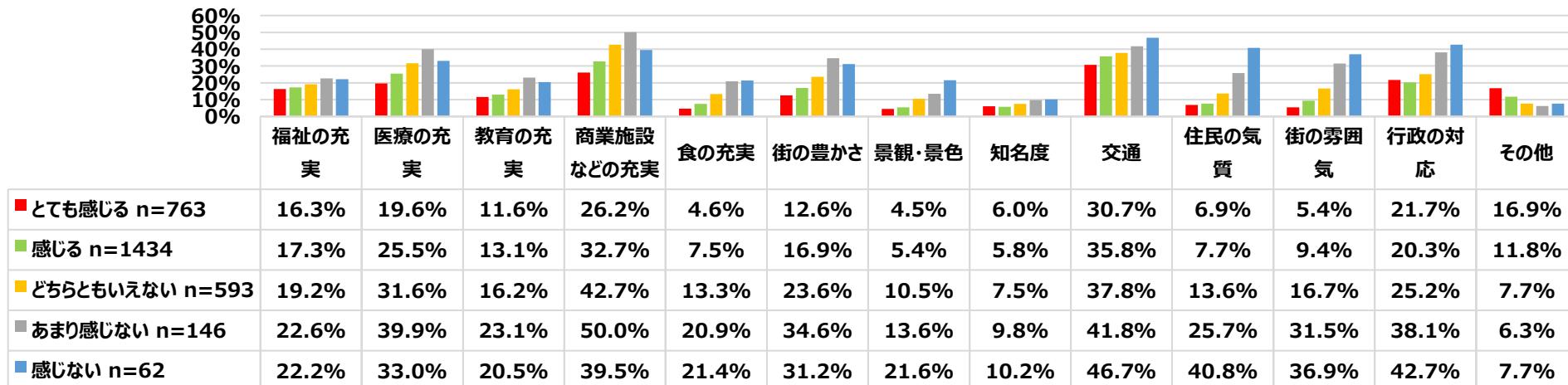
3 クロス集計分析

3-1 満足度形成要因の抽出①居住地満足度

居住地への愛着心×お住まいの地域の「満足」ポイント【MA】 (居住地愛着心 回答者数比) n=3000



居住地への愛着心×お住まいの地域の「不満」ポイント【MA】 (居住地愛着心 回答者数比) n=3000



※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

居住地への「愛着・誇り」を示す居住地満足度の形成要因の抽出を目的に、「居住地への愛着や誇りを感じるか」への回答内容と、地域への「満足ポイント（複数回答）」「不満ポイント（複数回答）」とでクロス集計分析を行った。

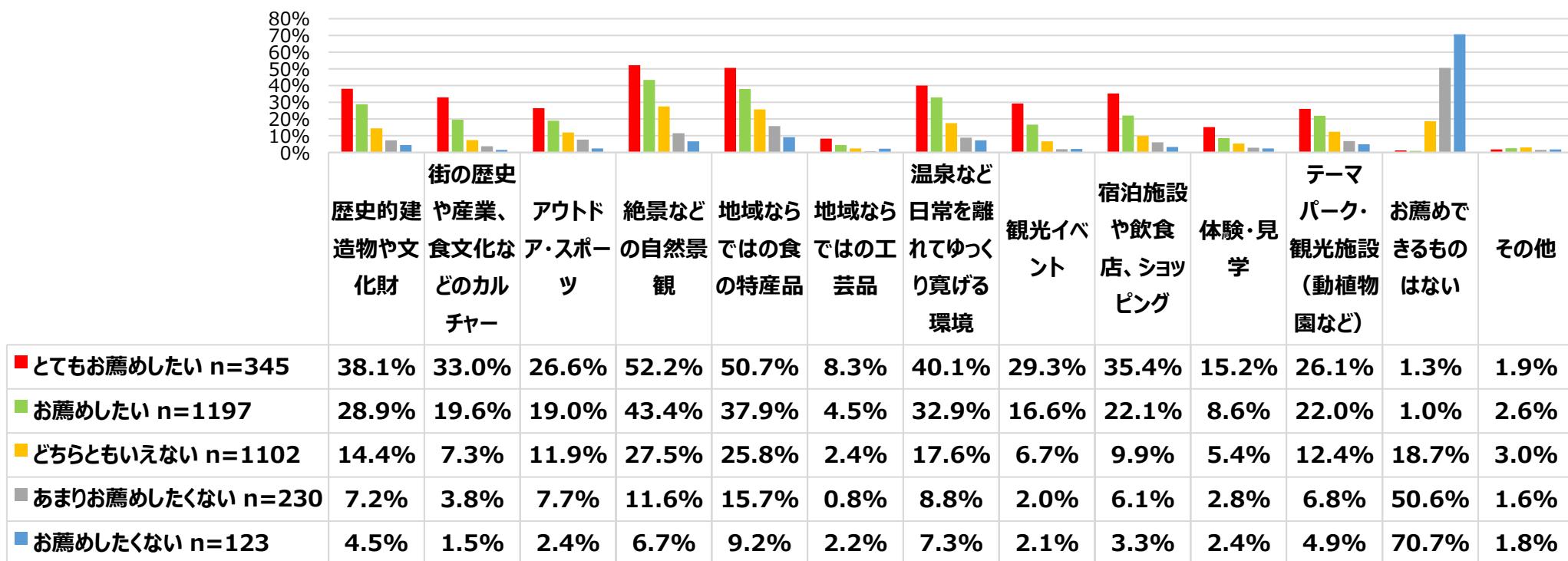
分母は「居住地への愛着心」の回答者数。

「満足」ポイントでは、居住地への愛着・誇りを「とても感じる」と回答した層で「食の充実」「景観・景色」「街の雰囲気」などが高くなっている。

一方、「不満」ポイントでは、「交通」「行政の対応」など「生活利便性」に直結する要因が「感じない」の回答者で高くなっている。

お住まいの地域の観光をお薦めしたいか×お住まいの地域周辺で観光客にお薦めできるもの【MA】

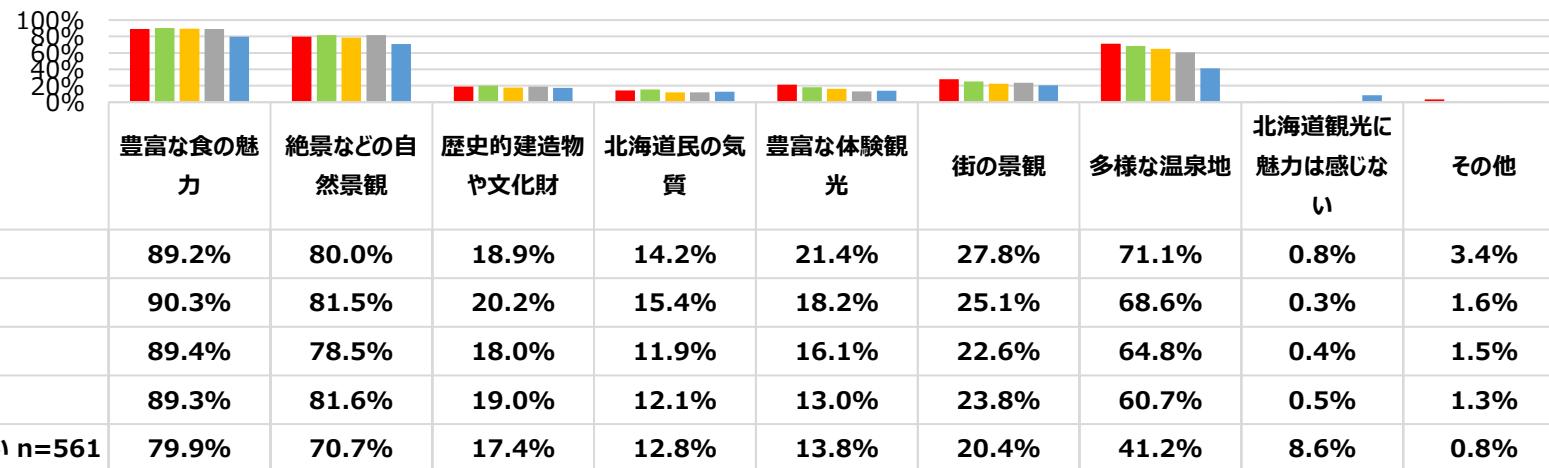
(居住地愛着心 回答者数比) n=3000



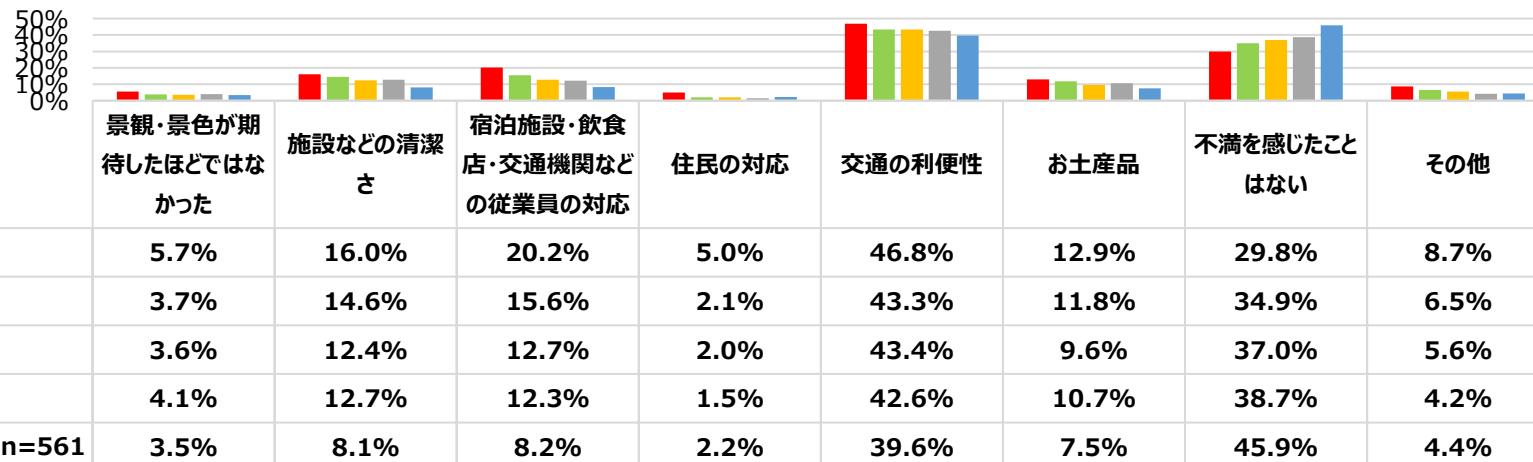
社会的満足度の構成要素である「居住地域の観光推奨度（お住まいの地域の観光をお薦めしたいか）」の要因を探るため、「お住まいの地域周辺で観光客にお薦めできるもの（複数回答）」とのクロス集計分析を行った。分母は「居住地域の観光推奨度」。「絶景などの自然景観」「地域ならではの食の特産品」「温泉など日常を離れてゆっくり寛げる環境」が「とてもお薦めしたい」と回答した層で40%を超える上位3回答を占めた。

3-2 満足度形成要因の抽出②社会的満足度 2/4

道内で宿泊旅行する頻度×北海道観光の魅力【MA】 (道内宿泊旅行頻度 回答者数比) n=3000



道内で宿泊旅行する頻度×北海道観光で不満を感じたこと【MA】 (道内宿泊旅行頻度 回答者数比) n=3000



※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

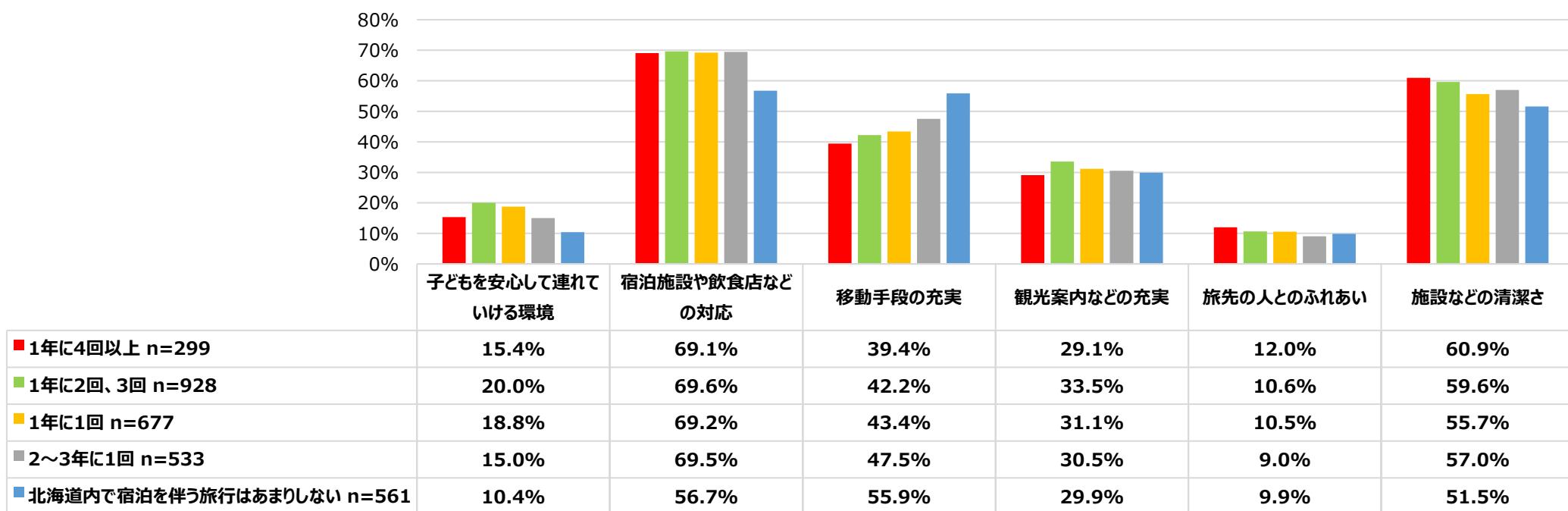
社会的満足度に「個人の道内宿泊旅行頻度（習慣）」が影響を及ぼしているとの仮説の下、「道内宿泊旅行頻度」と「北海道観光の魅力（複数回答）」「北海道観光で不満を感じたこと（複数回答）」のクロス集計分析を行った。分母は「道内宿泊旅行頻度」の回答者数。

「北海道観光の魅力」では、「多様な温泉地」「豊富な体験観光」で旅行頻度が高い層ほど評価が高くなっている。一方、「北海道観光で不満を感じたこと」では「交通の利便性」「宿泊施設・飲食店・交通機関などの従業員の対応」で旅行頻度の高い層の不満度が高くなっている。

また、旅行頻度が低いほど「不満を感じたことはない」と回答する割合が高い。

道内で宿泊旅行する頻度×旅で重要視する要素【MA】

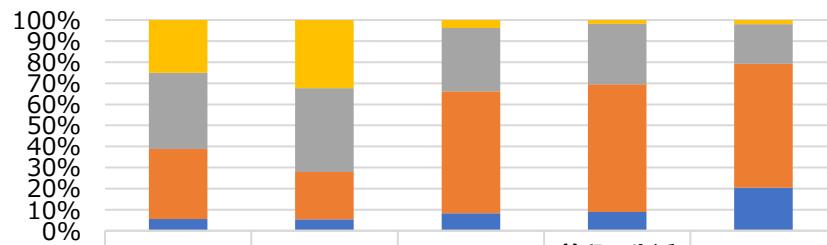
(道内宿泊旅行頻度 回答者数比) n=3000



同様に道内宿泊旅行頻度回答者ごとに、「旅で重要視する要素（複数回答）」を見た。
「施設などの清潔さ」「旅先の人とのふれあい」は旅行頻度が高いほど、回答率が上がる傾向。
「移動手段の充実」は逆に旅行頻度が低い層で回答率が高い傾向がみられる。
「子どもを安心して連れていく環境」「観光案内などの充実」は「1年に2回、3回」の層が最も高い。

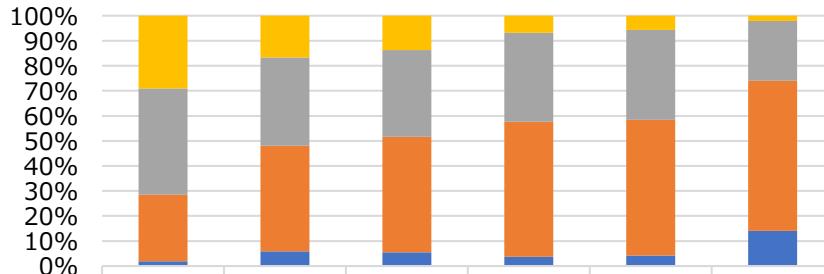
3-2 満足度形成要因の抽出②社会的満足度 4/4

観光客との関わり意向×観光客との関わり【MA】
(観光客との関わり 回答者数比)



観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	25.1%	32.3%	3.7%	1.8%	1.9%
困っているときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	36.1%	39.9%	30.0%	28.7%	18.8%
自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	33.3%	22.4%	58.0%	60.6%	58.8%
関わりを持ちたくない	5.5%	5.4%	8.2%	8.8%	20.4%

観光客との関わり意向×観光産業との関わり【MA】
(観光産業との関わり 回答者数比)



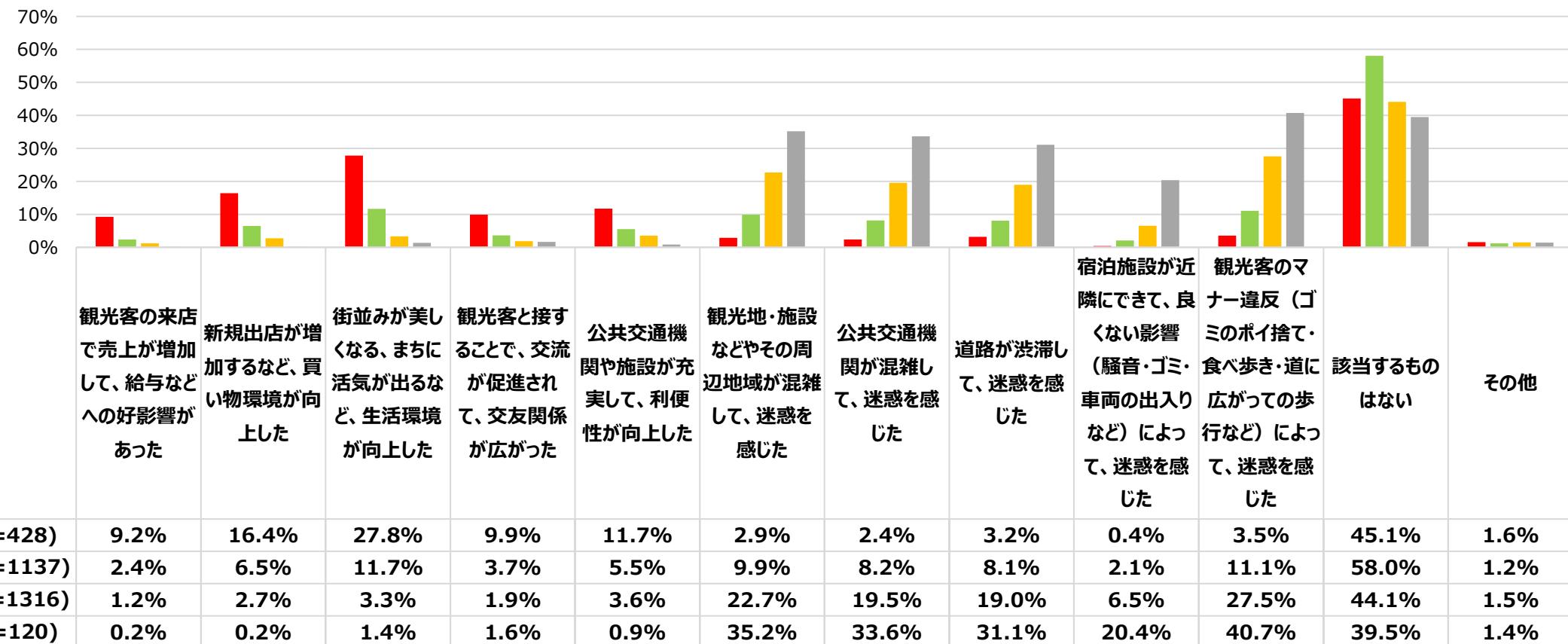
観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい	16.6%	13.7%	6.9%	5.7%	2.1%
困っているときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい	35.3%	34.6%	35.4%	35.9%	23.9%
自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい	42.2%	46.2%	54.0%	54.2%	59.9%
関わりを持ちたくない	5.9%	5.5%	3.7%	4.2%	14.1%

社会的満足度の構成要素である「観光客との関わり意向」について、影響を及ぼし得る要因として「観光客との関わり」と「観光産業との関わり」の影響を見た。仕事やボランティア等で日常的にかかわる層で関わり意向が強い一方、「普段の生活でよく見かける」以下の層では関わり意向は強くない。一方、「関わりを持ちたくない」と回答した層は「観光客を見かけない、関わることがない」層でも2割程度にとどまっている。

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

経済的満足度×観光の自身への影響【MA】

(経済的満足度 回答者数比) n=3000



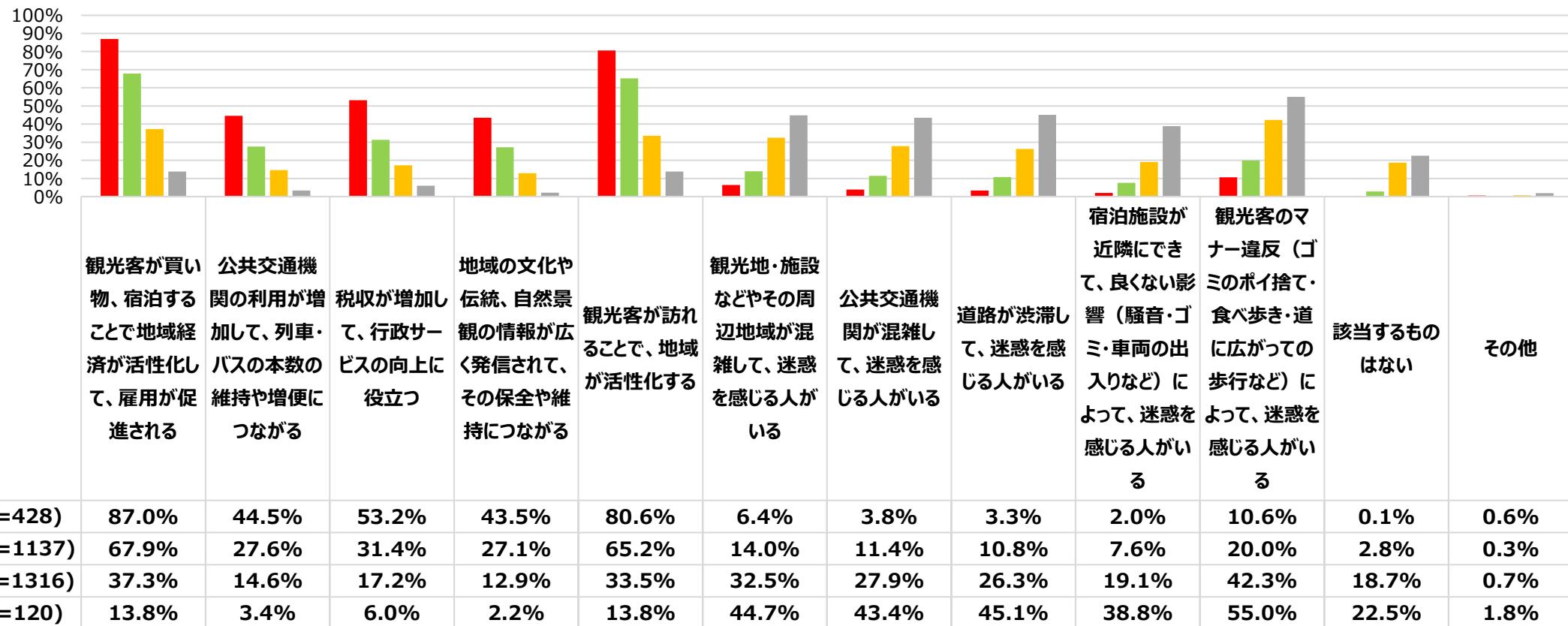
経済的満足度の構成要因検証のため、「観光の自身への影響」を経済的満足度のランク毎に見た。

経済的満足度Aの回答者では「町並みが美しくなる、まちに活気が出るなど生活環境の向上」への評価が突出して高い。

一方、経済的満足度C・Dの回答者では、「観光地周辺や公共交通機関、道路の混雑・迷惑」などのオーバーツーリズムに関する回答が多くなっている。

経済的満足度×観光の地域への影響【MA】

(経済的満足度 回答者数比) n=3000

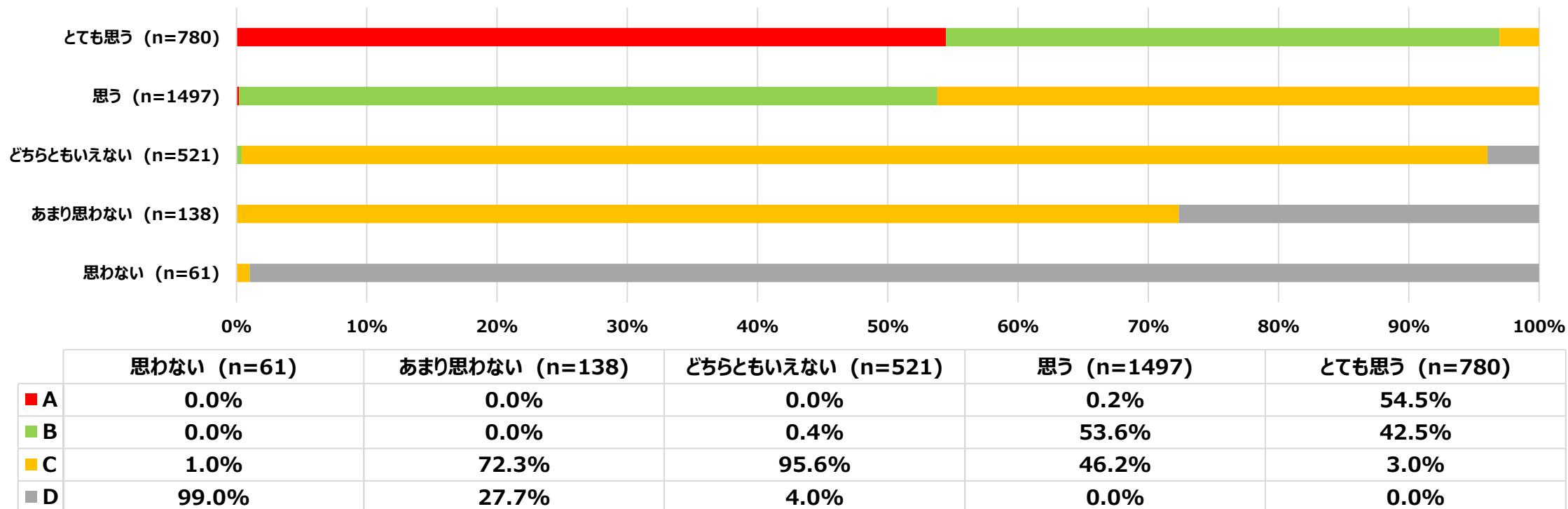


同様に「観光の地域への影響」を「経済的満足度」のランク毎に見た。

Aランクでは、「雇用の促進」「地域活性化」と回答した割合が特に高い一方、Dランクでは、「マナー違反」「混雑」などの負の影響を回答した層がそれぞれ3~5割存在する。

経済的満足度×観光の地域経済への重要度

(観光の地域経済への重要度 回答者数比) n=3000



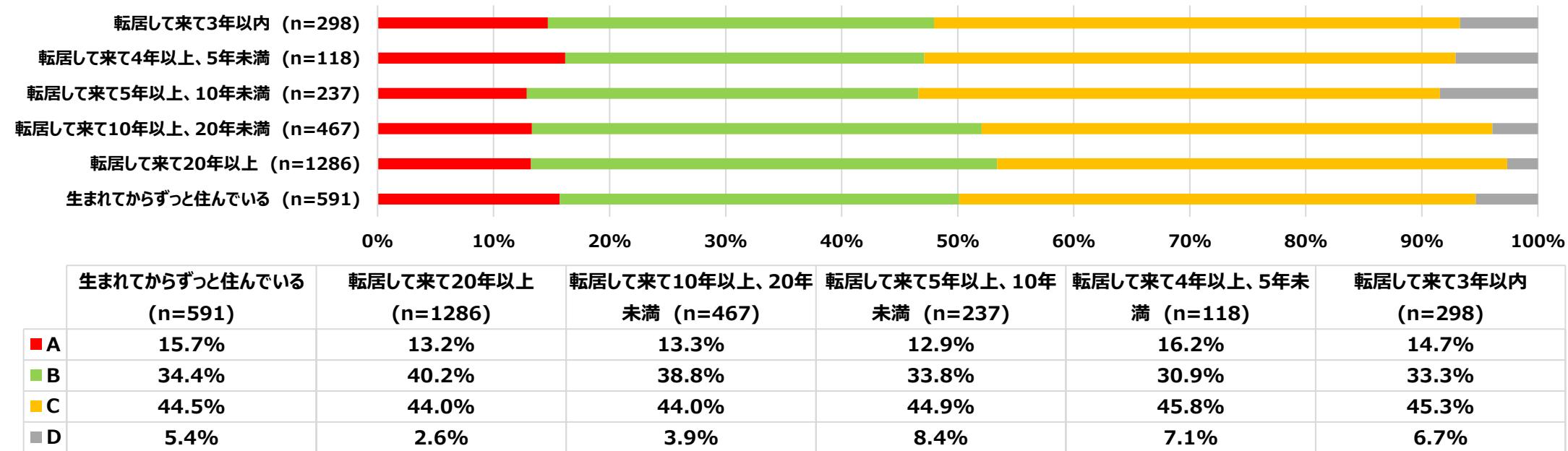
経済的満足度の構成要因検証のため、「観光の地域経済への重要度」の回答者に対する経済的満足度ランクの構成比を見た。

経済的満足度Aランクの回答者は「とても思う」がほとんどである。

もっとも数の多い「思う」と回答した層ではBランク、Cランクがそれぞれ半数程度となっている。

総合満足度×現自治体での居住年数

(現自治体での居住年数 回答者数比) n=3000

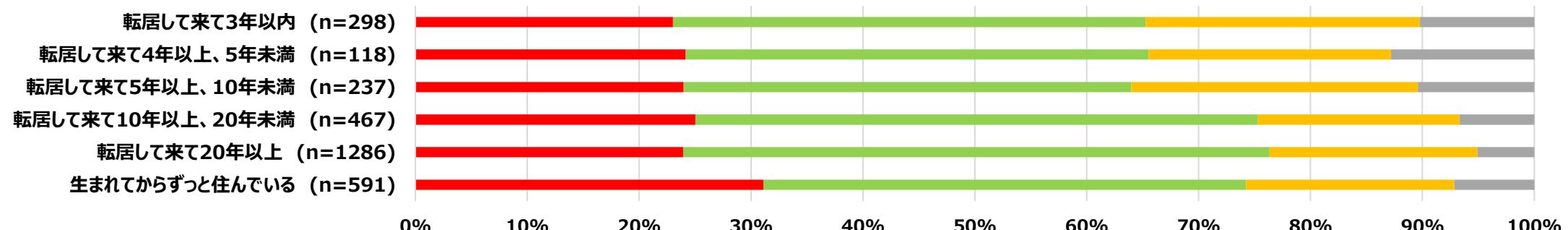


現自治体での居住年数と総合満足度の関係を見た。

転居してきて10年以上の3カテゴリではAランク・Bランクの合計が50%を超えるが、10年未満の3カテゴリでは40%台にとどまっており、転居後10年を境として若干の差がみられる。

居住地満足度×現自治体での居住年数

(現自治体での居住年数 回答者数比) n=3000



	生まれてからずっと住んでいる (n=591)	転居して来て20年以上 (n=1286)	転居して来て10年以上、20年未満 (n=467)	転居して来て5年以上、10年未満 (n=237)	転居して来て4年以上、5年未満 (n=118)	転居して来て3年以内 (n=298)
A	31.1%	23.9%	25.0%	24.0%	24.2%	23.0%
B	43.1%	52.4%	50.3%	40.0%	41.4%	42.2%
C	18.6%	18.6%	18.0%	25.6%	21.7%	24.5%
D	7.1%	5.1%	6.7%	10.4%	12.8%	10.2%

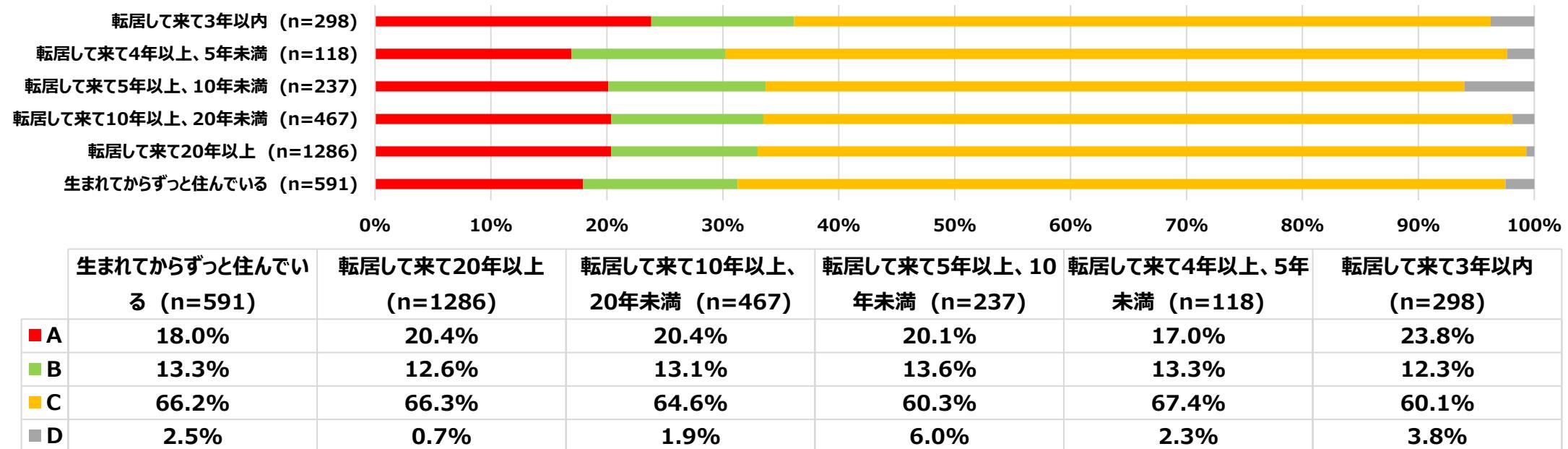
現自治体での居住年数と居住地満足度の関係を見た。

「生まれてからずっと住んでいる」層でAランクの比率が突出して高い。

また、Aランク・Bランクの合計は、転居してきて10年以上の層が70%台、10年未満では60%台とここでも明確な差がみられる。

社会的満足度×現自治体での居住年数

(現自治体での居住年数 回答者数比) n=3000

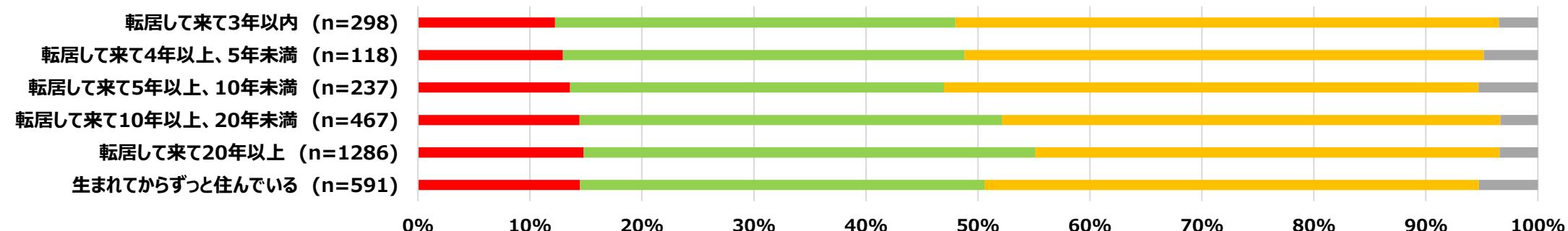


現自治体での居住年数と社会的満足度の関係を見た。

「転居してきて3年未満」の層でAランク・Bランクの合計が最も高く、居住地満足度と異なる傾向になっている。

経済的満足度×現自治体での居住年数

(現自治体での居住年数 回答者数比) n=3000



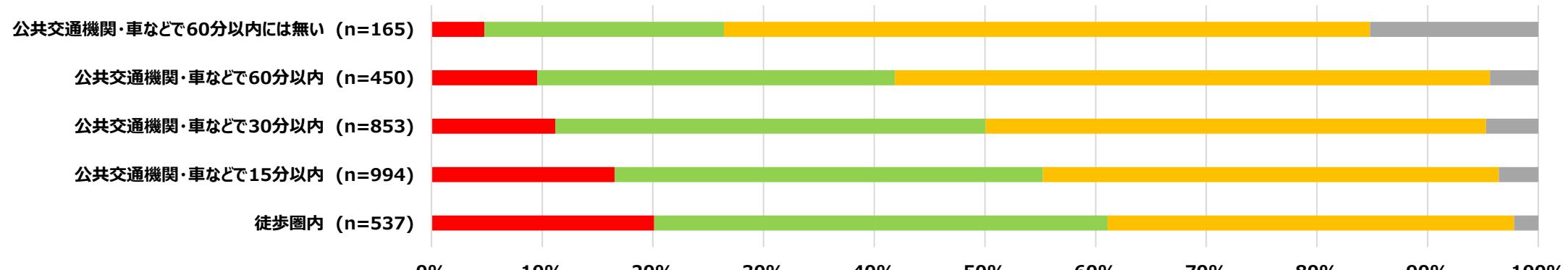
	生まれてからずっと住んでいる (n=591)	転居して来て20年以上 (n=1286)	転居して来て10年以上、20年未満 (n=467)	転居して来て5年以上、10年未満 (n=237)	転居して来て4年以上、5年未満 (n=118)	転居して来て3年以内 (n=298)
■ A	14.5%	14.8%	14.4%	13.6%	13.0%	12.3%
■ B	36.1%	40.3%	37.7%	33.4%	35.8%	35.7%
■ C	44.1%	41.5%	44.5%	47.7%	46.4%	48.5%
■ D	5.3%	3.4%	3.3%	5.3%	4.8%	3.5%

現自治体での居住年数と経済的満足度の関係を見た。

Aランク・Bランクの合計は、転居してきて10年以上の層が50%超、10年未満では40%台となっており、居住地満足度と同じく転居後10年を境にこちらもやや明確な差が出ている。

総合満足度×観光地までの距離

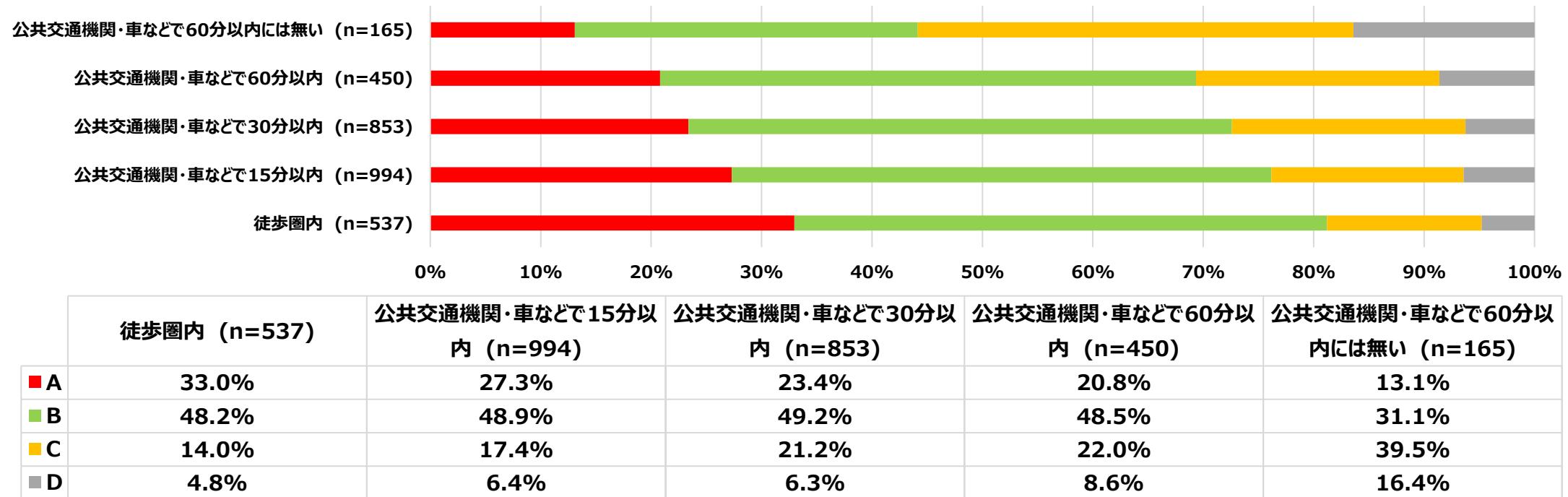
(観光地までの距離 回答者数比) n=3000



徒歩圏内 (n=537)	公共交通機関・車などで15分以内 (n=994)	公共交通機関・車などで30分以内 (n=853)	公共交通機関・車などで60分以内 (n=450)	公共交通機関・車などで60分以内には無い (n=165)
	A	B	C	D
■ A	20.1%	16.5%	11.2%	9.5%
■ B	41.0%	38.7%	38.9%	32.3%
■ C	36.7%	41.2%	45.2%	53.8%
■ D	2.2%	3.6%	4.7%	4.4%
				15.2%

「徒歩圏内」と回答した層の満足度が最も高く、距離が長くなるにつれて明確に下がる傾向がある。
観光地が近いほど観光の影響を強く意識することがわかる。

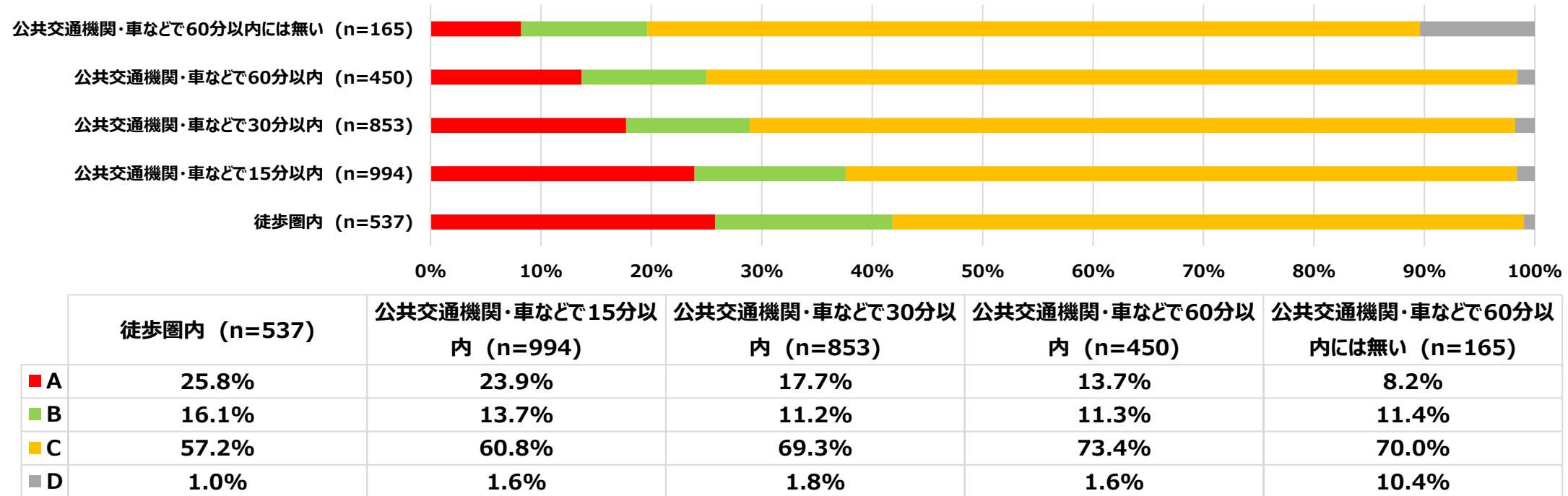
居住地満足度×観光地までの距離
(観光地までの距離 回答者数比) n=3000



観光地からの距離が近いほど居住地満足度がはっきりと高くなっている。

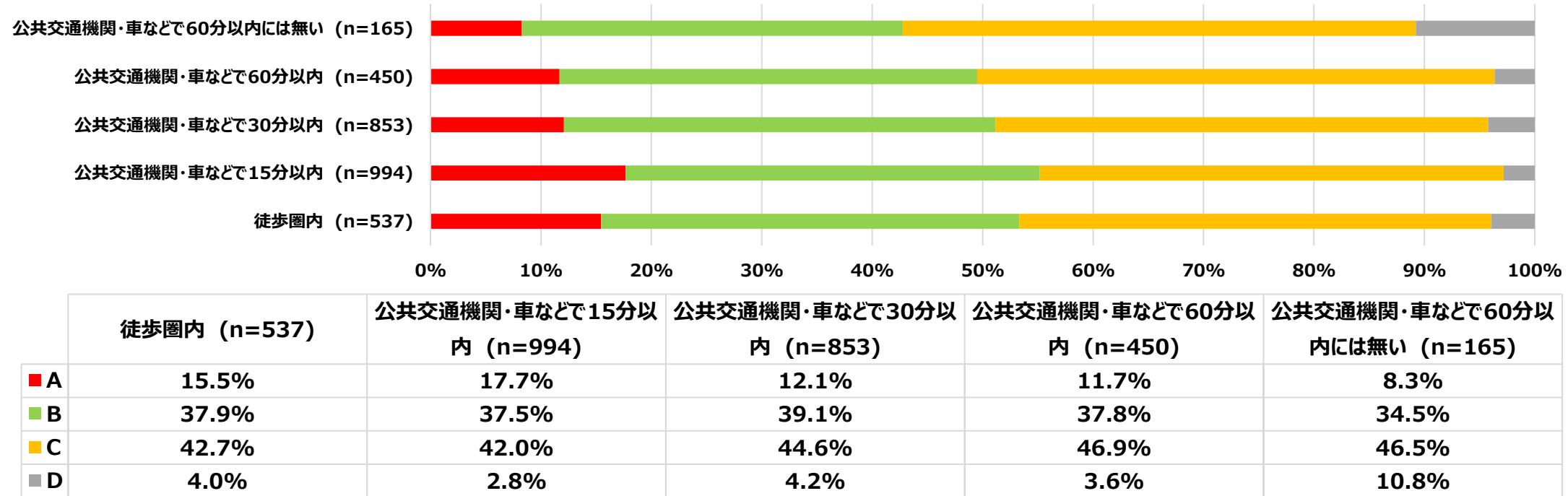
観光地の存在が地域への愛着や誇りにつながっている可能性がある。

社会的満足度×観光地までの距離
(観光地までの距離 回答者数比) n=3000



観光地からの距離が短いほど社会的満足度が明確に高くなっている。
観光客が日常的に存在する環境が、関わり意向にも良い影響を及ぼしていることがわかる。

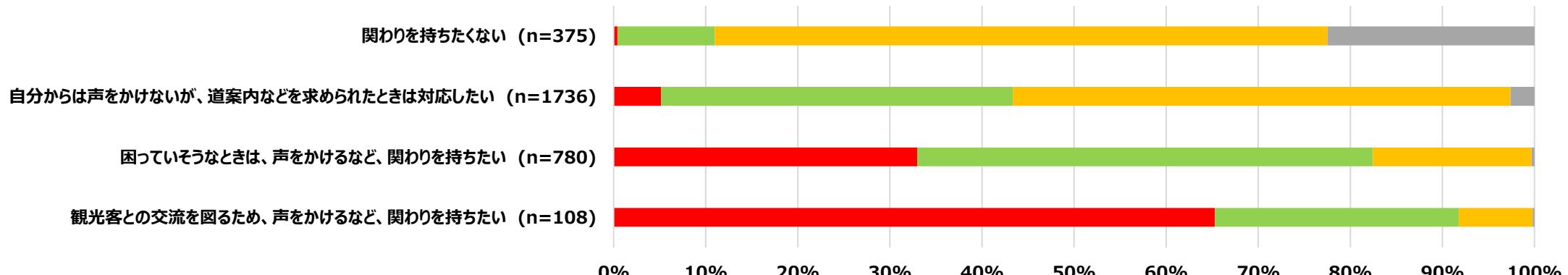
経済的満足度×観光地までの距離
(観光地までの距離 回答者数比) n=3000



居住地満足度、社会的満足度と異なり、経済的満足度では「徒歩圏内」がやや低くなっている。居住地への愛着や関わり意向と比べて、経済的なメリットや受益期待値には距離の影響が比較的小さい、あるいは観光地が近くにあることによるオーバーツーリズムの負の影響を反映している可能性がある。

総合満足度×観光客との関わり意向

(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3000



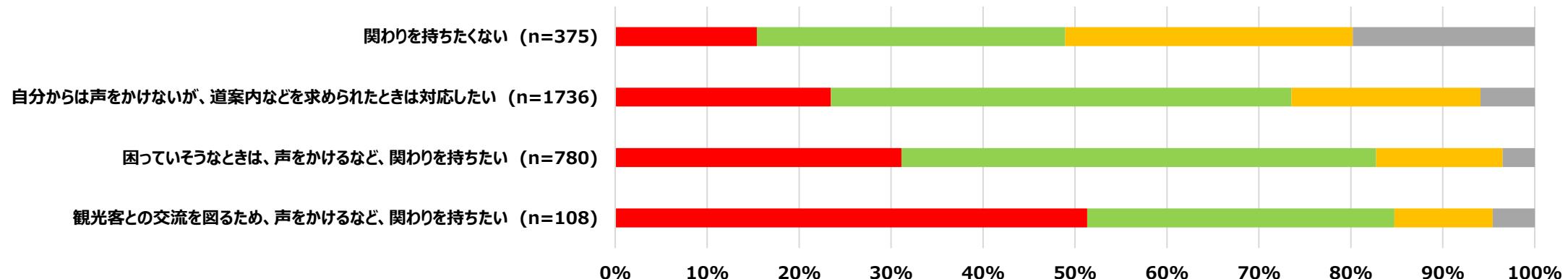
観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=108)	困つていそうなときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=780)	自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい (n=1736)	関わりを持ちたくない (n=375)
■ A 65.3%	33.0%	5.1%	0.4%
■ B 26.5%	49.5%	38.2%	10.6%
■ C 8.0%	17.2%	54.0%	66.5%
■ D 0.2%	0.3%	2.6%	22.5%

社会的満足度の採点設問である「観光客との関わり意向」から総合満足度を見た。

「観光客との関わり」に積極性が見られる「交流を図るため声をかける」、「困つていそうなときは声をかける」の2階層にAランクがほぼ集中している。

居住地満足度×観光客との関わり意向

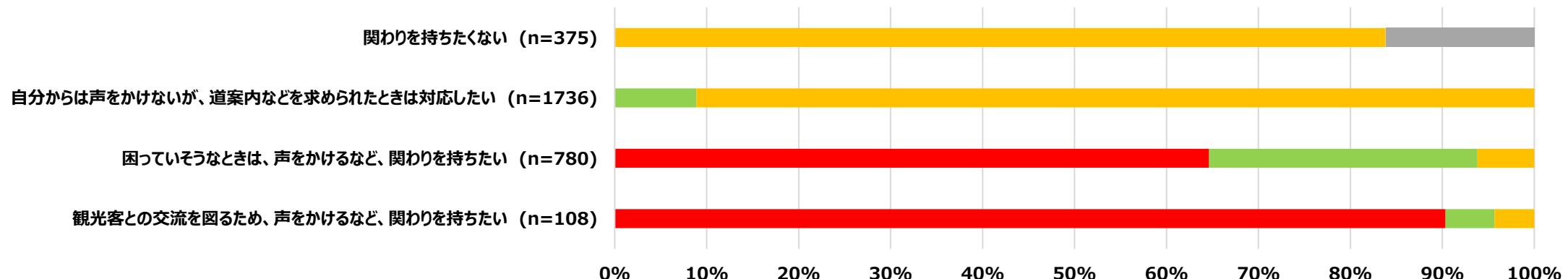
(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3000



満足度	観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=108)	困っているときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=780)	自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい (n=1736)	関わりを持ちたくない (n=375)
A	51.3%	31.1%	23.4%	15.4%
B	33.4%	51.6%	50.1%	33.5%
C	10.7%	13.8%	20.6%	31.3%
D	4.6%	3.5%	5.9%	19.8%

居住地満足度が高いほど「関わりを持ちたい」と回答した割合が高い。一方で、「関わりを持ちたくない」と回答した層にも居住地満足度Aの回答者が一定数含まれている。居住地域への誇りや愛着はあるが、訪れる観光客とは関わりたくない層の存在がうかがえる。

社会的満足度×観光客との関わり意向
(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3000



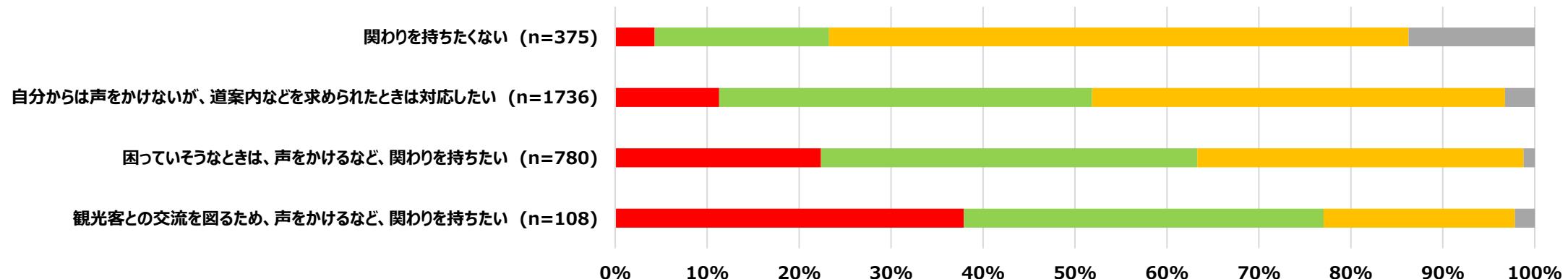
観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=108)	困っているときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=780)	自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい (n=1736)	関わりを持ちたくない (n=375)
■ A 90.4%	64.6%	0.0%	0.0%
■ B 5.3%	29.2%	8.9%	0.0%
■ C 4.3%	6.2%	91.1%	83.8%
■ D 0.0%	0.0%	0.0%	16.2%

「観光客との関わり意向」は社会的満足度を算出する基準設問の1つである。

「関わりを持ちたい」と回答した層でも、もう1つの基準設問である「お住まいの地域の観光をお薦めしたいか」に対して否定的な回答をした場合はCランクとなる。関わりを持ちたいが、住んでいる地域の観光は特に薦めない回答者が一定数存在することがわかる。

経済的満足度×観光客との関わり意向

(観光客との関わり意向 回答者数比) n=3000

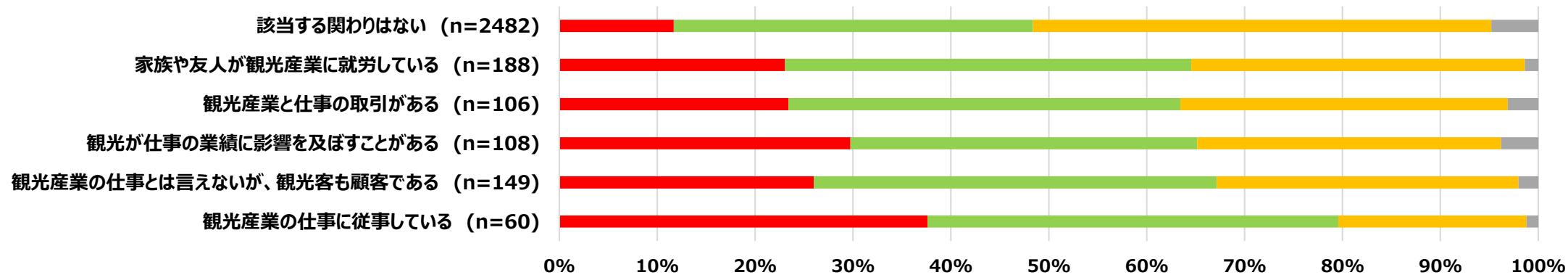


観光客との交流を図るため、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=108)	困っているときは、声をかけるなど、関わりを持ちたい (n=780)	自分からは声をかけないが、道案内などを求められたときは対応したい (n=1736)	関わりを持ちたくない (n=375)
■ A 37.9%	22.4%	11.3%	4.3%
■ B 39.1%	40.9%	40.5%	19.0%
■ C 20.8%	35.5%	44.9%	63.0%
■ D 2.2%	1.2%	3.2%	13.7%

経済的満足度が高いほど「関わりを持ちたい」と回答した割合が明確に高くなっている。

総合満足度×観光産業との関わり【MA】

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000



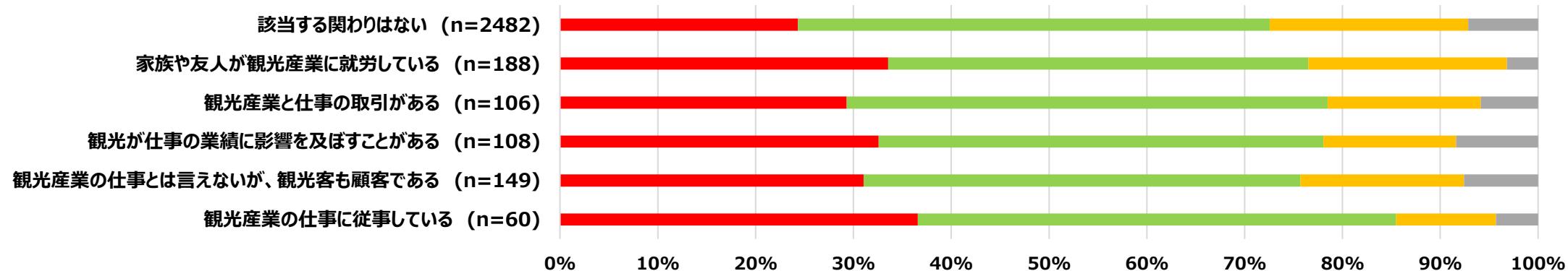
観光産業の仕事に従事している (n=60)	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である (n=149)	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある (n=108)	観光産業と仕事の取引がある (n=106)	家族や友人が観光産業に就労している (n=188)	該当する関わりはない (n=2482)
■ A 37.6%	26.0%	29.7%	23.4%	23.1%	11.7%
■ B 41.9%	41.2%	35.4%	40.0%	41.5%	36.7%
■ C 19.2%	30.8%	31.0%	33.5%	34.1%	46.8%
■ D 1.2%	2.0%	3.8%	3.1%	1.4%	4.8%

「観光産業に従事している」層は、その他の層に比べて関わり意向が明確に高い。

また、「関わりがない」層は関わり意向が明確に低くなっている。

居住地満足度×観光産業との関わり【MA】

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000

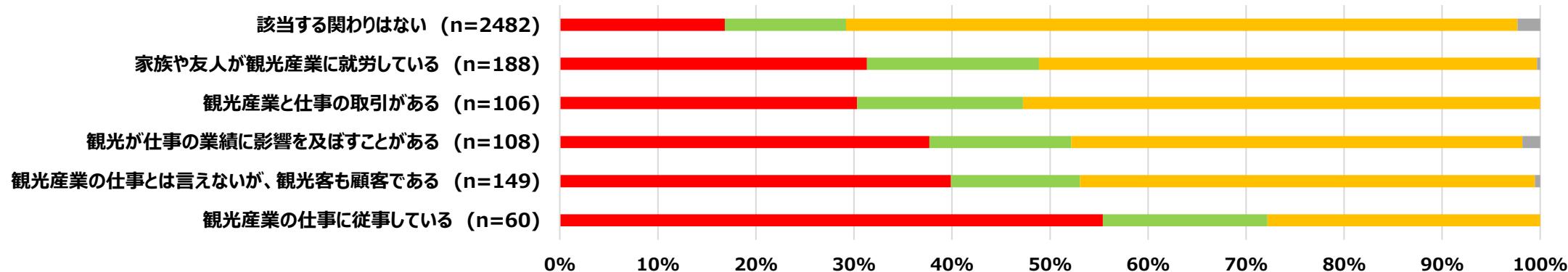


観光産業の仕事に従事している (n=60)	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である (n=149)	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある (n=108)	観光産業と仕事の取引がある (n=106)	家族や友人が観光産業に就労している (n=188)	該当する関わりはない (n=2482)
■ A 36.6%	31.0%	32.6%	29.3%	33.6%	24.3%
■ B 48.9%	44.7%	45.5%	49.2%	43.0%	48.2%
■ C 10.2%	16.7%	13.6%	15.6%	20.3%	20.3%
■ D 4.3%	7.6%	8.4%	5.9%	3.2%	7.1%

観光産業との関わりと居住地満足度の関係は比較的弱くなっている。住んでいる地域の観光的魅力は、観光客との関わり意向に大きく影響しないことがわかる。

社会的満足度×観光産業との関わり【MA】

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000

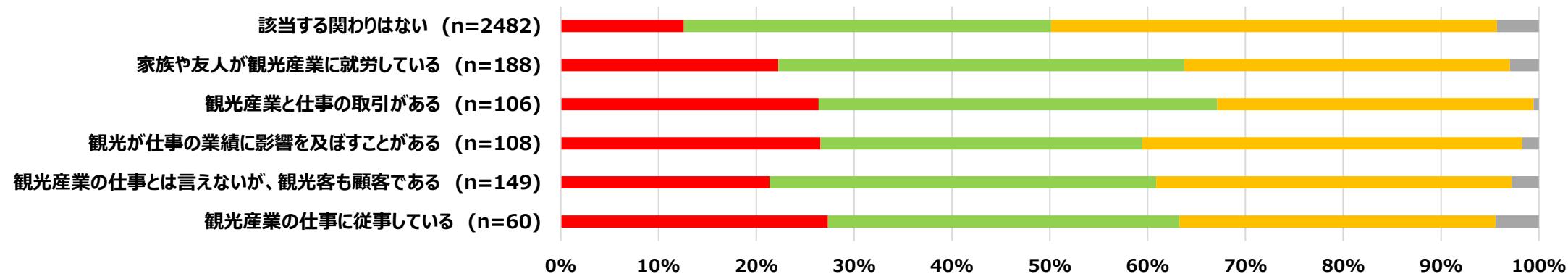


観光産業の仕事に従事している (n=60)	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である (n=149)	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある (n=108)	観光産業と仕事の取引がある (n=106)	家族や友人が観光産業に就労している (n=188)	該当する関わりはない (n=2482)
■ A 55.4%	39.9%	37.7%	30.3%	31.3%	16.8%
■ B 16.8%	13.2%	14.5%	16.9%	17.5%	12.4%
■ C 27.8%	46.4%	46.0%	52.8%	50.8%	68.5%
■ D 0.0%	0.5%	1.8%	0.0%	0.3%	2.3%

「観光産業に従事している」層は関わり意向が突出して高く、業務で直接的に関わる層の社会的満足度の高さがわかる。一方で、「関わりがない」層は明確に関わり意向が低い。

経済的満足度×観光産業との関わり【MA】

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000



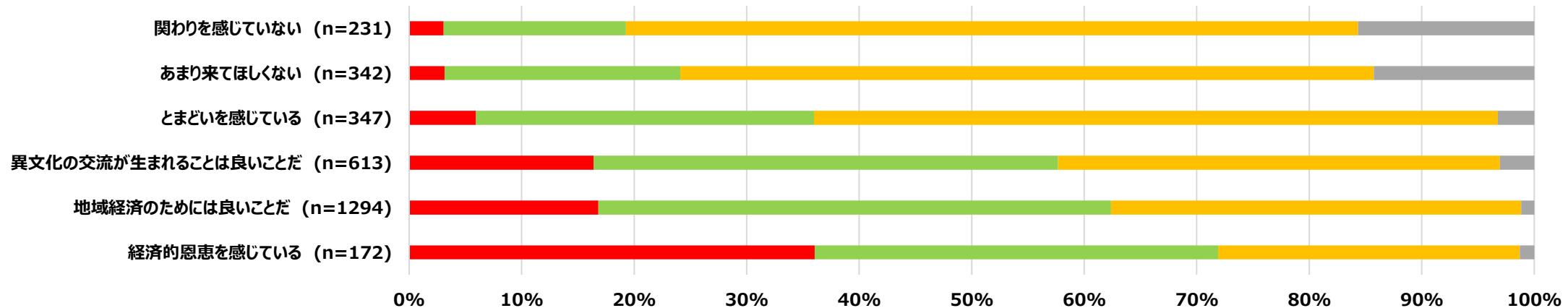
観光産業の仕事に従事している (n=60)	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である (n=149)	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある (n=108)	観光産業と仕事の取引がある (n=106)	家族や友人が観光産業に就労している (n=188)	該当する関わりはない (n=2482)
A 27.3%	21.3%	26.6%	26.4%	22.2%	12.6%
B 35.9%	39.5%	32.9%	40.8%	41.5%	37.5%
C 32.3%	36.4%	38.8%	32.3%	33.3%	45.6%
D 4.4%	2.8%	1.7%	0.5%	3.0%	4.3%

観光産業と何らかの関わりがない層は、関わりがある層に比べて明確に経済的満足度が低い。

一方で、社会的満足度と異なり自ら観光産業に従事しているかどうかは経済的満足度に対して大きく影響していない。

総合満足度×訪日外国人観光客への評価

(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3000

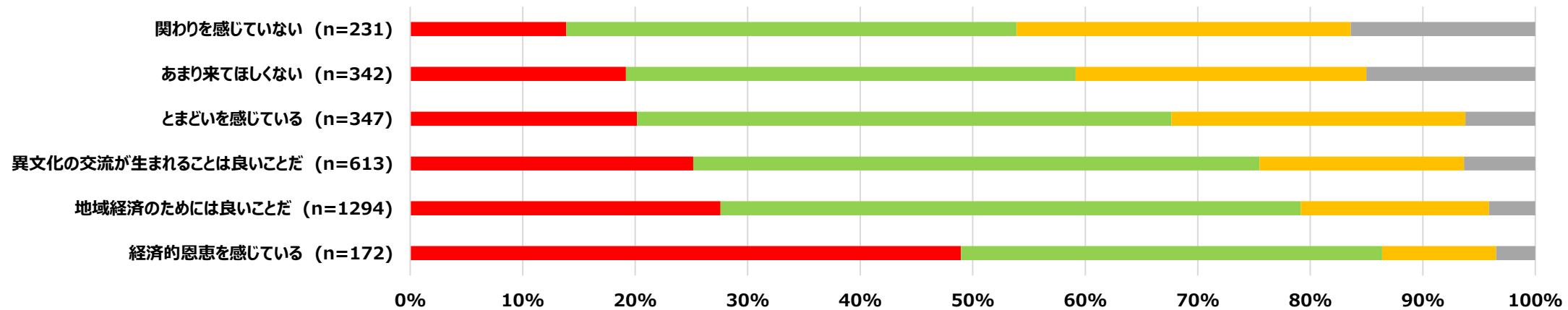


	経済的恩恵を感じている (n=172)	地域経済のためには良いことだ (n=1294)	異文化の交流が生まれることは良いことだ (n=613)	とまどいを感じている (n=347)	あまり来てほしくない (n=342)	関わりを感じていない (n=231)
■ A	36.0%	16.8%	16.4%	5.9%	3.2%	3.1%
■ B	35.9%	45.5%	41.3%	30.0%	20.9%	16.2%
■ C	26.8%	36.5%	39.3%	60.8%	61.7%	65.1%
■ D	1.3%	1.2%	3.1%	3.2%	14.3%	15.7%

「経済的恩恵を感じている」と回答した層は明確に総合満足度が高く、次いで「地域経済のために良い」「異文化交流が生まれるから良い」と回答した層の総合満足度が高い。

居住地満足度×訪日外国人観光客への評価

(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3000

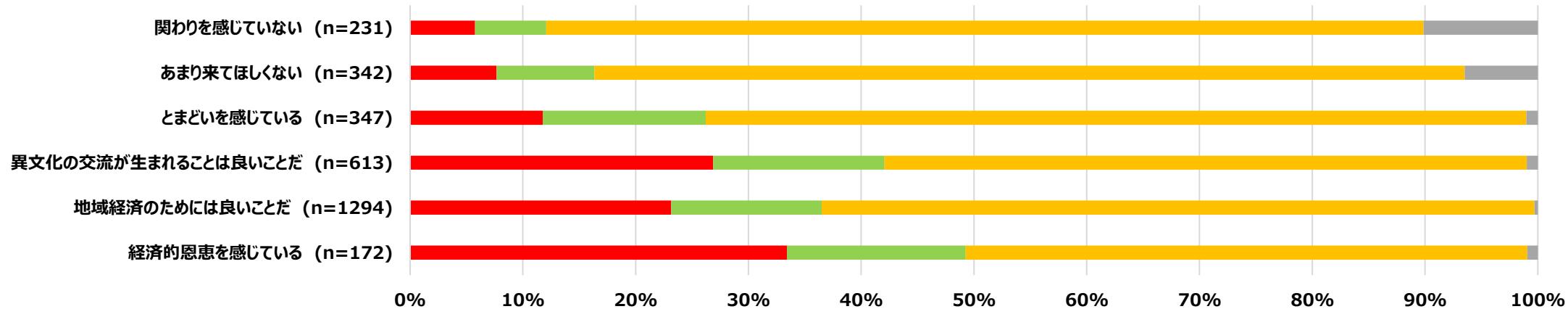


	経済的恩恵を感じている (n=172)	地域経済のためには良いことだ (n=1294)	異文化の交流が生まれることは良いことだ (n=613)	とまどいを感じている (n=347)	あまり来てほしくない (n=342)	関わりを感じていない (n=231)
A	48.9%	27.6%	25.2%	20.2%	19.2%	13.9%
B	37.5%	51.6%	50.3%	47.5%	40.0%	40.0%
C	10.1%	16.7%	18.2%	26.1%	25.8%	29.7%
D	3.5%	4.1%	6.3%	6.2%	15.0%	16.4%

「経済的恩恵を感じている」と回答した層は居住地満足度も高いことがわかる。地域に愛着や誇りを感じていることで、観光客への評価も好意的なものになっている可能性がある。

社会的満足度×訪日外国人観光客への評価

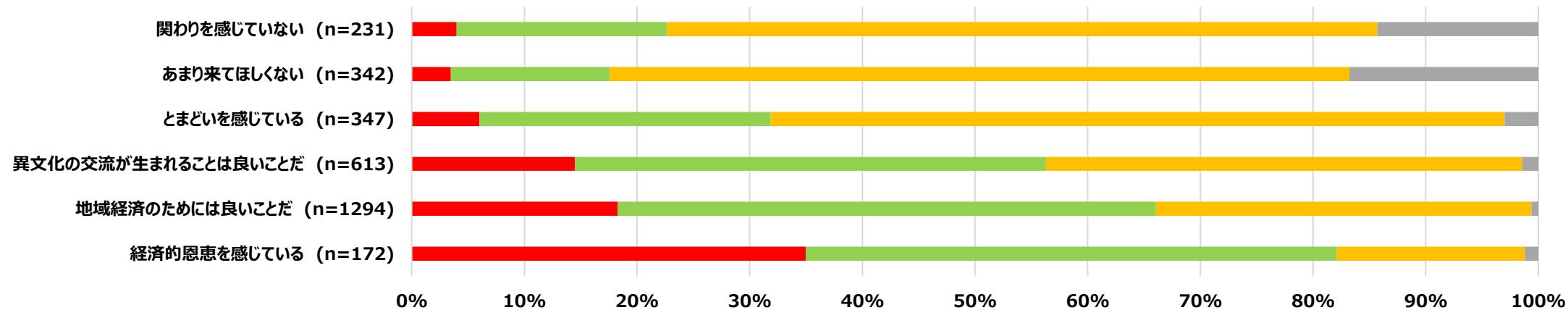
(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3000



「経済的恩恵を感じる」「地域経済のために良いこと」「異文化の交流が生まれることは良いこと」と回答した層とそれ以外で、社会的満足度には明確な差が表れている。

経済的満足度×訪日外国人観光客への評価

(訪日外国人観光客への評価 回答者数比) n=3000

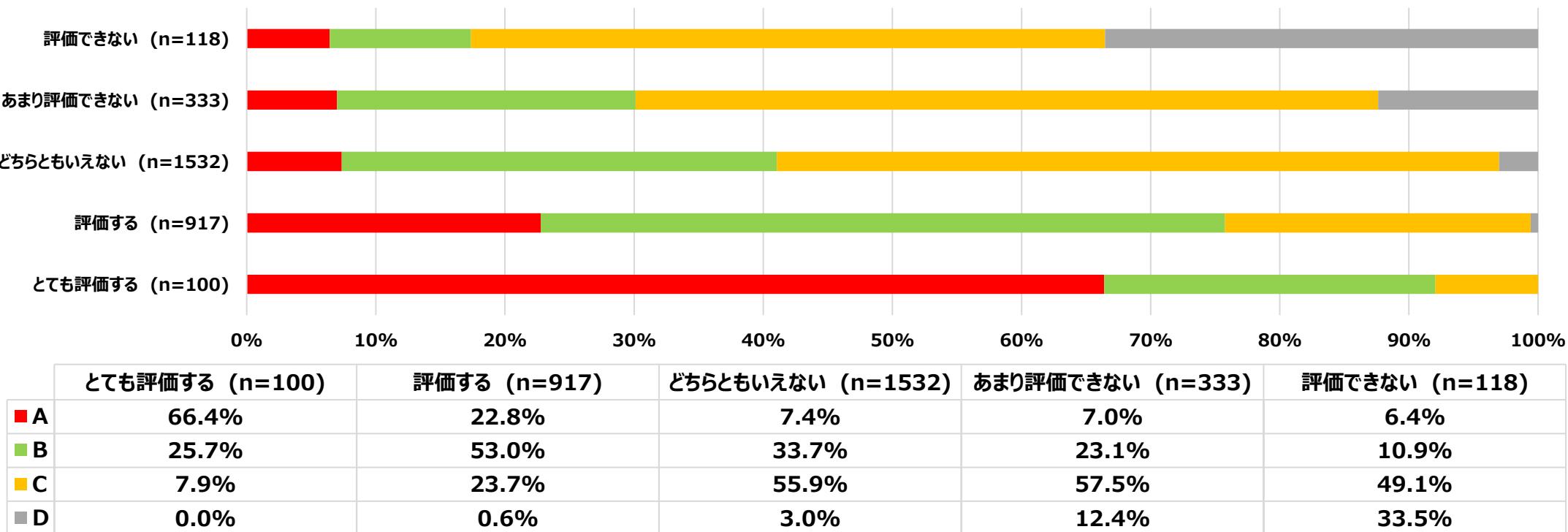


	経済的恩恵を感じている (n=172)	地域経済のために良いことだ (n=1294)	異文化の交流が生まれることは良いことだ (n=613)	とまどいを感じている (n=347)	あまり来てほしくない (n=342)	関わりを感じていない (n=231)
■ A	35.0%	18.3%	14.5%	6.0%	3.5%	4.0%
■ B	47.1%	47.8%	41.8%	25.8%	14.1%	18.7%
■ C	16.7%	33.3%	42.3%	65.1%	65.6%	63.1%
■ D	1.2%	0.6%	1.4%	3.0%	16.8%	14.3%

「経済的恩恵を感じている」と回答した層は、「地域経済のために良いことだ」「異文化の交流が生まれることは良いことだ」と回答した層と比べて経済的満足度が高い。

総合満足度×観光施策への評価

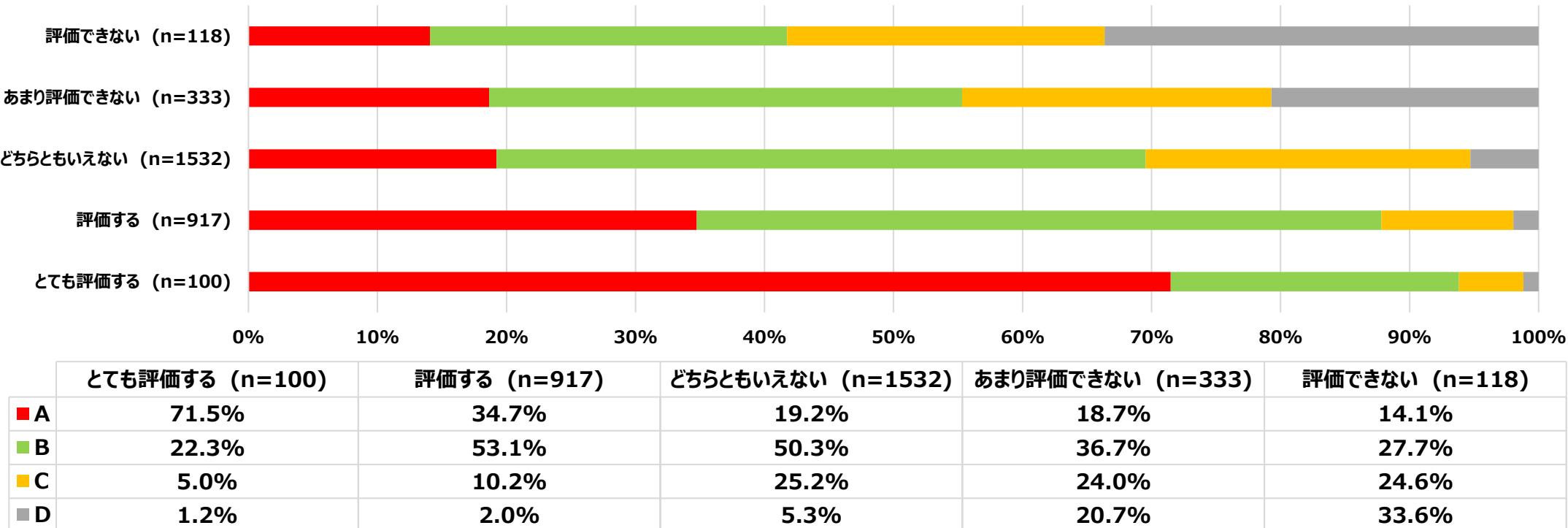
(観光施策への評価 回答者数比) n=3000



「とても評価する」と回答した層は総合満足度が突出して高い。
 一方、総合満足度のDランクは「評価できない」「あまり評価できない」と回答した層に集中している。

居住地満足度×観光施策への評価

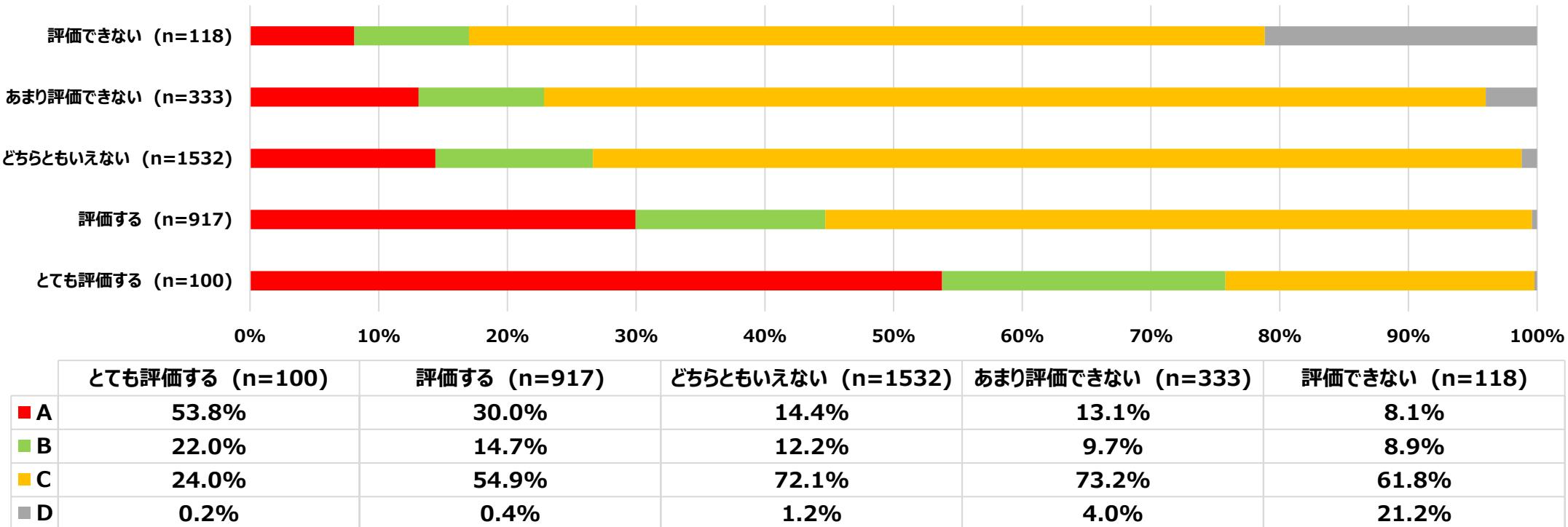
(観光施策への評価 回答者数比) n=3000



「とても評価する」と回答した層の大半が居住地満足度でもAランクである。

社会的満足度×観光施策への評価

(観光施策への評価 回答者数比) n=3000

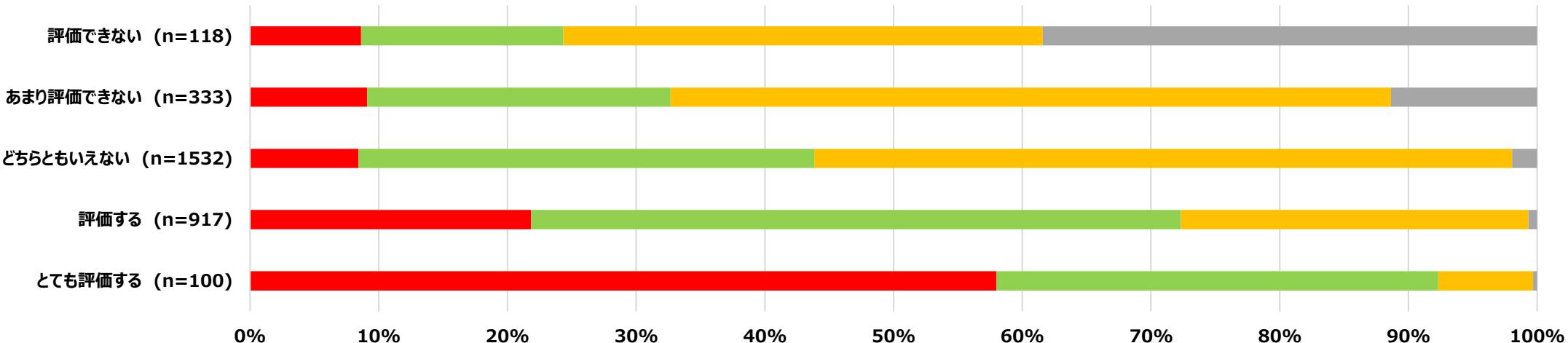


居住地満足度と同じく、「とても評価する」と回答した層の半数以上が社会的満足度でもAランクである。

また、「評価できない」と回答した層にDランクが集中しており、居住地域の観光地としての魅力や観光客との関わり意向が観光施策への評価に影響していることがわかる。

経済的満足度×観光施策への評価

(観光施策への評価 回答者数比) n=3000

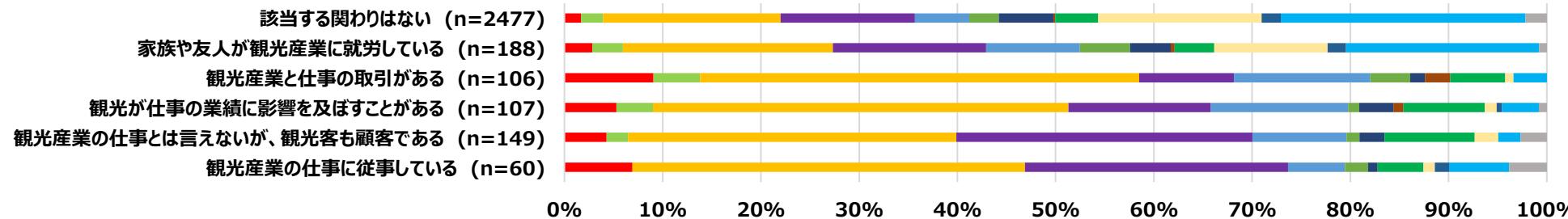


評価	とても評価する (n=100)	評価する (n=917)	どちらともいえない (n=1532)	あまり評価できない (n=333)	評価できない (n=118)
A	58.0%	21.8%	8.4%	9.1%	8.6%
B	34.3%	50.5%	35.4%	23.6%	15.7%
C	7.4%	27.0%	54.2%	56.0%	37.2%
D	0.3%	0.7%	1.9%	11.4%	38.4%

社会的満足度と同じく、「とても評価する」と回答した層の半数以上が経済的満足度でもAランク、かつ「評価できない」と回答した層にDランクが集中している傾向がみられる。

3-10 観光産業との関わり (職業比較)

観光産業との関わり【MA】×職業
(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000



観光産業の仕事に従事している (n=60)	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である (n=149)	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある (n=107)	観光産業と仕事の取引がある (n=106)	家族や友人が観光産業に就労している (n=188)	該当する関わりはない (n=2477)
-----------------------	----------------------------------	------------------------------	-----------------------	---------------------------	---------------------

■ 会社役員・経営者	6.9%	4.3%	5.3%	9.1%	2.8%	1.7%
■ 団体職員	0.0%	2.2%	3.7%	4.7%	3.1%	2.2%
■ 会社員	39.9%	33.4%	42.3%	44.7%	21.4%	18.1%
■ 契約社員・派遣社員・アルバイトなど	26.8%	30.1%	14.5%	9.7%	15.6%	13.7%
■ 公務員（教職員を除く）	5.8%	9.6%	14.0%	13.9%	9.5%	5.5%
■ 教職員・講師	2.4%	1.3%	1.1%	4.0%	5.1%	3.0%
■ 医療関係者	1.0%	2.6%	3.5%	1.5%	4.1%	5.6%
■ 士業（公認会計士・弁護士・税理士・司法書士）	0.0%	0.0%	1.0%	2.6%	0.4%	0.2%
■ 自営業・フリーランス	4.7%	9.1%	8.3%	5.6%	4.0%	4.4%
■ 専業主婦（夫）	1.2%	2.4%	1.2%	0.8%	11.5%	16.6%
■ 学生	1.5%	0.0%	0.5%	0.0%	1.9%	1.9%
■ 無職（定年退職を含む）	6.1%	2.3%	3.7%	3.4%	19.7%	24.9%
■ その他	3.8%	2.7%	0.8%	0.0%	0.8%	2.2%

※上記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

観光産業との関わり毎に職業構成比を見た。

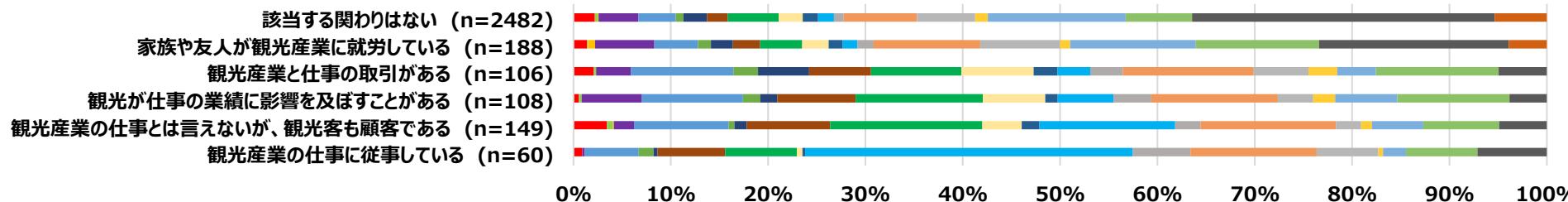
「従事している」「観光客も顧客である」と回答した中には、「会社役員・経営者」に加えて「契約社員・派遣社員・アルバイト」も多いことがわかる。

また、「自営業・フリーランス」も一定数が観光客を顧客となり、あるいは観光による業績への影響を受けることがわかる。

3-11 観光産業との関わり (業種比較)

観光産業との関わり【MA】×業種

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000



	観光産業の仕事に従事している (n=60)	観光産業の仕事とは言えない が、観光客も顧客である (n=149)	観光が仕事の業績に影響を及ぼ すことがある (n=108)	観光産業と仕事の取引がある (n=106)	家族や友人が観光産業に就労し ている (n=188)	該当する関わりはない (n=2482)
■ 農業・林業	0.9%	3.5%	0.6%	2.1%	1.4%	2.2%
■ 漁業（水産養殖業を含む）	0.0%	0.6%	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%
■ 鉱業（採石業、砂利採取業を含む）	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.7%	0.1%
■ 建設業（土木・工事業を含む）	0.2%	2.0%	6.2%	3.6%	6.1%	4.1%
■ 製造業	5.6%	9.8%	10.4%	10.5%	4.5%	3.8%
■ 電気・ガス・熱供給・水道業	1.5%	0.6%	1.8%	2.5%	1.3%	0.8%
■ 情報通信業	0.4%	1.3%	1.7%	5.3%	2.3%	2.4%
■ 運輸業・郵便業	7.0%	8.6%	8.1%	6.3%	2.8%	2.2%
■ 卸売業・小売業	7.4%	15.6%	13.1%	9.3%	4.3%	5.2%
■ 金融業・保険業	0.6%	4.0%	6.4%	7.4%	2.7%	2.5%
■ 不動産業・物品販賣業	0.3%	1.8%	1.3%	2.4%	1.4%	1.6%
■ 宿泊業・飲食サービス業	33.7%	13.9%	5.7%	3.4%	1.5%	1.6%
■ 複合サービス事業	5.9%	2.6%	3.9%	3.3%	1.7%	1.0%
■ その他のサービス業	13.0%	13.9%	13.0%	13.5%	11.0%	7.6%
■ 教育・学習支援業	6.3%	2.6%	3.6%	5.6%	8.2%	6.0%
■ 学術研究・専門技術サービス業	0.5%	1.1%	2.3%	3.0%	1.0%	1.3%
■ 医療・福祉業	2.4%	5.3%	6.4%	4.0%	12.9%	14.2%
■ 公務	7.3%	7.8%	11.5%	12.6%	12.6%	6.8%
■ その他	7.1%	4.9%	3.8%	5.0%	19.5%	31.1%
■ 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	5.4%

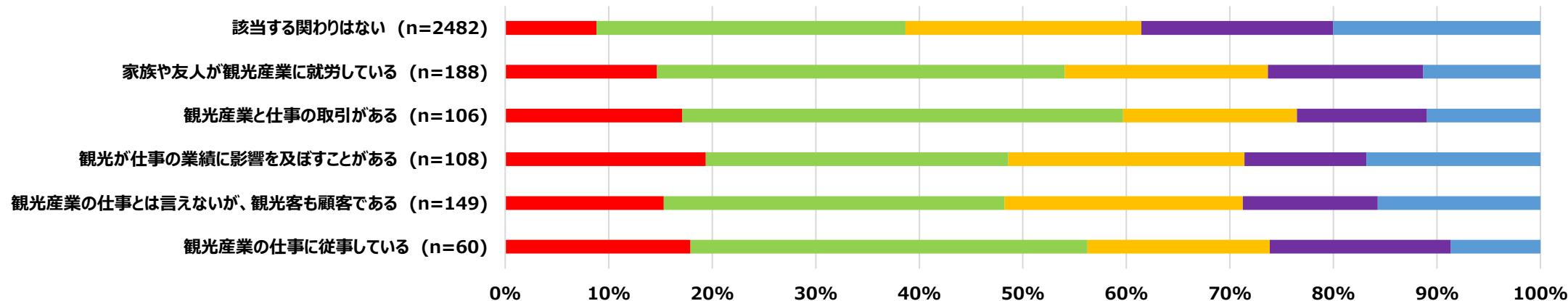
観光産業との関わり毎に業種構成比を見た。

「宿泊業・飲食サービス業」のほか、「その他のサービス業」、「製造業」、「卸売・小売業」なども何らかの関わりを持つと回答した割合が高くなっている。

※左記「n」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は「総計」と一致しないことがある。

観光産業との関わり【MA】×道内宿泊旅行頻度

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000

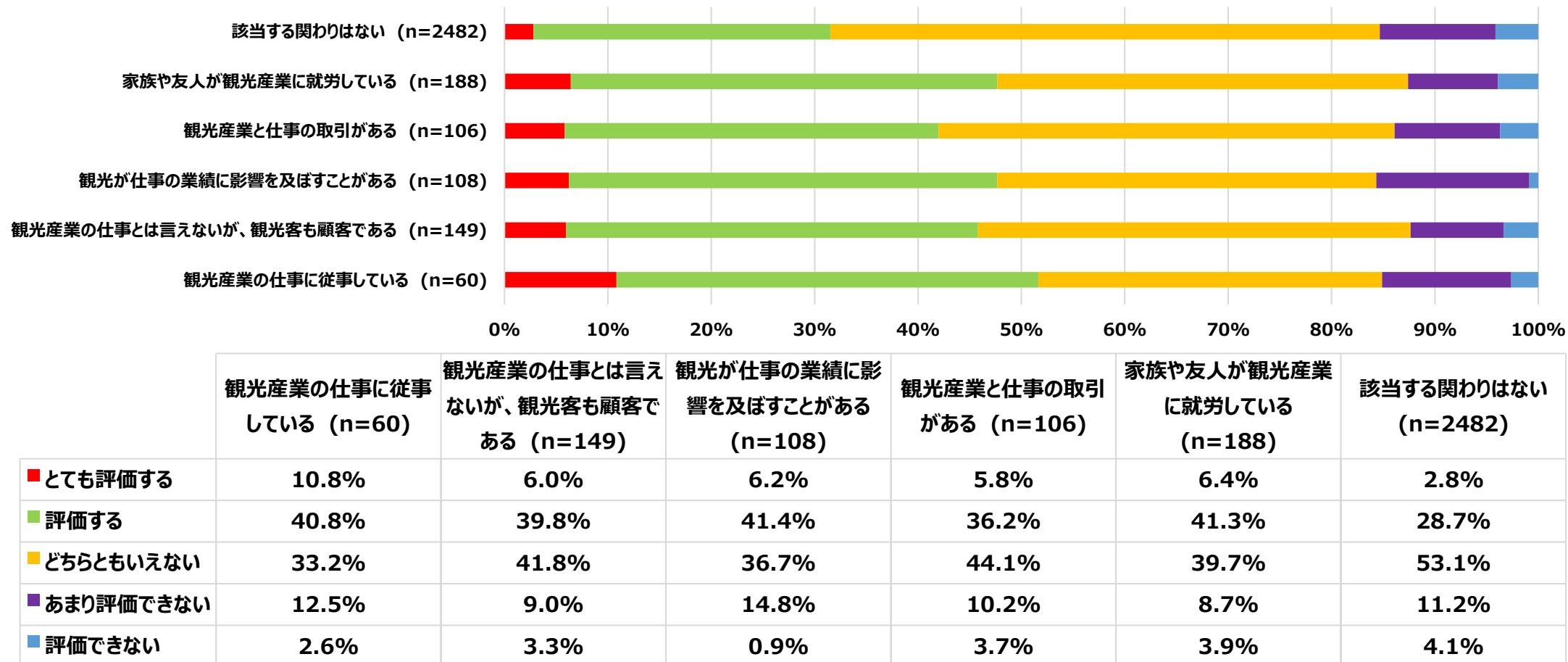


	観光産業の仕事に従事している (n=60)	観光産業の仕事とは言えないが、観光客も顧客である (n=149)	観光が仕事の業績に影響を及ぼすことがある (n=108)	観光産業と仕事の取引がある (n=106)	家族や友人が観光産業に就労している (n=188)	該当する関わりはない (n=2482)
■ 1年に4回以上	17.9%	15.3%	19.4%	17.1%	14.7%	8.8%
■ 1年に2回、3回	38.3%	32.9%	29.2%	42.6%	39.4%	29.8%
■ 1年に1回	17.6%	23.0%	22.8%	16.8%	19.6%	22.8%
■ 2~3年に1回	17.5%	13.0%	11.8%	12.5%	15.0%	18.5%
■ 北海道内で宿泊を伴う旅行はあまりしない	8.6%	15.7%	16.8%	11.0%	11.3%	20.0%

観光産業との関わりがあると回答した層は、関わりがないと回答した層に比べて宿泊旅行の頻度が高い回答者の割合がやや高い。

観光産業との関わり【MA】×地域の観光施策への評価

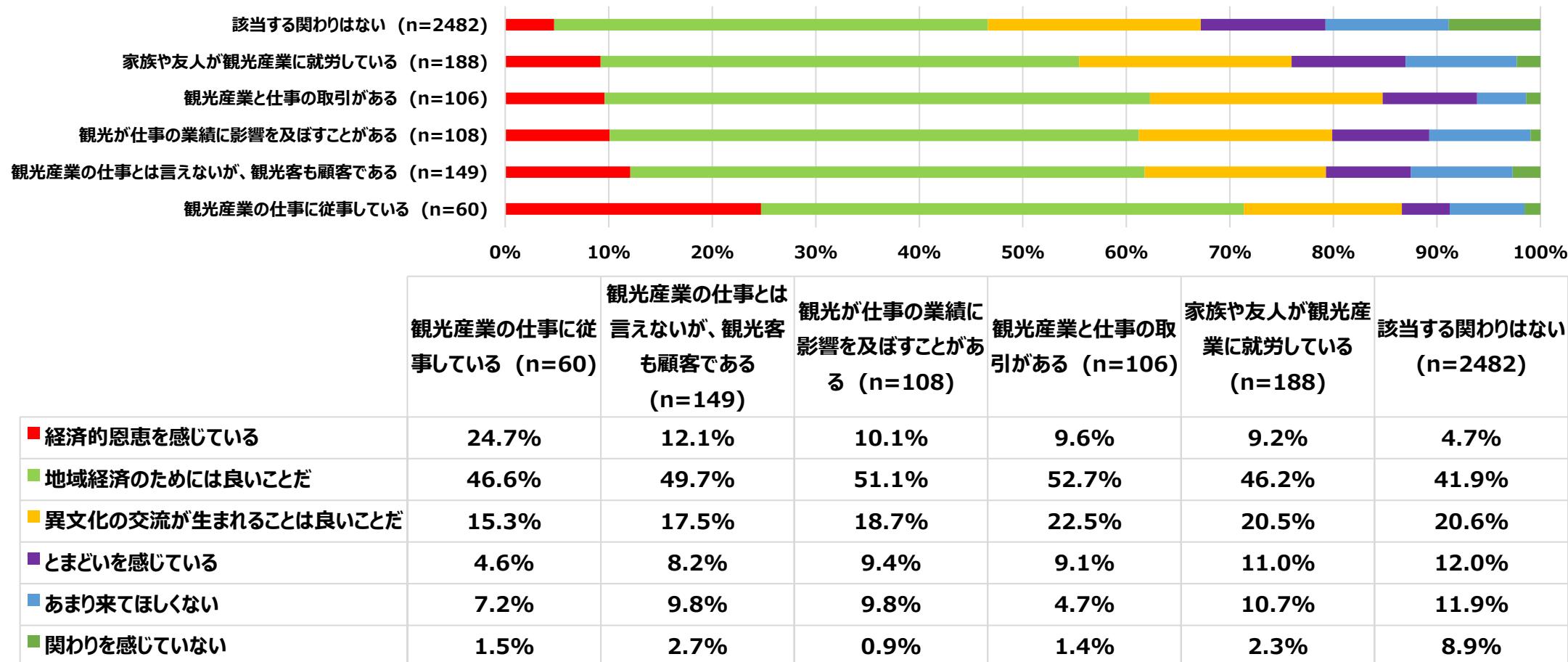
(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000



観光産業との関わりがあると回答した層は、関わりがないと回答した層に比べて地域の観光施策を「とても評価する」あるいは「評価する」割合がやや高くなっている。

観光産業との関わり【MA】×訪日外国人観光客への評価

(観光産業との関わり 回答者数比) n=3000

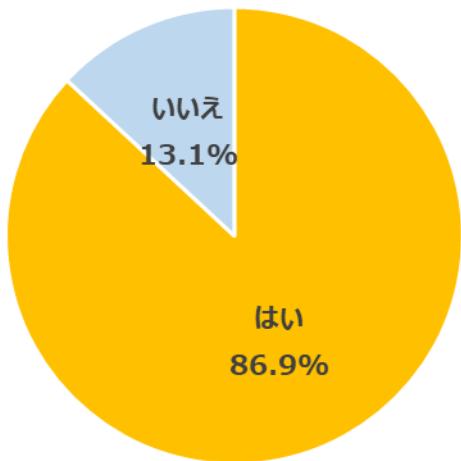


観光産業に従事している、あるいは観光客を顧客にしたり観光の業績への影響がある回答者は「経済的恩恵を感じている」と回答した割合が明確に高い一方、「異文化との交流が生まれるのは良いことだ」と回答した層の割合は低くなっている。

3-13 オーバーツーリズムへの認知度 1/2

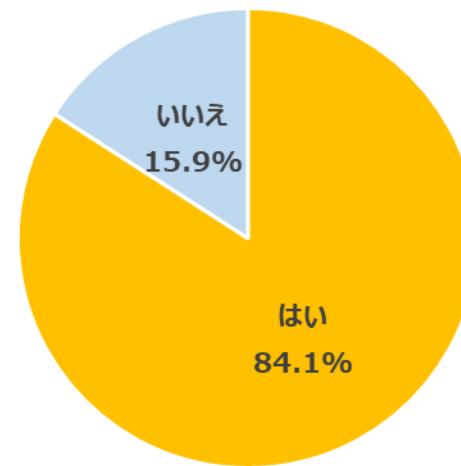
「オーバーツーリズム」への認知度 × 総合満足度A

n=419



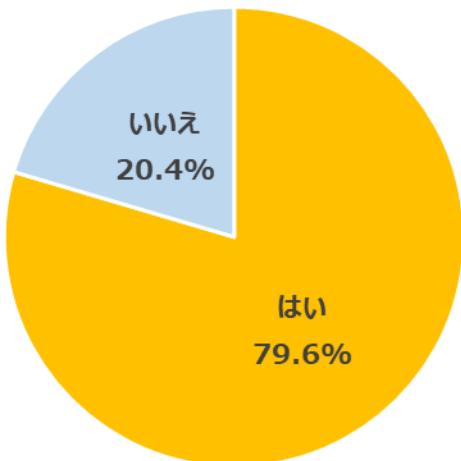
「オーバーツーリズム」への認知度 × 総合満足度B

n=1118



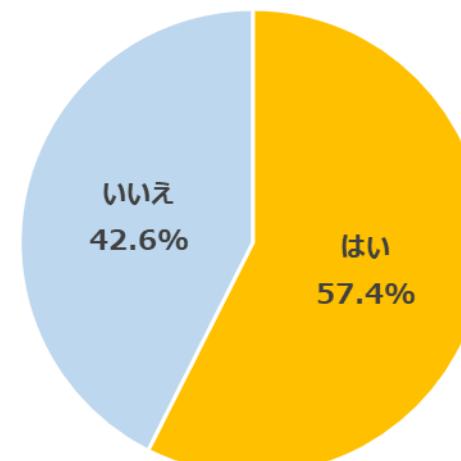
「オーバーツーリズム」への認知度 × 総合満足度C

n=1331



「オーバーツーリズム」への認知度 × 総合満足度D

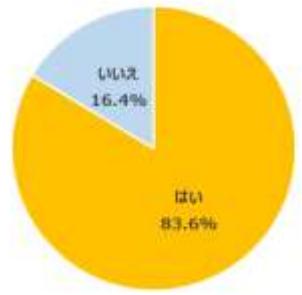
n=132



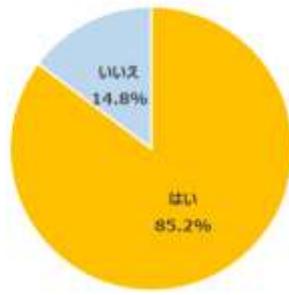
総合満足度ランクと認知度には相関関係が見られる。総合満足度ランクが高い層ほど、「オーバーツーリズム」という言葉の認知度が高い。

3-13 オーバーツーリズムへの認知度 2/2

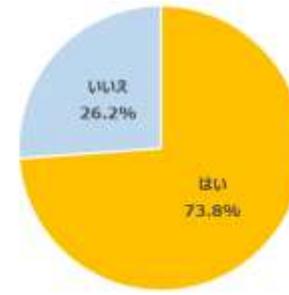
「オーバーツーリズム」への認知度 × 居住地満足度A
n=763



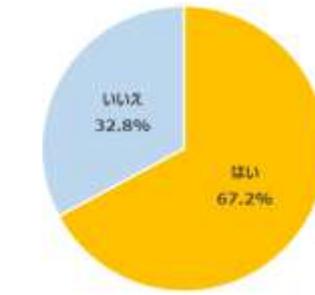
「オーバーツーリズム」への認知度 × 居住地満足度B
n=1435



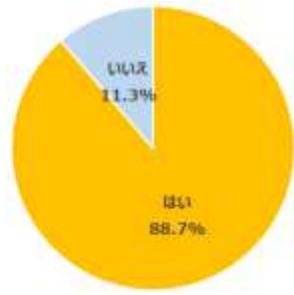
「オーバーツーリズム」への認知度 × 居住地満足度C
n=593



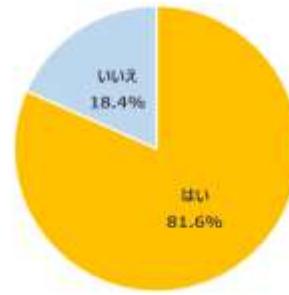
「オーバーツーリズム」への認知度 × 居住地満足度D
n=209



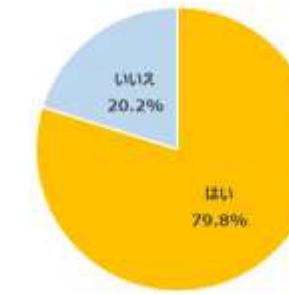
「オーバーツーリズム」への認知度 × 社会的満足度A
n=602



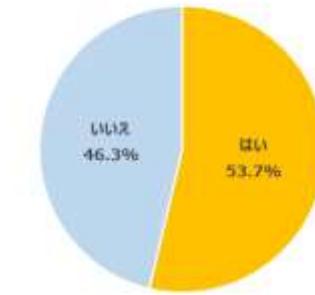
「オーバーツーリズム」への認知度 × 社会的満足度B
n=388



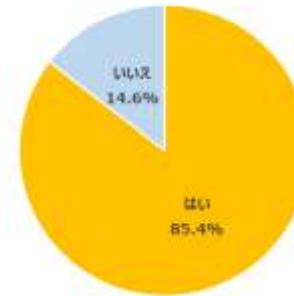
「オーバーツーリズム」への認知度 × 社会的満足度C
n=1949



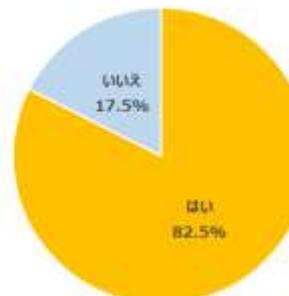
「オーバーツーリズム」への認知度 × 社会的満足度D
n=61



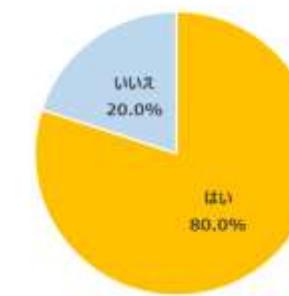
「オーバーツーリズム」への認知度 × 経済的満足度A
n=428



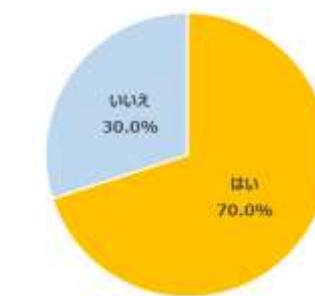
「オーバーツーリズム」への認知度 × 経済的満足度B
n=1137



「オーバーツーリズム」への認知度 × 経済的満足度C
n=1316

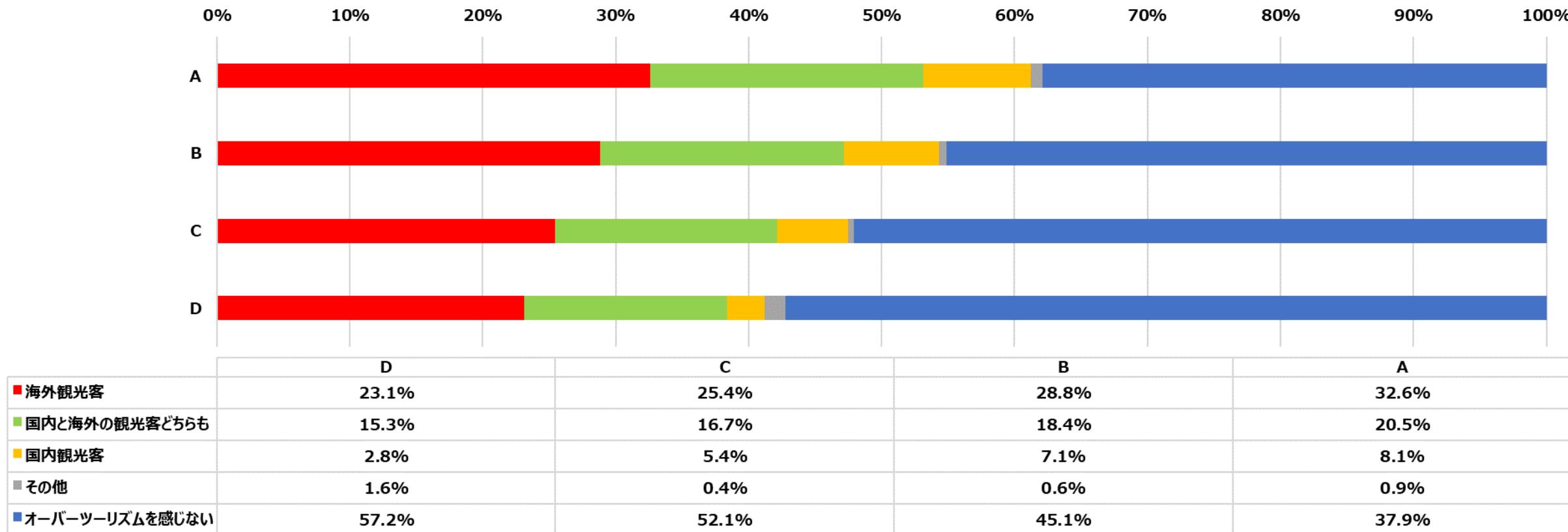


「オーバーツーリズム」への認知度 × 経済的満足度D
n=120



総合満足度の傾向と同様に、各満足度ランクが高い層ほど「オーバーツーリズム」という言葉の認知度が高い。全体では、社会的満足度Dランク層の認知度が最も低い。

「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ × 総合満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ 回答者数比) n=3000

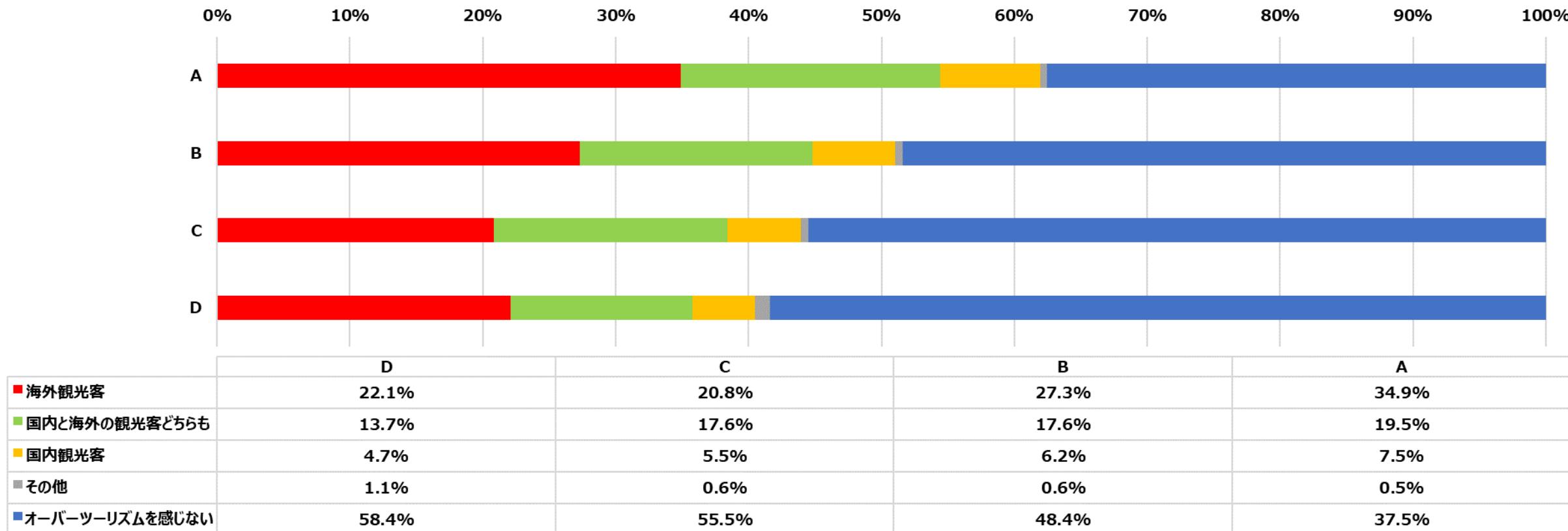


オーバーツーリズムの要因となる観光客のタイプとして、総合満足度が上がるほど「海外観光客」、「国内・海外どちらも」、「国内観光客」の回答の割合が増加している。

一方で、「オーバーツーリズムを感じない」は総合満足度ランクが低くなるにつれて、回答の割合が高くなっている。

本道において、総合満足度はオーバーツーリズムの影響を受けていると考えられる。

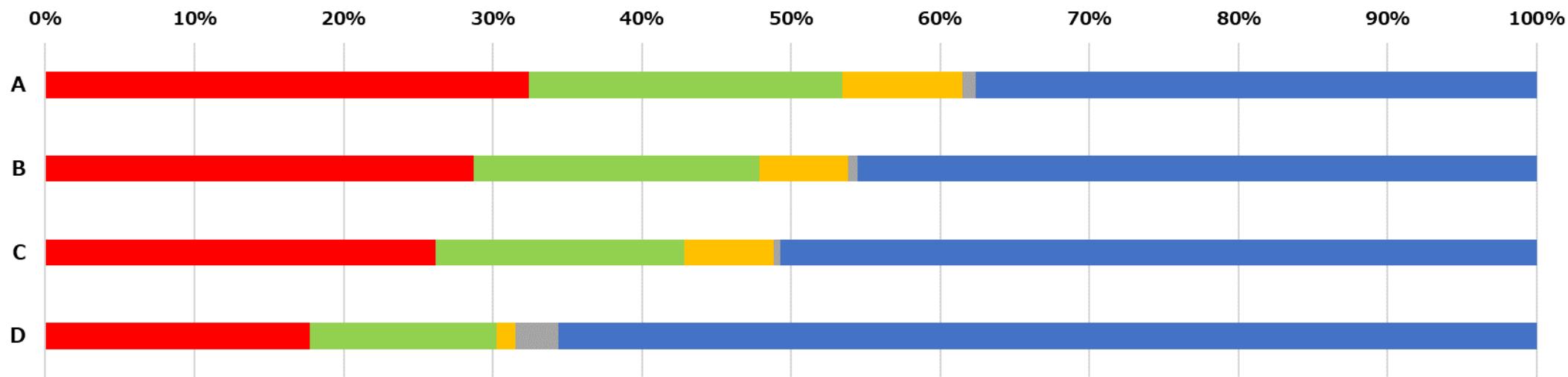
「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ × 居住地満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ 回答者数比) n=3000



居住地満足度も概ね総合満足度と同じ傾向がみられるが、それほど強くは現れてはいない。

居住地満足度において「海外観光客」と回答する割合が、Aランク・BランクとCランク・Dランクの間で少し差が見られるのは、観光スポットを訪れるインバウンド客の増加が影響していることを示している。

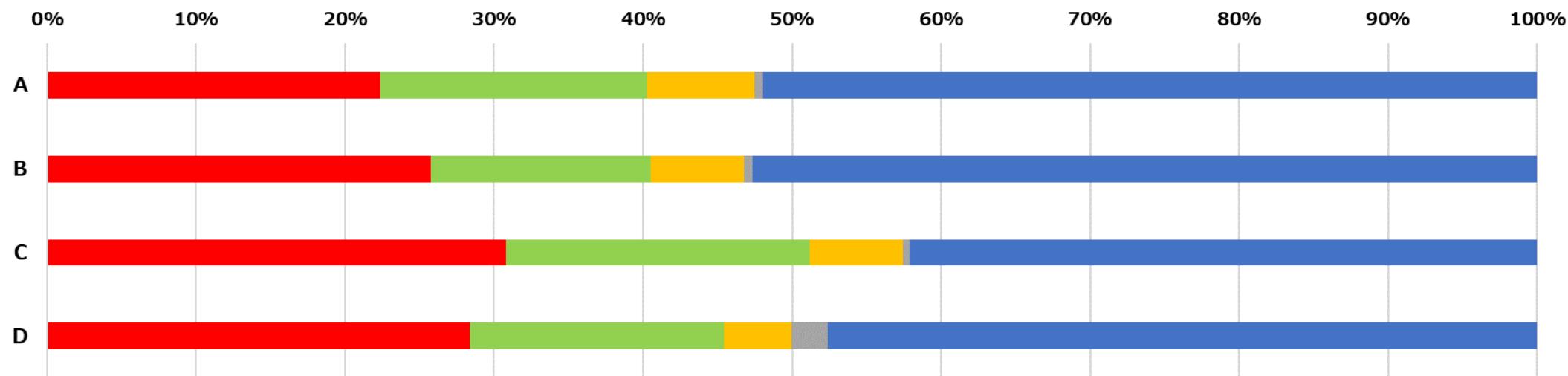
「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ × 社会的満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ 回答者数比) n=3000



	D	C	B	A
■ 海外観光客	17.7%	26.2%	28.7%	32.4%
■ 国内と海外の観光客どちらも	12.6%	16.7%	19.1%	21.0%
■ 国内観光客	1.3%	6.0%	5.9%	8.1%
■ その他	2.9%	0.4%	0.7%	0.9%
■ オーバーツーリズムを感じない	65.6%	50.7%	45.5%	37.7%

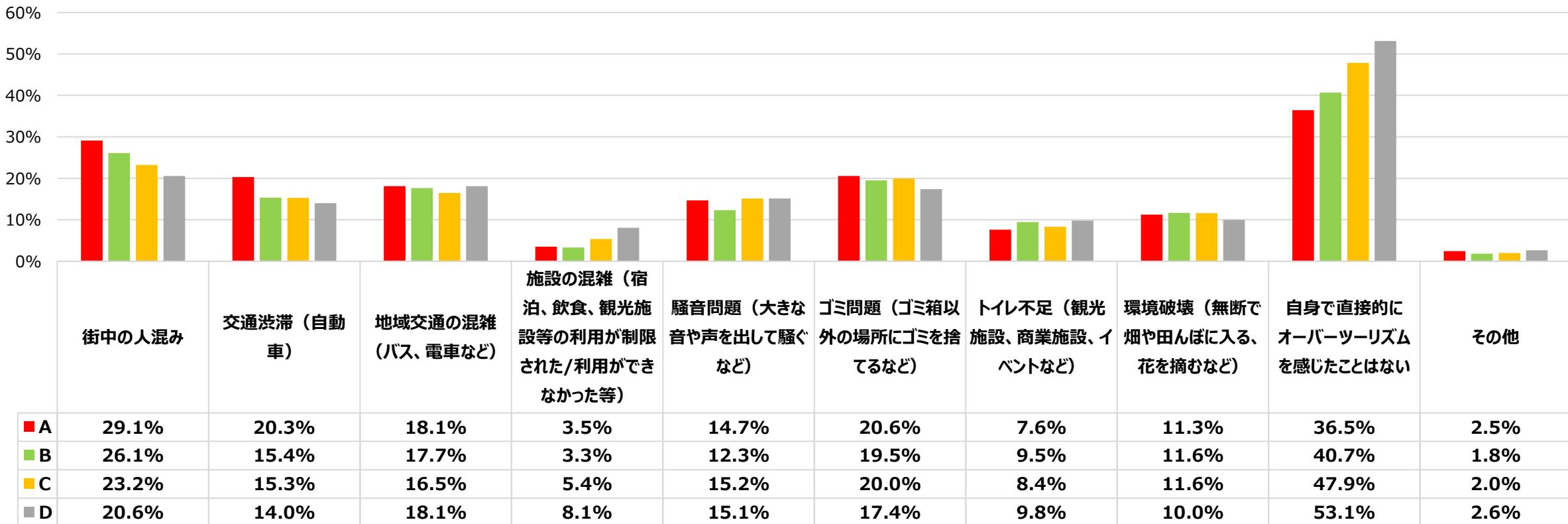
総合満足度同様、社会的満足度もランクが上がるほど「海外観光客」、「国内・海外どちらも」、「国内観光客」の回答の割合が増加している。

「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ^o × 経済的満足度
 (「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ^o 回答者数比) n=3000



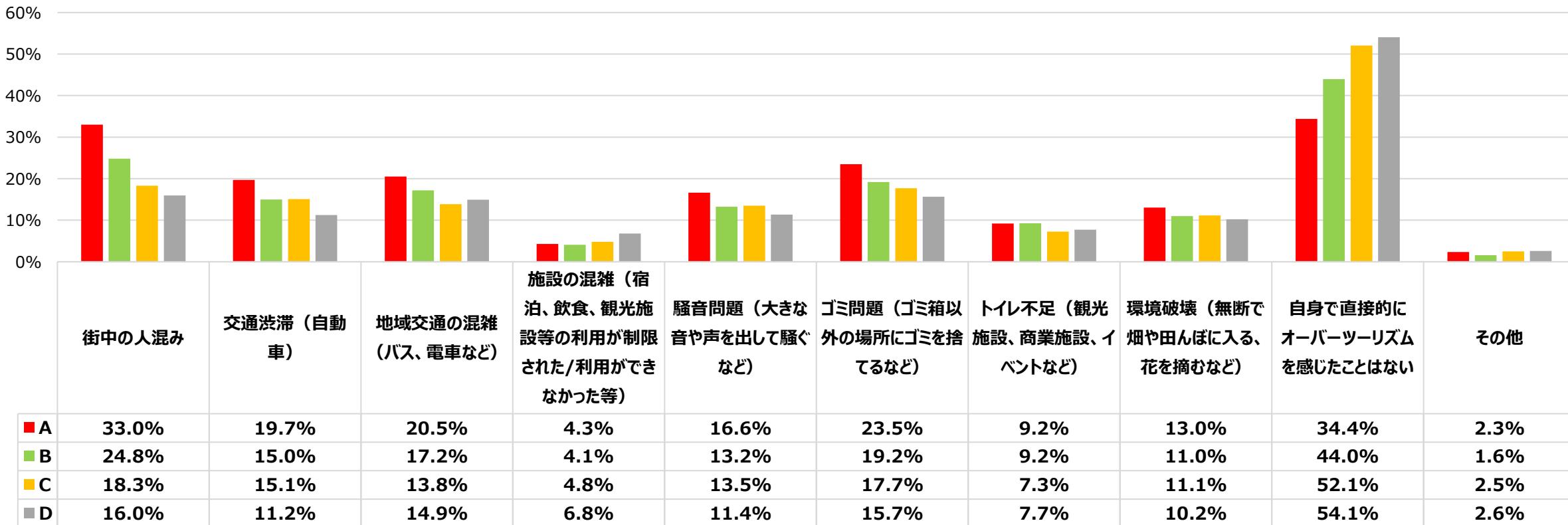
経済的満足度においては、他の満足度の傾向と少し異なり、ランクが上がるにつれて「海外観光客」と回答する割合が低下していることが分かる。
 観光による正の経済的影響を認識する層（満足度AやBランク）においては、ある程度のオーバーツーリズムは受容する必要があると考えている可能性があることが分かる。

見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 総合満足度
(総合満足度回答者数比) n=3000



総合満足度ランクが低いほど「オーバーツーリズムを感じたことはない」「施設の混雑」という回答の割合が高い。
一方、「街中の人混み」「交通渋滞」ではAランクの回答割合が最も高く、Dランクが最も低くなっている。

見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 居住地満足度
(居住地満足度回答者数比) n=3000

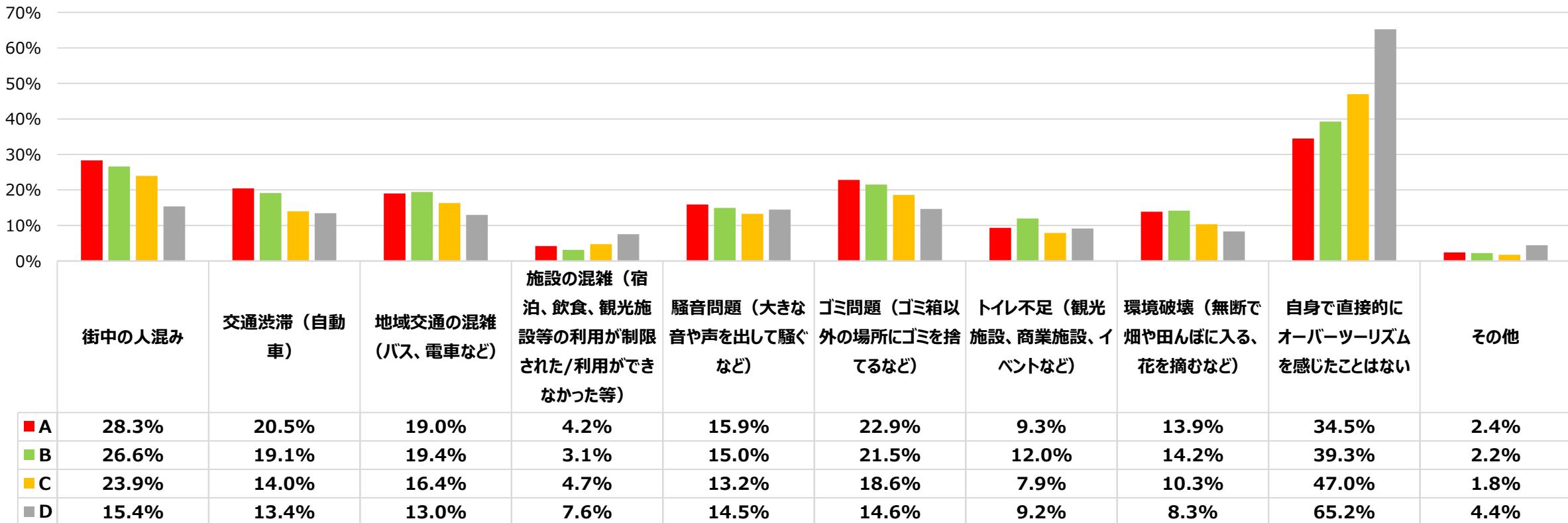


居住地満足度は総合満足度と同様の傾向がある。

一方、Aランクでは「地域交通の混雑」「ゴミ問題」「騒音問題」が他のランクより若干高くなっていることが総合満足度と異なる。

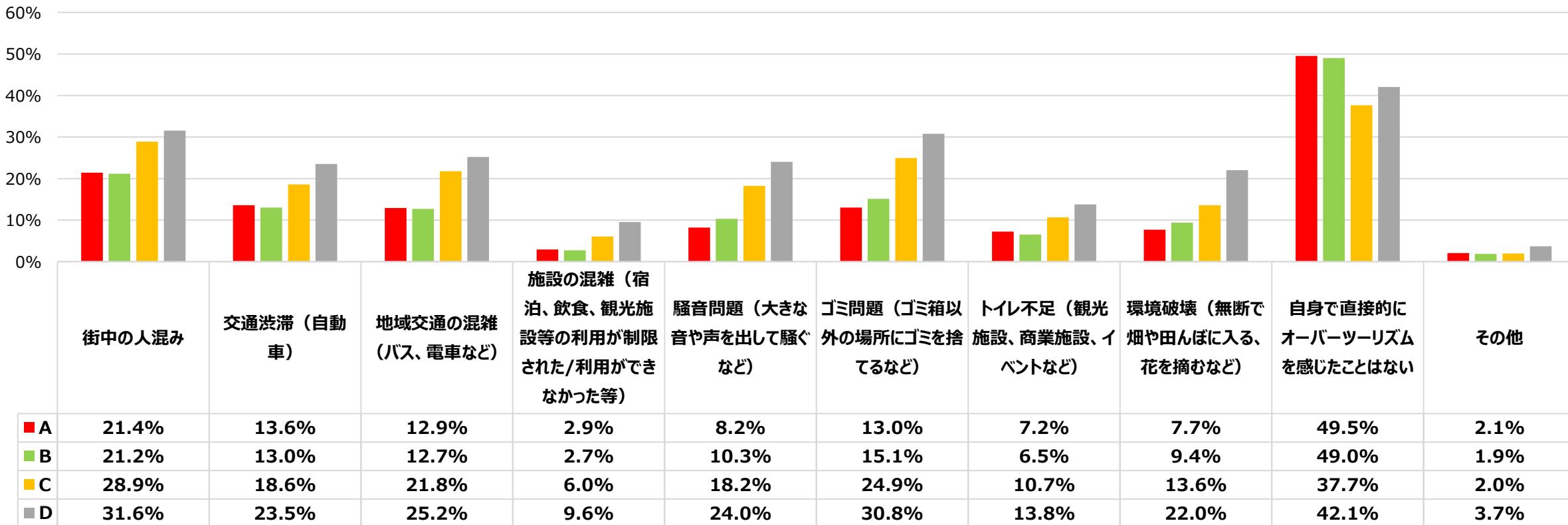
居住地に誇りや愛着を感じている人ほど、オーバーツーリズムにより日々の生活を乱されることへの忌避感が高まることがうかがえる。

見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 社会的満足度
(社会的満足度回答者数比) n=3000



社会的満足度でも総合満足度とほぼ同様の傾向がある。

見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 経済的満足度
(経済的満足度回答者数比) n=3000

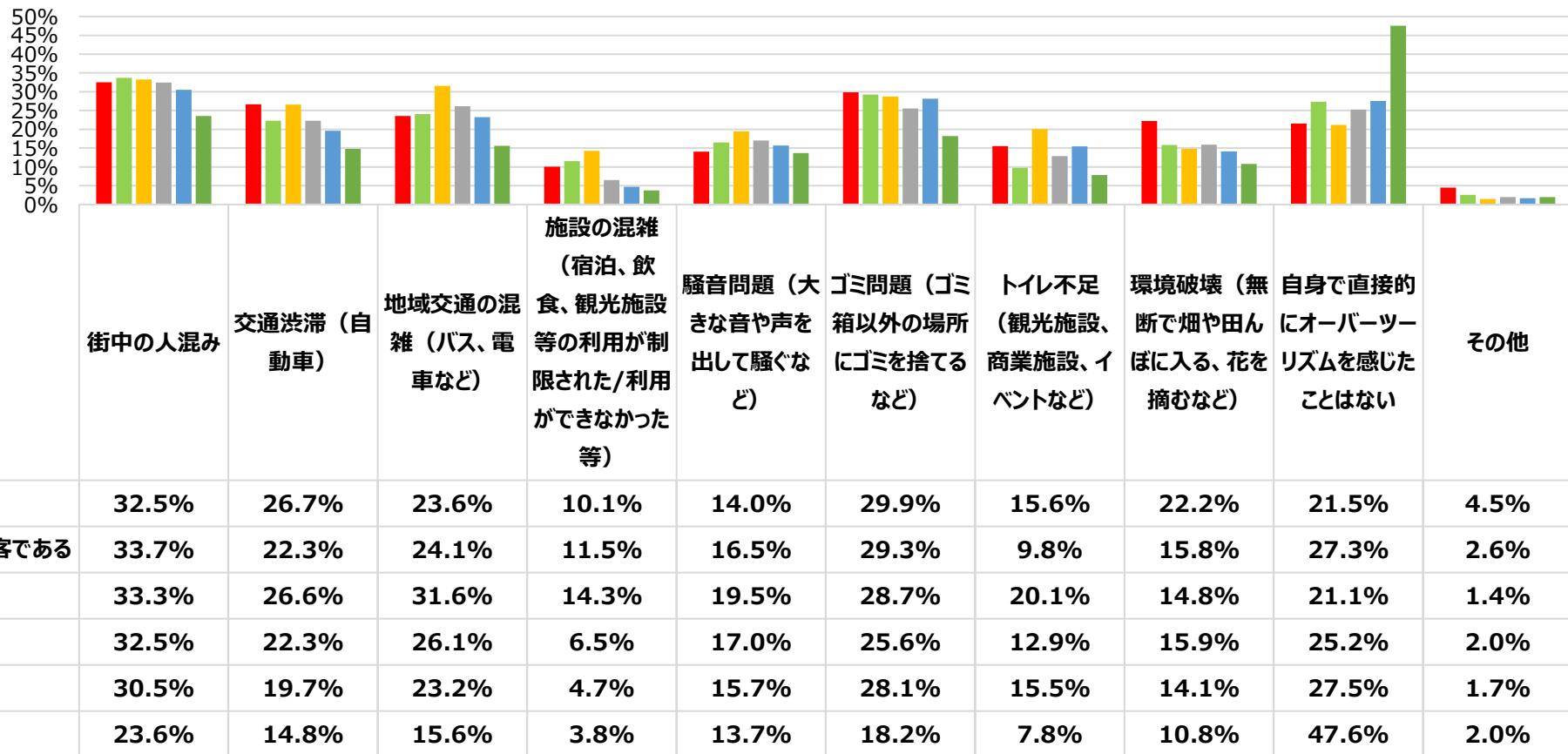


他の満足度と傾向が明確に異なり、経済的満足度ではどの項目もランクが高くなるほど回答割合が低い傾向がある。

一方、「オーバーツーリズムを感じたことはない」はランクが高いほど回答割合が高くなる。

観光による正の経済的影響を認識する層（満足度A・Bランク）においては、ある程度のオーバーツーリズムは受容する必要があると考えている可能性があることが分かる。

見聞きしたオーバーツーリズム【MA】 × 観光業界との関わり
(観光業界との関わり回答者数比) n=3000



観光業界との関わりとオーバーツーリズムの認識について確認した。

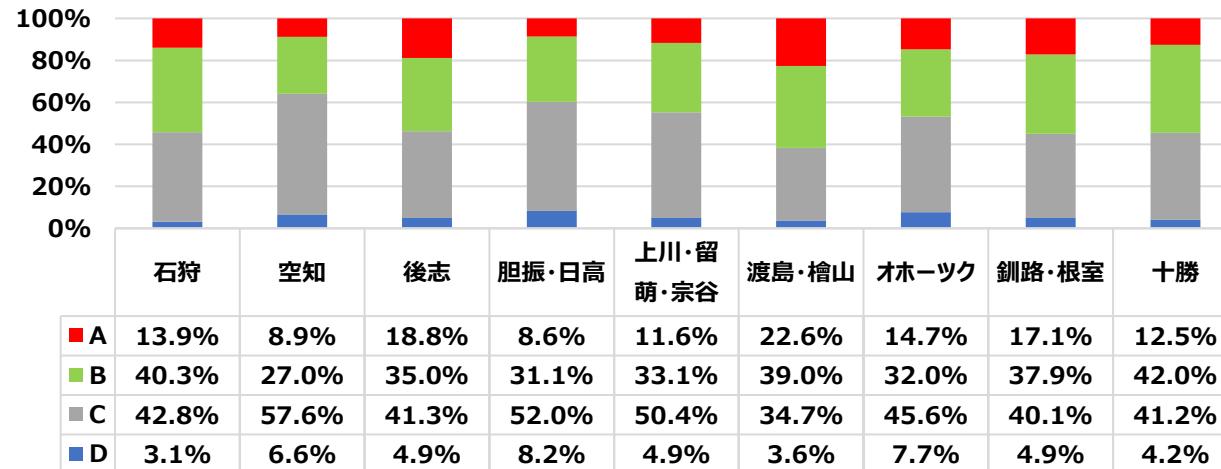
観光業界に「関わりがない」層では「オーバーツーリズムを感じたことはない」と回答した割合が顕著に高い。

「観光が仕事の業績に影響する」とした層では、「地域交通の混雑」「施設の混雑」「騒音問題」「トイレ不足」と回答した割合が高い。

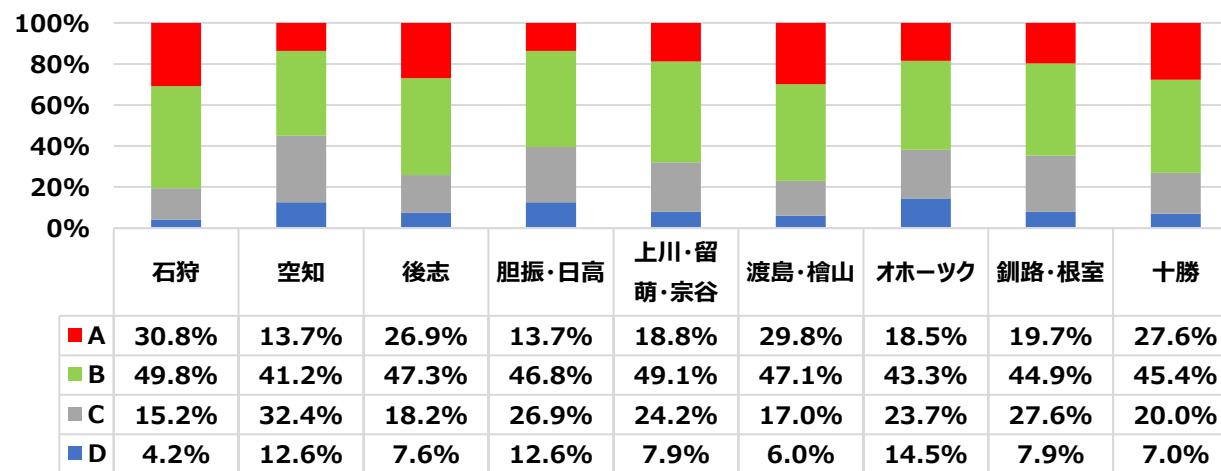
4 地域の現状

4-1 満足度構成比 1/2

総合満足度
n=3000



居住地満足度
n=3000



地域ごとに各満足度および、その構成要因の分析を行った。
以降の分析におけるn数（分母）は以下のとおり。

エリア	人数	構成比
石狩	1,401	46.7%
空知	162	5.4%
後志	114	3.8%
胆振・日高	252	8.4%
上川・留萌・宗谷	323	10.8%
渡島・檜山	237	7.9%
オホーツク	155	5.2%
釧路・根室	167	5.6%
十勝	190	6.3%
計	3,000	100.0%

総合満足度Aランクの割合では「渡島・檜山」が22.6%と最も高く、次いで「後志」18.8%、「釧路・根室」17.1%が高い。
一方、CランクとDランクの合計では「空知」が64.2%で最も高く、次いで「胆振・日高」の60.2%が高い。

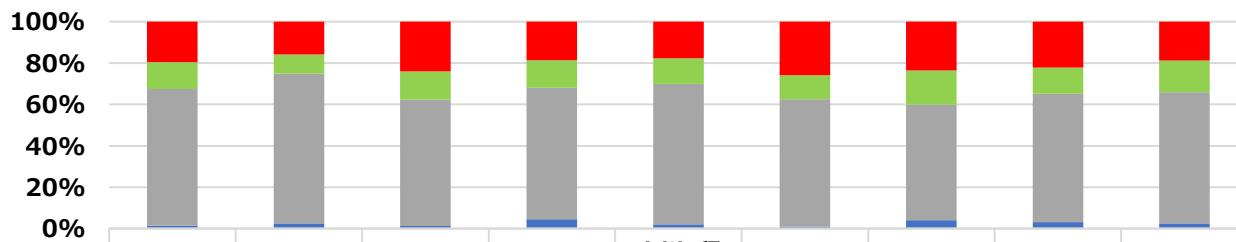
居住地満足度Aランクでは「石狩」が30.8%と最も高く、「渡島・檜山」「後志」が次いで高い。一方、Cランク・Dランクの合計でも「空知」45.0%、「胆振・日高」39.5%が最も高くなっている。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

4-1 満足度構成比 2/2

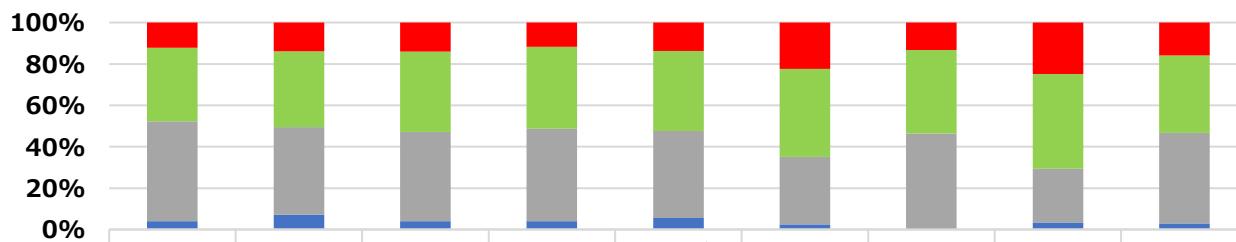
社会的満足度

n=3000



経済的満足度

n=3000

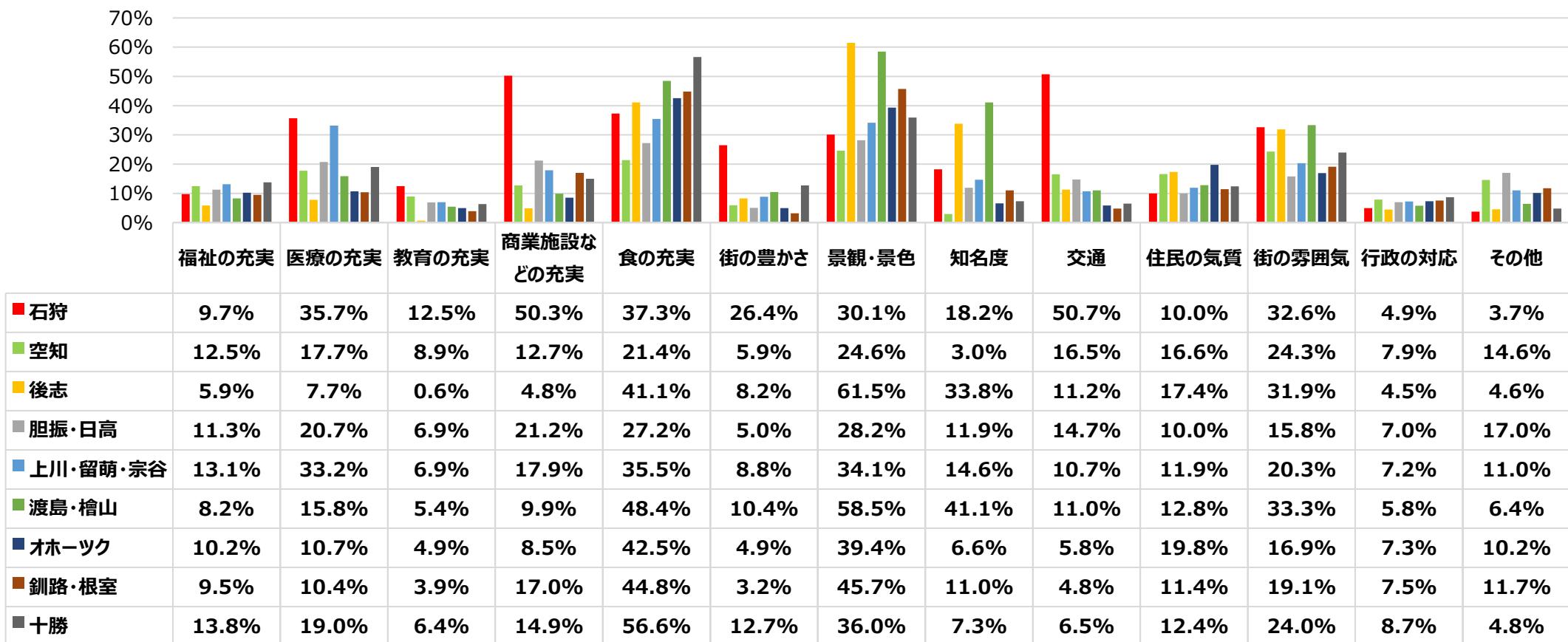


社会的満足度Aランクの割合も「渡島・檜山」が25.9%と最も高く、「後志」24.0%、「オホーツク」23.6%が次ぐ。一方、CランクとDランクの合計では「空知」が74.9%で最も高く、次いで「上川・留萌・宗谷」の69.9%、「胆振・日高」の68.1%が高くなっている。

経済的満足度のAランクでは「釧路・根室」24.8%、「渡島・檜山」22.4%の2つの振興局が突出して高い。

お住まいの地域の「満足」ポイント【MA】

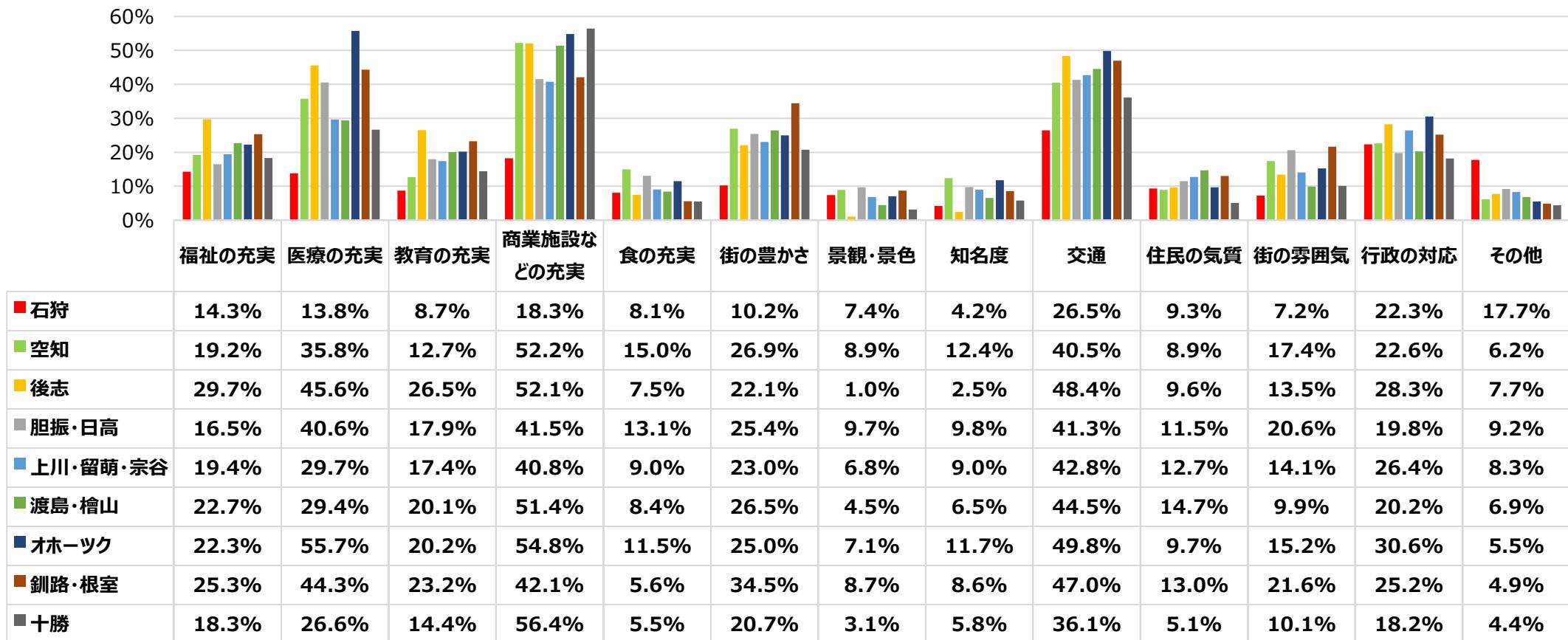
n=3000



「商業施設などの充実」「交通」の満足度では「石狩」が突出して高い。一方、「景観・景色」では「後志」「渡島・檜山」が突出している。また、「食の充実」では「十勝」が最も高く、「住民の気質」では「オホーツク」が最も高くなっている。

お住まいの地域の「不満」ポイント【MA】

n=3000



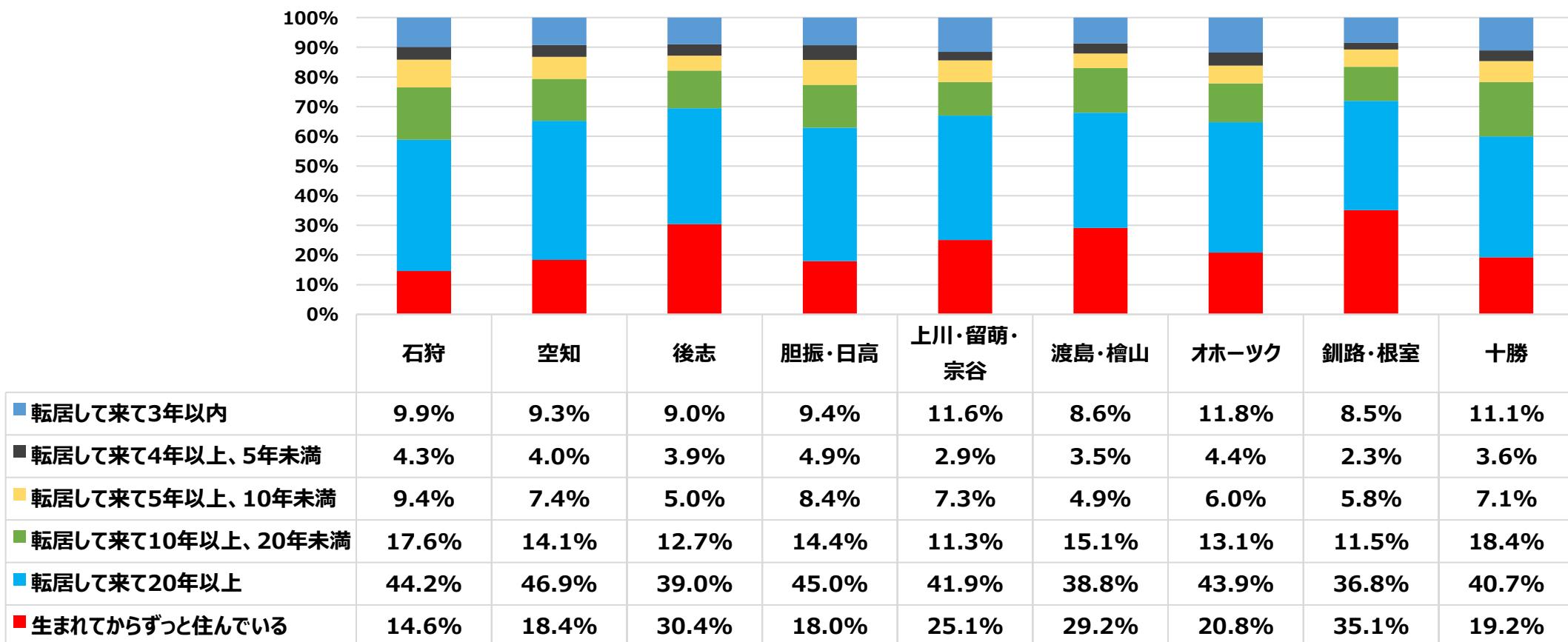
不満ポイントを見ると、「医療の充実」では「オホーツク」が最も高く、「町の豊かさ」では「釧路・根室」が最も高くなっている。

また、「福祉の充実」「教育の充実」では「後志」が最も高い。

「石狩」はほとんどの項目で不満度が低くなっている。

居住年数

n=3000

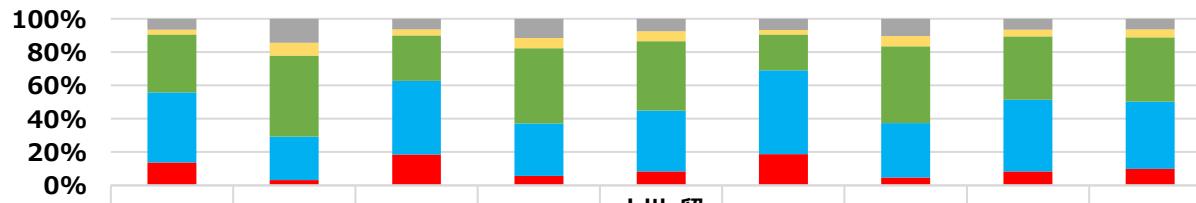


「生まれてからずっと住んでいる」割合は、「釧路・根室」が35.1%と最も高く、次いで「後志」30.4%、「渡島・檜山」29.2%が次ぐ。長年住んでいる住民の割合が高いことが、居住地満足度の高さと比例している可能性がある。

4-3 社会的満足度の形成要因 1/3

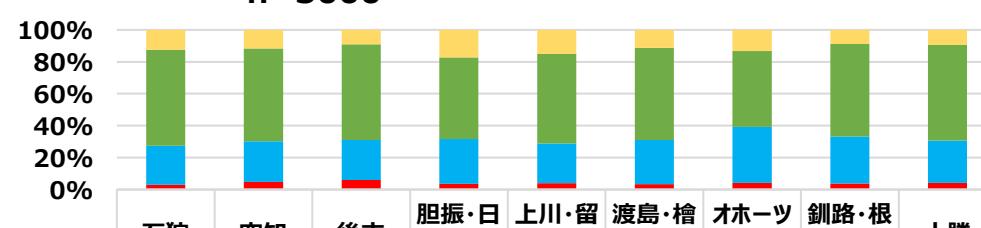
社会的満足度（地域の観光のお勧め度）

n=3000



社会的満足度（観光客と関わりを持ちたいか）

n=3000

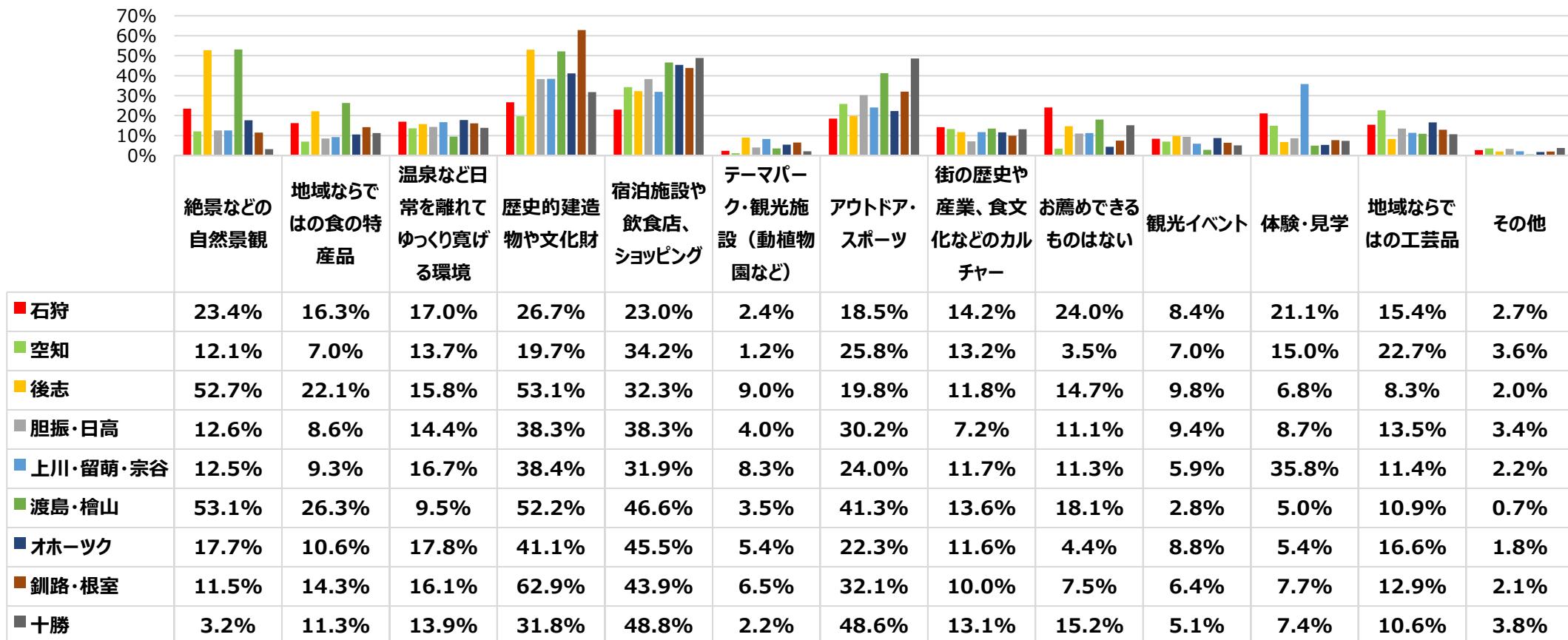


地域の観光のお薦め度では「とてもお薦めしたい」と回答した割合は「渡島・檜山」「後志」「石狩」が最も高い。一方で、「空知」「オホーツク」「胆振・日高」が最も低く、「お薦めしたくない」「あまりお薦めしたくない」の合計もこの3振興局で15%以上と最も高くなっている。

「観光客との関わり意向」に関しては、「交流を図るために声をかける」困つていそうなときは声をかける」と答えた回答者の割合は「オホーツク」が最も高く、上記地域の観光のお薦め度の傾向とは必ずしも一致していない。

お住まいの地域周辺でお薦めできるもの【MA】

n=3000



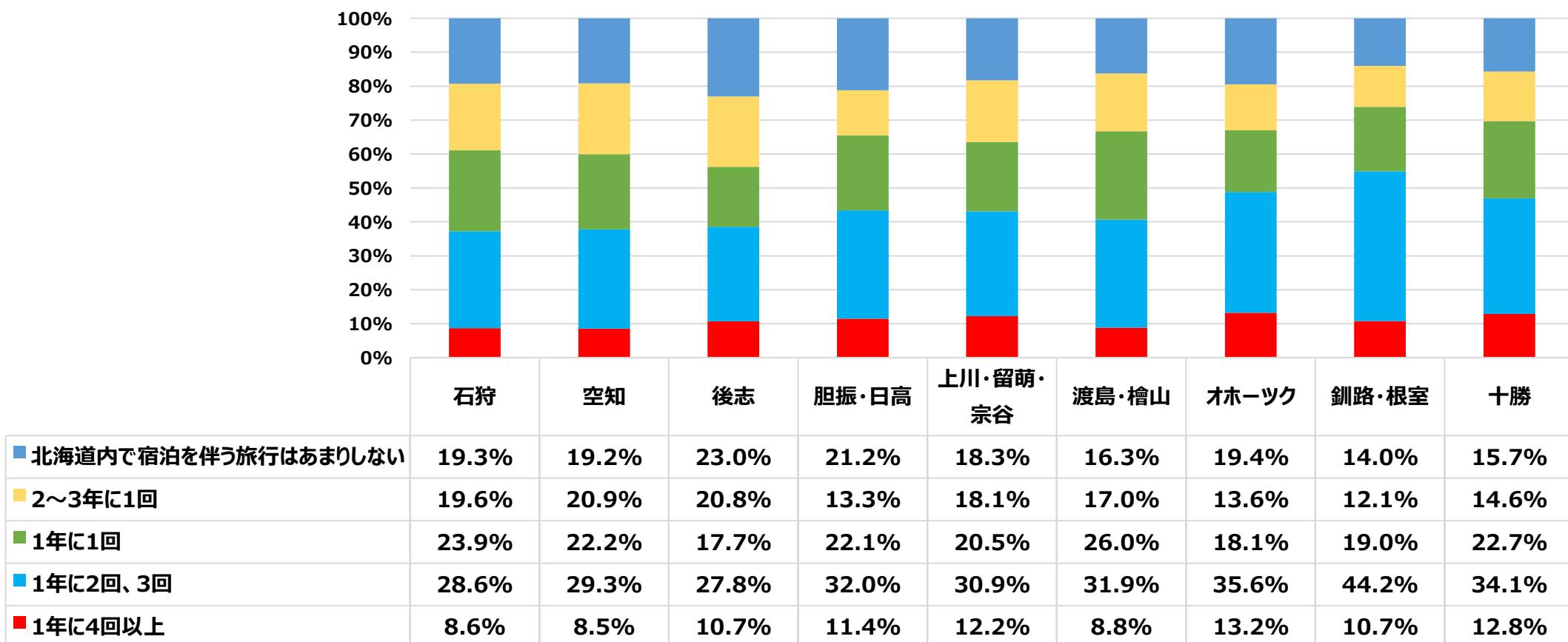
「絶景などの自然景観」「地域ならではの食の特産品」では「後志」「渡島・檜山」がそれぞれ突出している。

また、「体験・見学」では「上川・留萌・宗谷」が、「アウトドア・スポーツ」では「十勝」が最も高い。

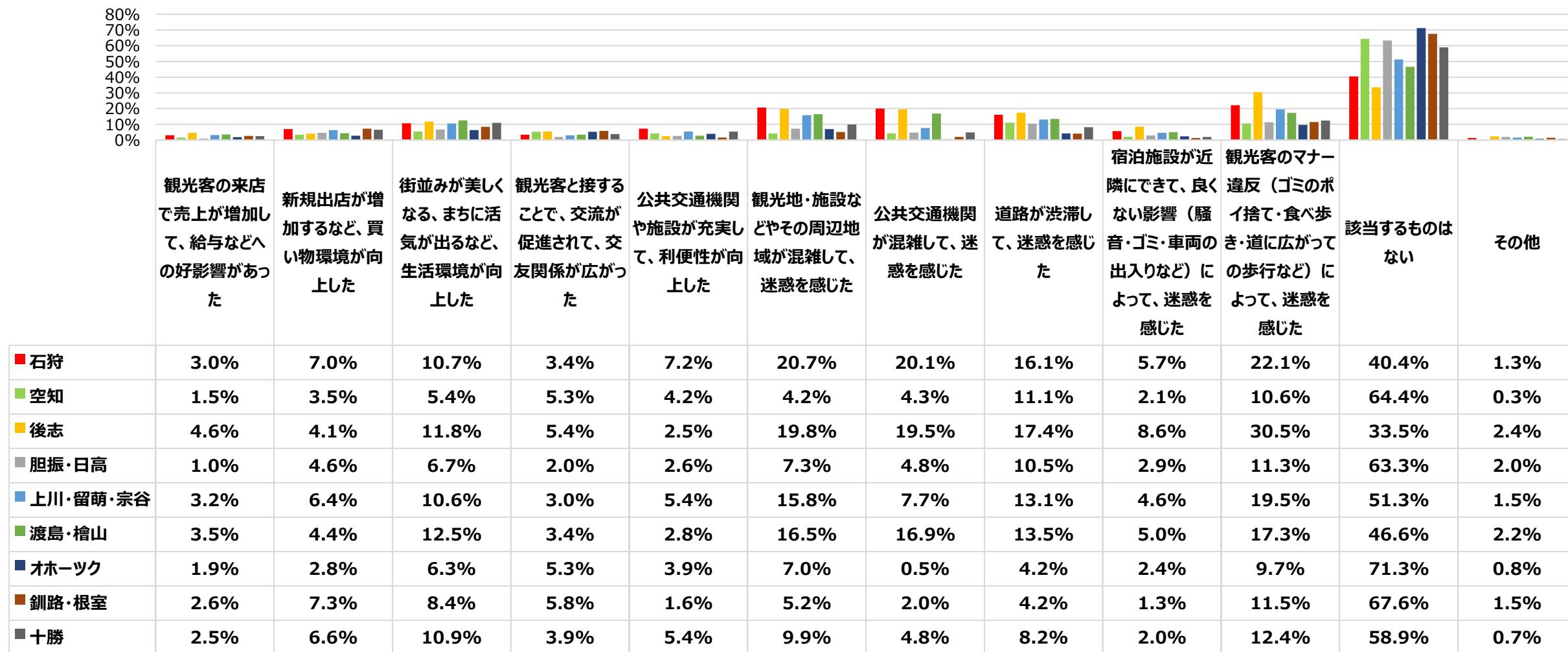
「お薦めできるものはない」と答えた割合は「石狩」が24.0%で最も高い一方、「空知」では3.5%と最も低い。

宿泊を伴う旅行頻度

n=3000

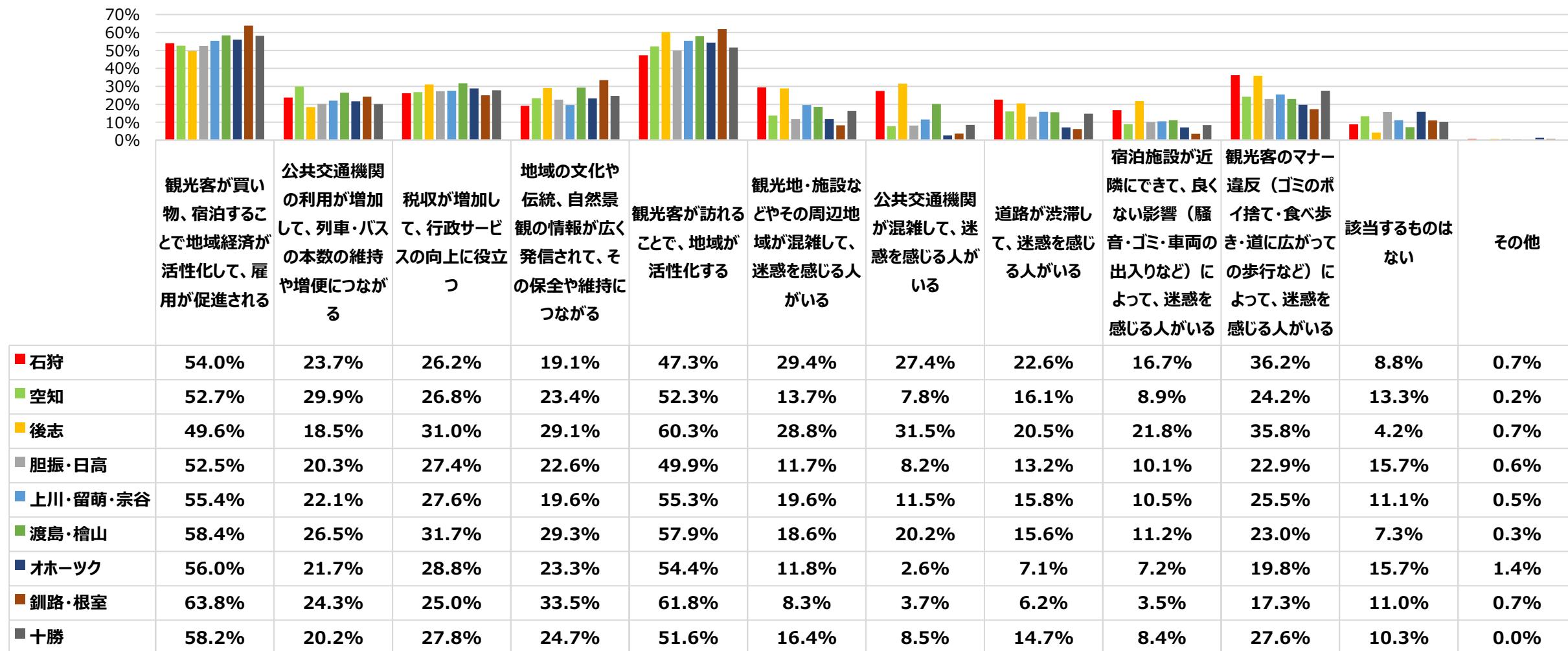


「1年に1回以上」宿泊旅行を行う回答者の割合は、「釧路・根室」が最も高く、「後志」が最も低い。

経済的満足度（観光の自身への影響【MA】） n=3000

自身への影響で「該当するものはない」と回答した割合は、「オホーツク」「釧路・根室」で最も高く、「後志」「石狩」で最も低い。ほとんどの振興局で好影響より負の影響を上げる回答者が多い傾向がある。

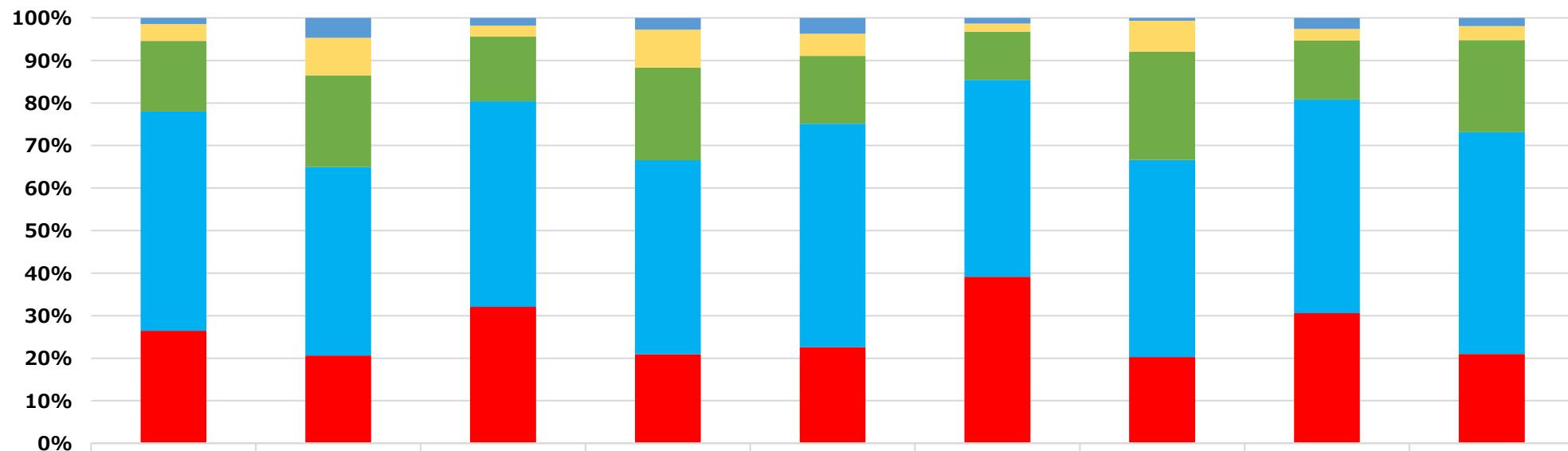
経済的満足度（観光の地域への影響【MA】） n=3000



自身への影響（前ページ）と異なり、地域への影響に関しては正の影響を挙げる回答者の割合が高くなっている。
「該当するものはない」と答えた回答者は、最も多い「胆振・日高」「オホーツク」でも15%程度にとどまる。

観光の地域経済への役割

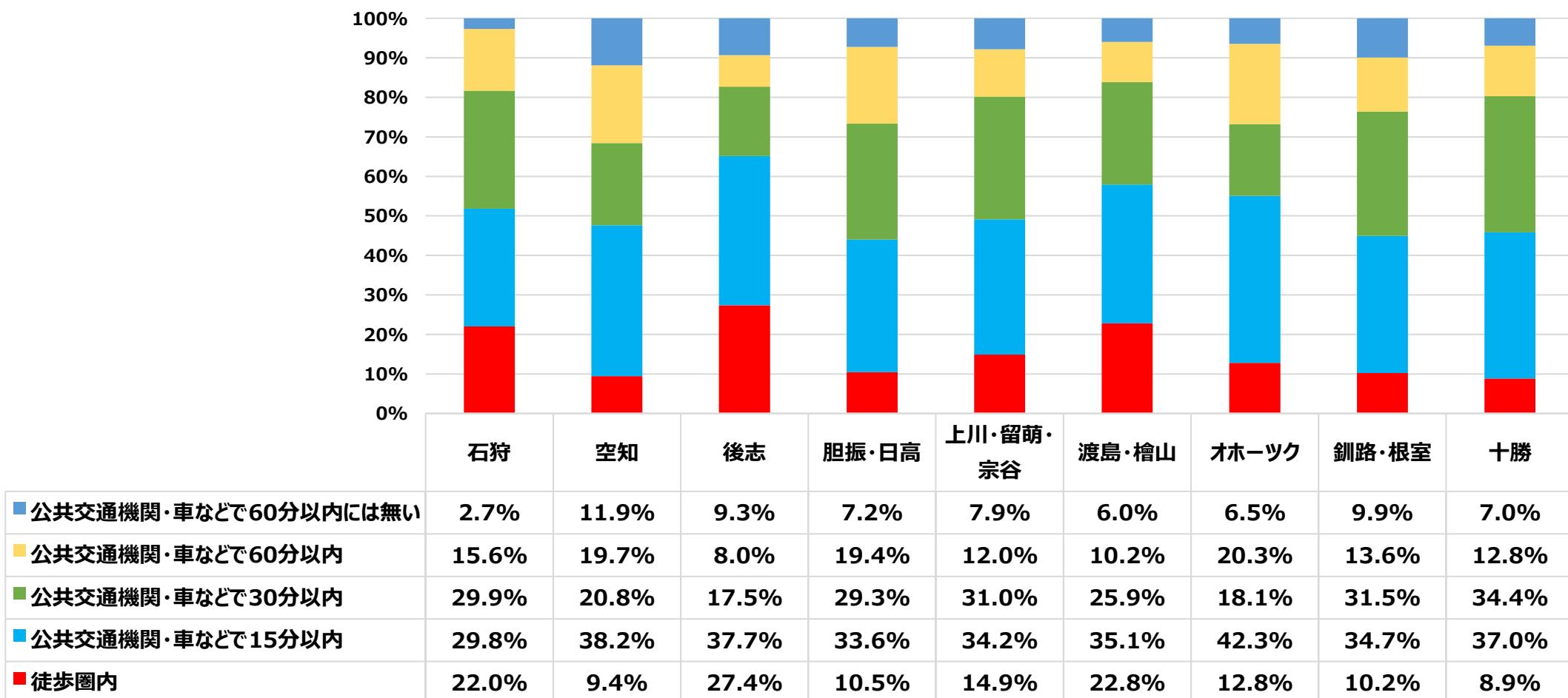
n=3000



経済的満足度の構成要素として、「観光の地域経済への役割」の意識をエリア毎に見た。
 「とても思う」「思う」の合計は、「渡島・檜山」「後志」が最も高く、次いで「釧路・根室」「石狩」が高い。

観光地・観光関連施設までの距離

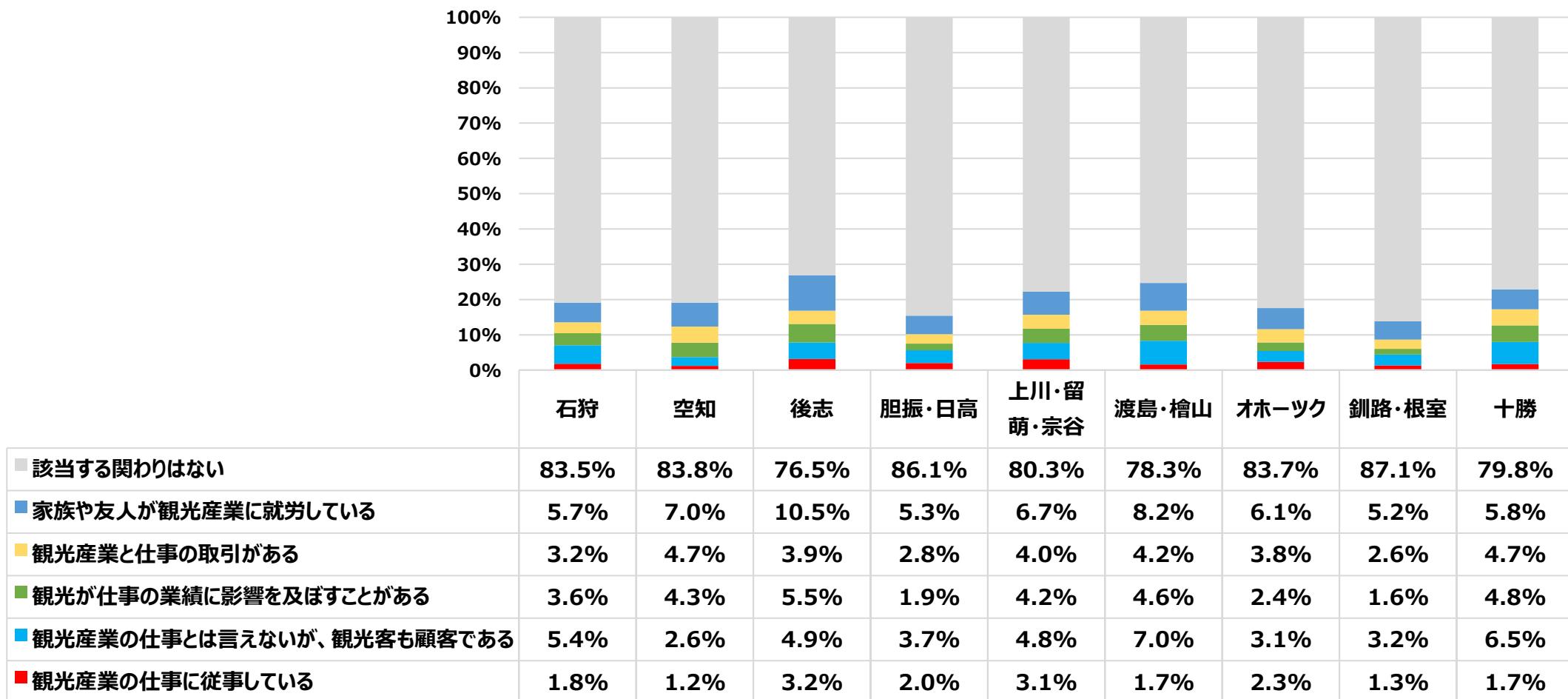
n=3000



観光地までの距離は、「後志」「渡島・檜山」「石狩」の3振興局で最も短くなっており、身近な観光地の存在が各満足度にも影響していると考えられる。

観光産業との関わり【MA】

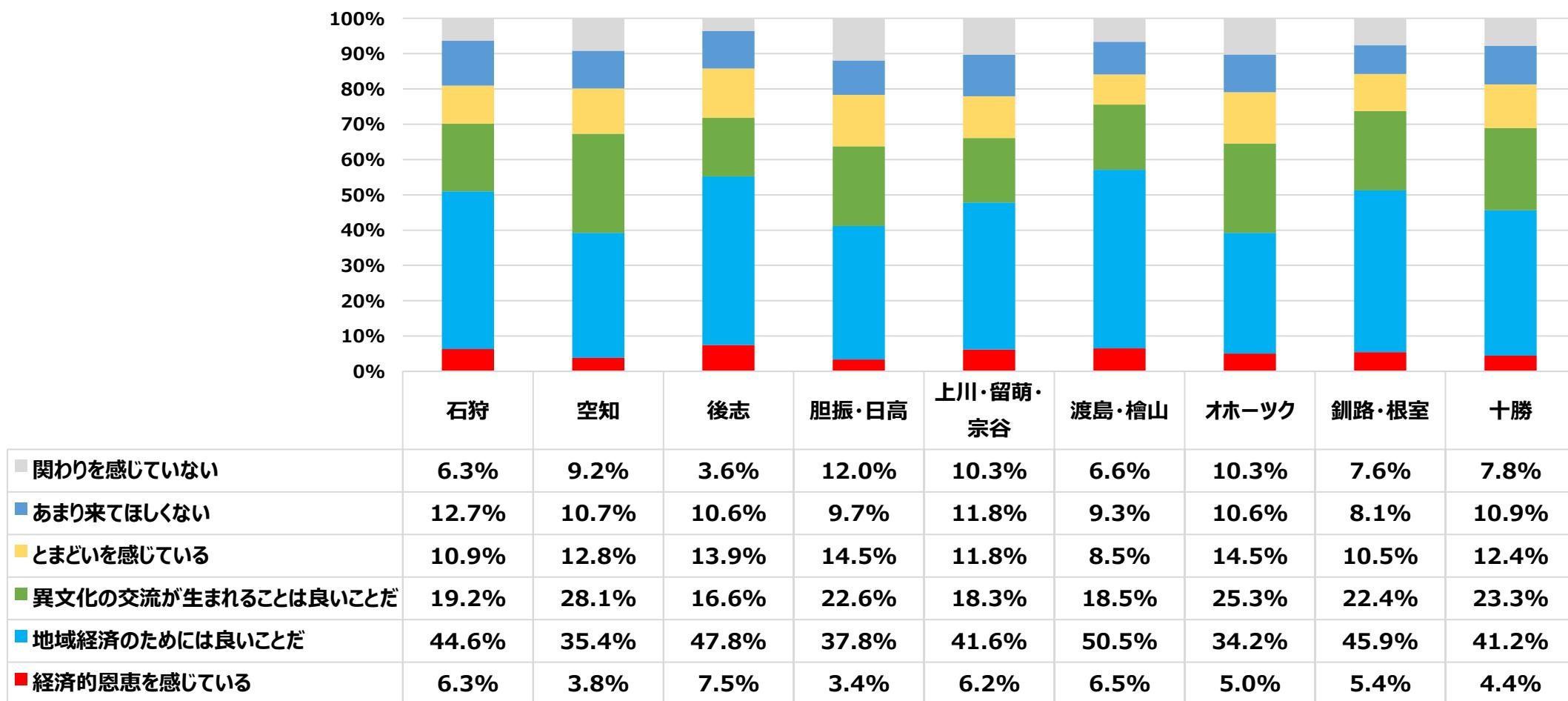
n=3000



「該当する関わりはない」と答えた割合は、「後志」「渡島・檜山」で最も低く、観光産業と何らかのかかわりを持つ層が比較的多いことがわかる。

訪日外国人観光客増への意識

n=3000

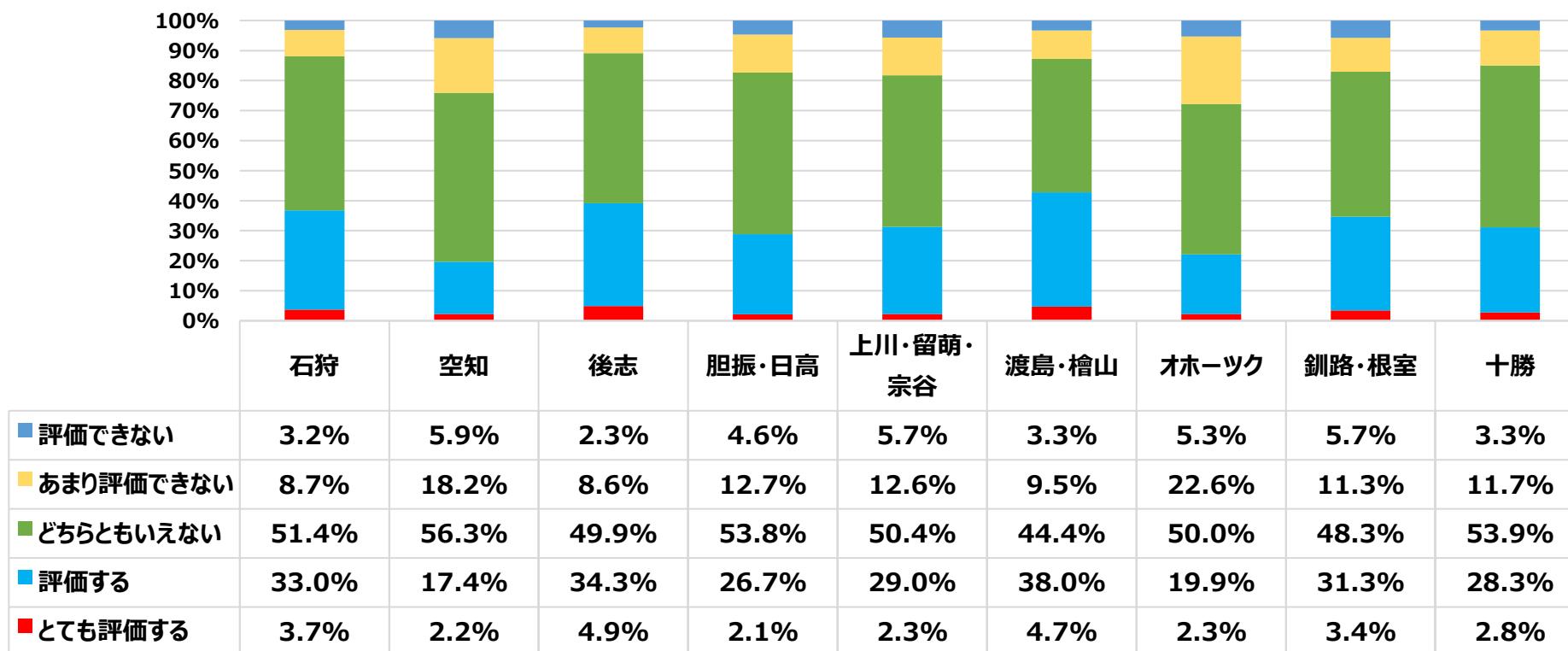


良い影響について回答した層の合計は、「渡島・檜山」が最も高く、「釧路・根室」「後志」が次ぐ。

「異文化との交流が生まれるのは良いことだ」と答えた割合は「空知」が28.1%と最も高く、「オホーツク」「十勝」が次いで高くなっている。経済的恩恵を感じない場合でも、異文化交流の面で外国人観光客増をポジティブにとらえる意識が存在することがうかがえる。

地域の観光への取り組みへの評価

n=3000

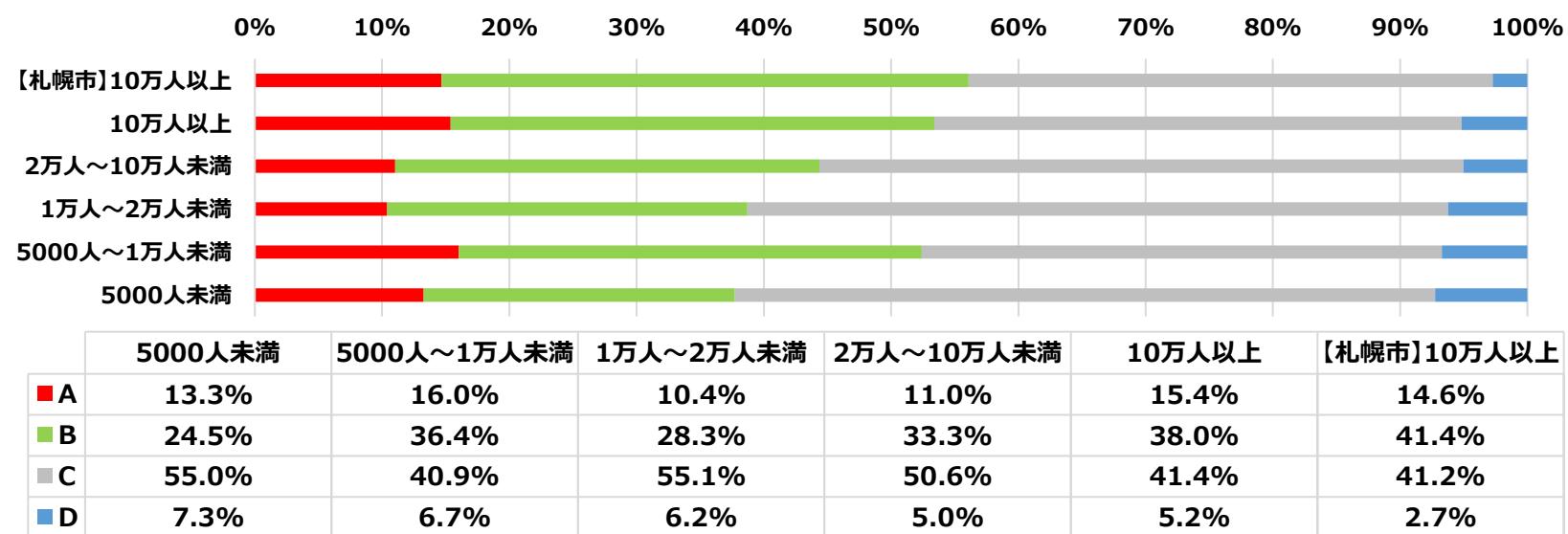


「とても評価する」「評価する」の合計は「渡島・檜山」「後志」「石狩」が最も高い。

「あまり評価できない」「評価できない」の合計は「オホーツク」が最も高く、「空知」が次ぐ。

4-6 人口規模での比較 1/2

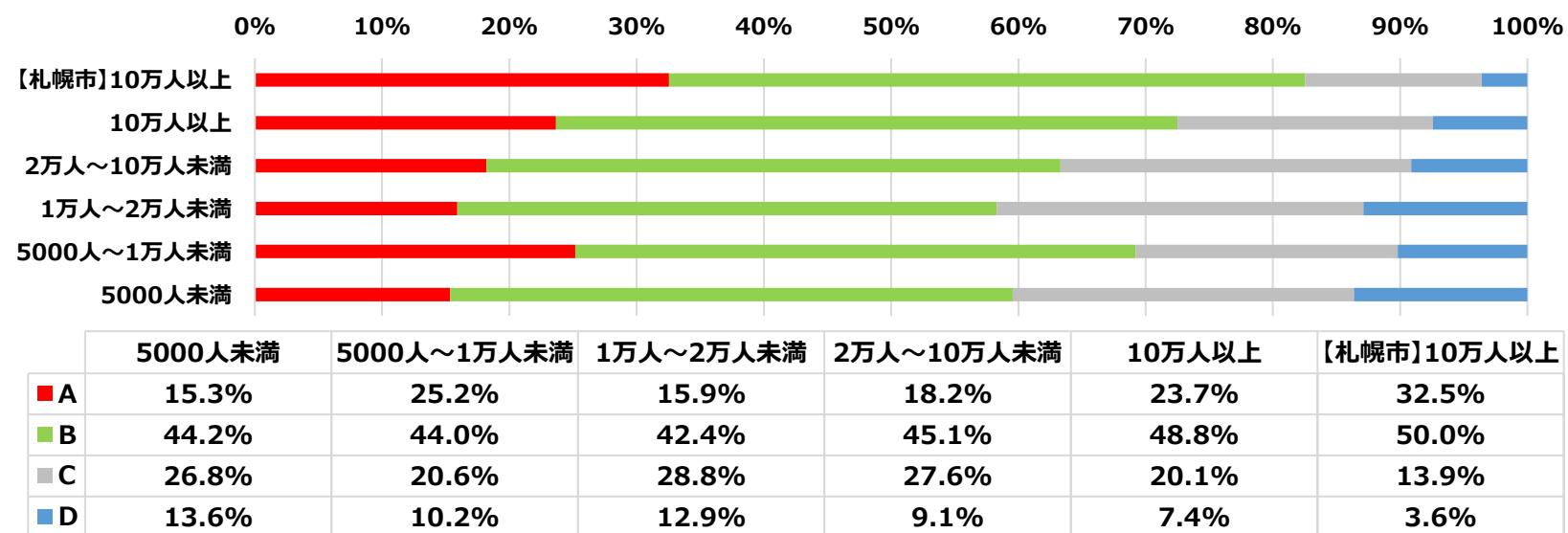
人口規模×総合満足度



居住自治体の人口規模ごとに各満足度および、その構成要因の分析を行った。以降の分析におけるn数（分母）は下記のとおり。

居住自治体人口規模	人数	構成比
【札幌市】10万人以上	1,191	39.7%
10万人以上	840	28.0%
2万人～10万人未満	490	16.3%
1万人～2万人未満	218	7.3%
5000人～1万人未満	135	4.5%
5000人未満	126	4.2%
総計	3,000	100.0%

人口規模×居住地満足度



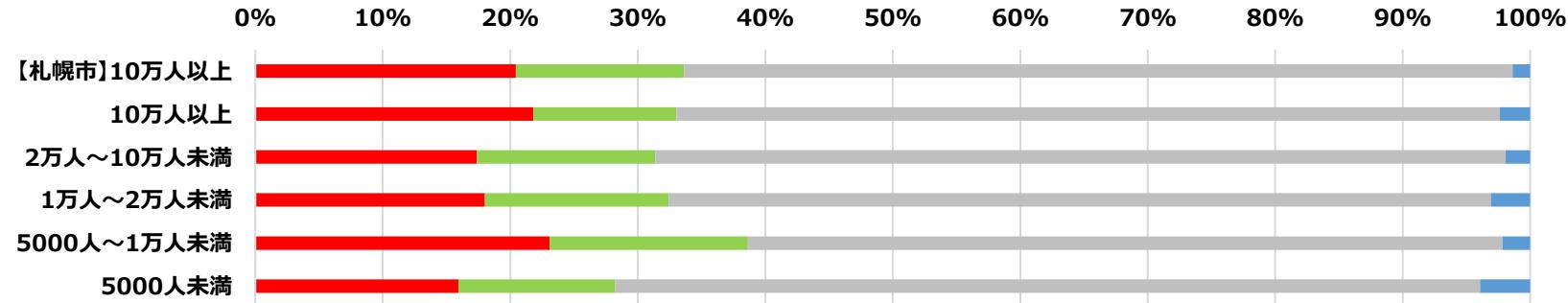
総合満足度・居住地満足度とともに、人口2万人以上の自治体居住者で人口に従ってAランク・Bランクの回答比率が上がる傾向。一方、1万人～2万人未満の市町村ではAランク・Bランクの合計が最も低くなる。

これらの傾向は昨年度の調査とほぼ同じ。人口1万人～2万人前後の市町村における何らかの課題の存在を示唆している。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

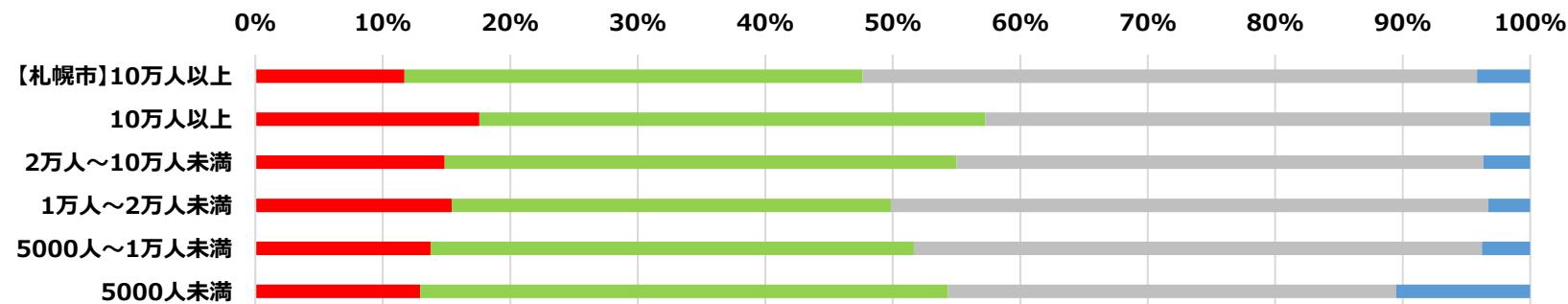
4-6 人口規模での比較 2/2

人口規模×社会的満足度



	5000人未満	5000人～1万人未満	1万人～2万人未満	2万人～10万人未満	10万人以上	[札幌市]10万人以上
■ A	15.9%	23.1%	18.0%	17.4%	21.8%	20.4%
■ B	12.3%	15.6%	14.4%	14.0%	11.2%	13.2%
■ C	67.8%	59.2%	64.5%	66.7%	64.6%	65.0%
■ D	3.9%	2.2%	3.1%	1.9%	2.4%	1.4%

人口規模×経済的満足度



	5000人未満	5000人～1万人未満	1万人～2万人未満	2万人～10万人未満	10万人以上	[札幌市]10万人以上
■ A	12.9%	13.7%	15.4%	14.9%	17.6%	11.7%
■ B	41.4%	37.9%	34.4%	40.1%	39.7%	35.9%
■ C	35.2%	44.6%	46.9%	41.3%	39.6%	48.2%
■ D	10.5%	3.8%	3.3%	3.7%	3.1%	4.2%

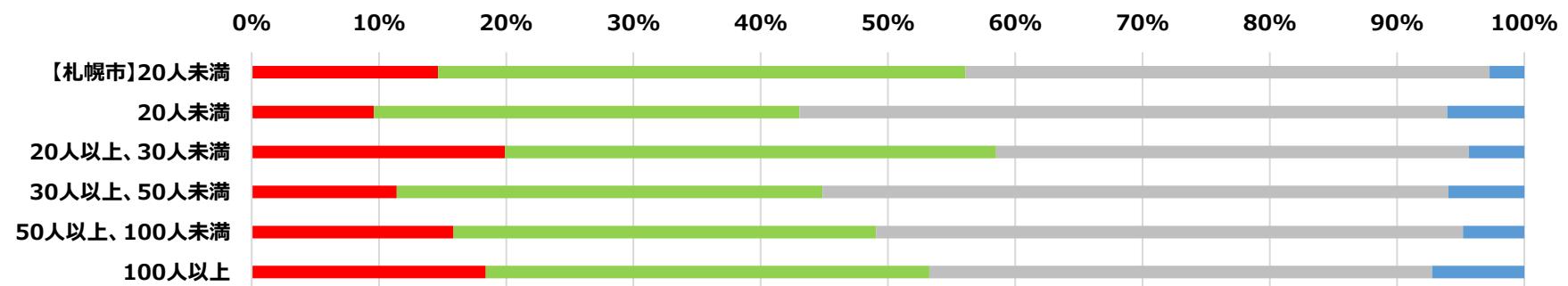
社会的満足度・経済的満足度に関しては市町村人口との比例関係がほぼみられない。

昨年度調査と異なり、社会的満足度でAランク・Bランクの合計が最も高いのは5000人～1万人未満の市町村となっている。昨年度、最も高かった5000人未満の市町村はAランク・Bランクの合計が最も低い。

経済的満足度では札幌市以外の10万人以上の市町村でAランク・Bランクの合計が最も高く、次いで2万人～10万人以上、5000人未満となっている。札幌市はAランク・Bランクの合計が最も低い。

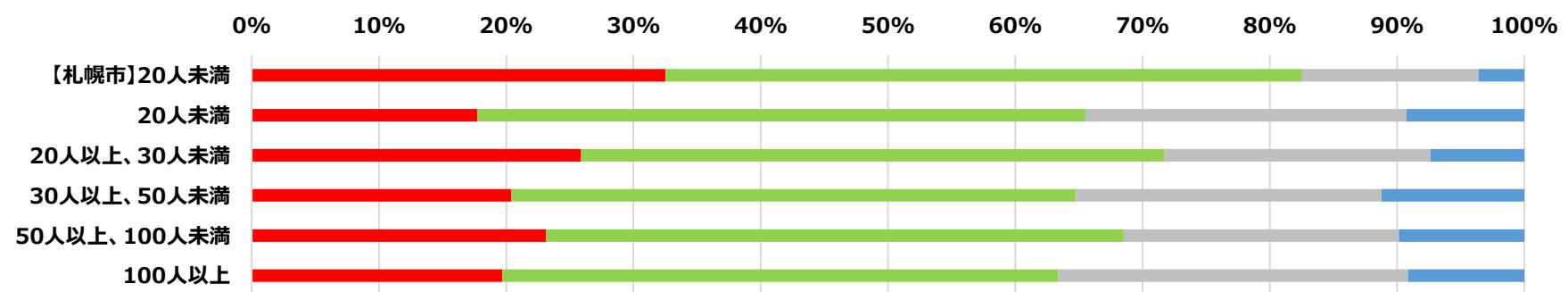
4-7 住民1人あたり観光入込客数での比較 1/3

住民1人あたり観光客入込総数×総合満足度



	100人以上	50人以上、100人未満	30人以上、50人未満	20人以上、30人未満	20人未満	【札幌市】20人未満
■ A	18.4%	15.9%	11.4%	19.9%	9.6%	14.6%
■ B	34.9%	33.2%	33.4%	38.6%	33.4%	41.4%
■ C	39.5%	46.1%	49.2%	37.2%	50.9%	41.2%
■ D	7.2%	4.8%	6.0%	4.4%	6.1%	2.7%

住民1人あたり観光客入込総数×居住地満足度



	100人以上	50人以上、100人未満	30人以上、50人未満	20人以上、30人未満	20人未満	【札幌市】20人未満
■ A	19.7%	23.1%	20.4%	25.9%	17.7%	32.5%
■ B	43.7%	45.4%	44.4%	45.8%	47.8%	50.0%
■ C	27.5%	21.6%	24.0%	20.9%	25.2%	13.9%
■ D	9.1%	9.9%	11.2%	7.4%	9.3%	3.6%

観光入込客数はR5年度（R5年4月～R6年3月）の入込総数（日帰客+宿泊客、日本人+外国人の合計）

「観光客との接触濃度」の影響を見るため、「住民1人あたり観光入込客数」ごとに自治体を分類し、居住者毎の意識の違いを見た。以降の分析におけるn数（分母）は下記のとおり。

住民1人あたり観光入込客数	人数	構成比
【札幌市】20人未満	1,191	39.7%
20人未満	828	27.6%
20人以上、30人未満	366	12.2%
30人以上、50人未満	179	6.0%
50人以上、100人未満	343	11.4%
100人以上	92	3.1%
総計	3,000	100.0%

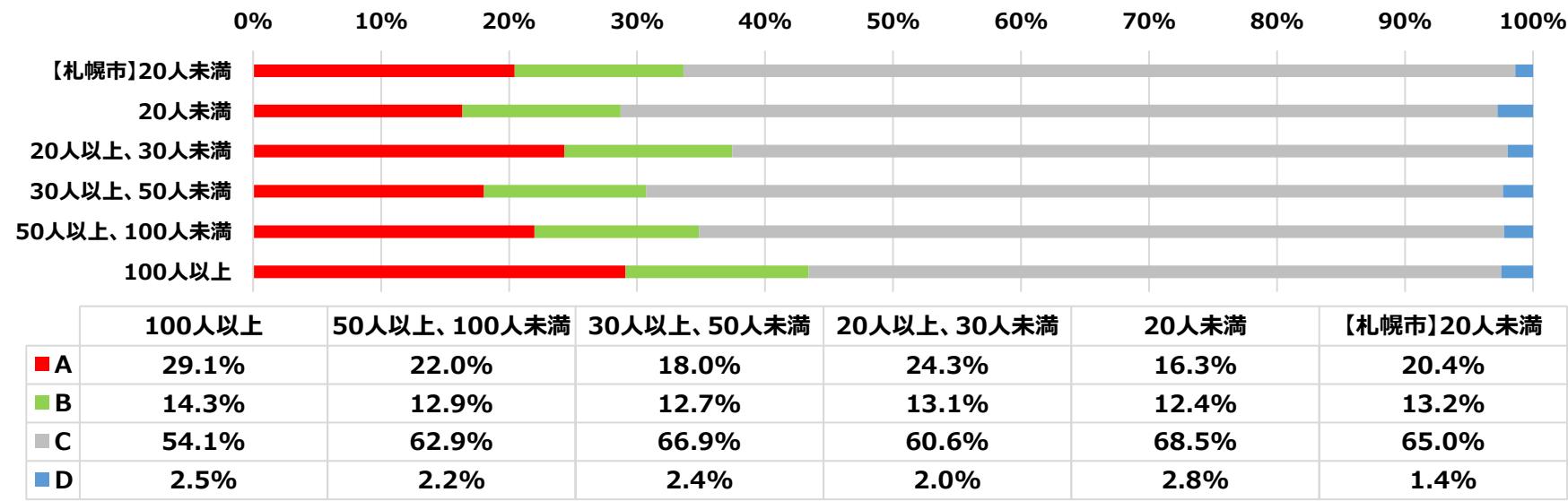
総合満足度は、観光客入込総数30人以上の市町村では人数が多いほど総合満足度のAランク・Bランクの合計が上がる傾向にある。これは、次ページの社会的満足度の傾向を反映している。

一方、居住地満足度ではそのような傾向はみられない。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

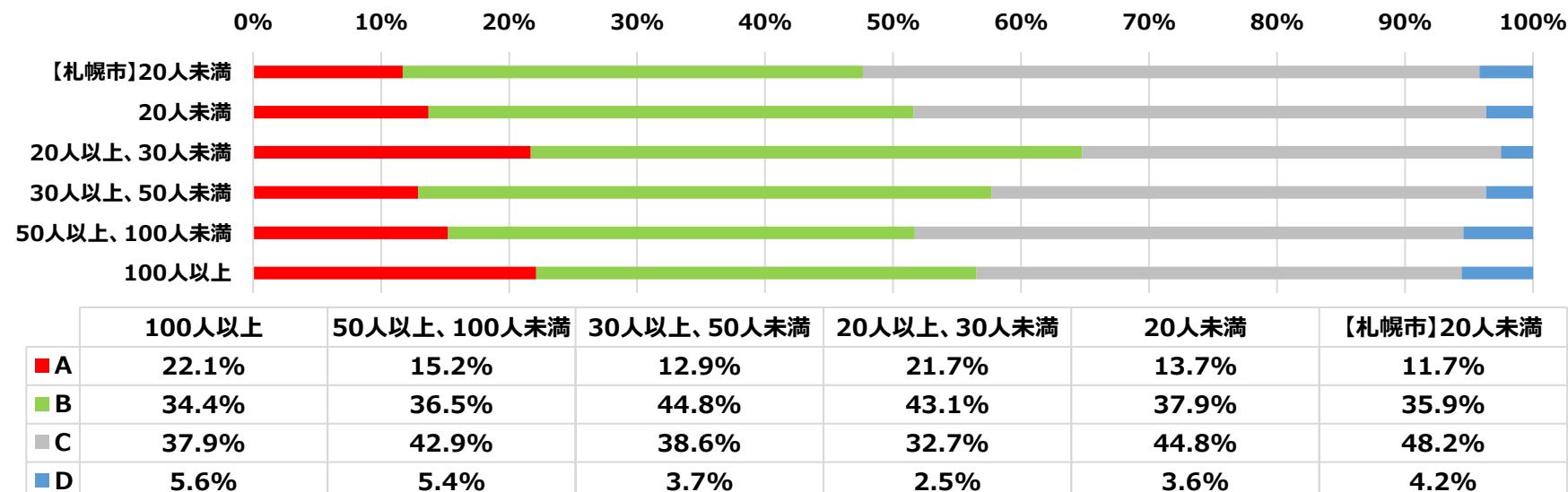
4-7 住民1人あたり観光入込客数での比較 2/3

住民1人あたり観光客入込総数×社会的満足度



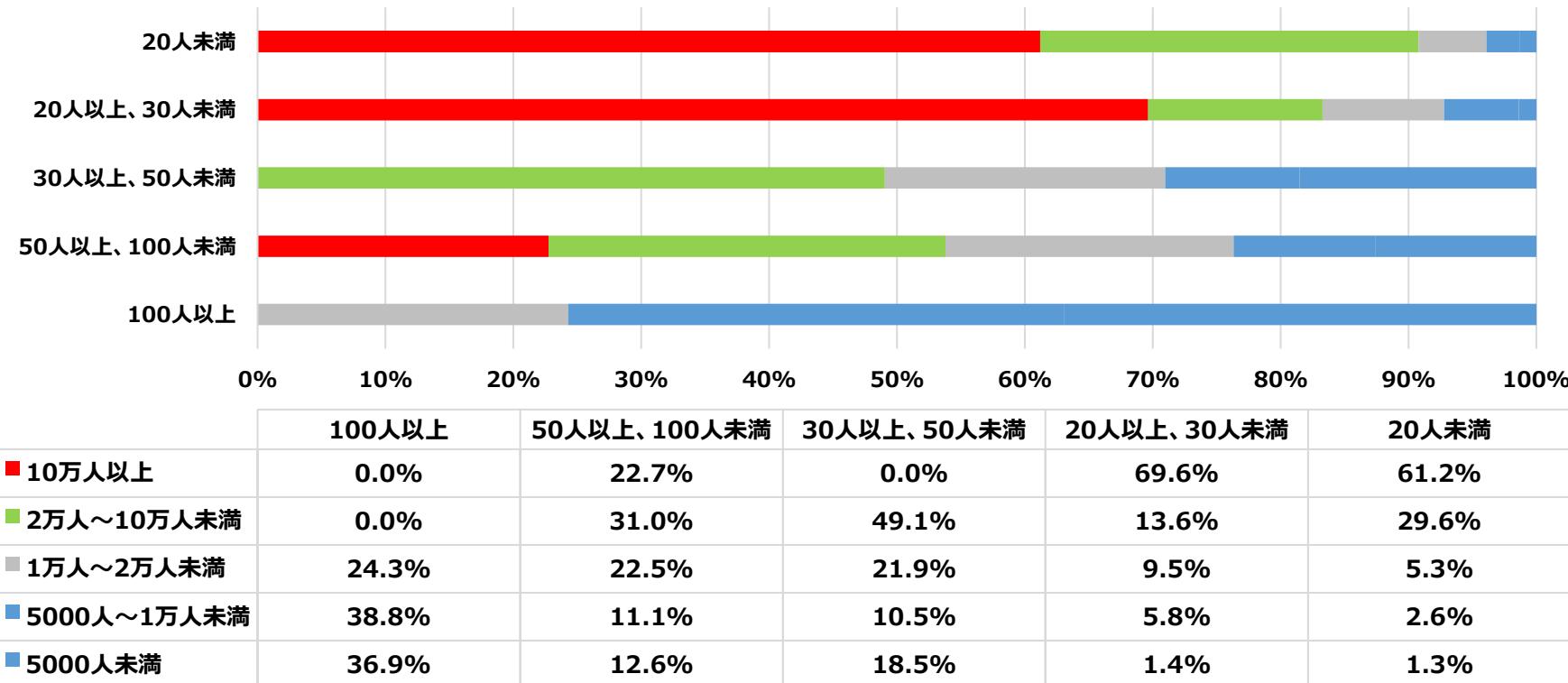
社会的満足度では、観光客入込総数30人以上の市町村は人数が多いほど総合満足度のAランク・Bランクの合計割合が上がる傾向にある。一方で、経済的満足度、居住地満足度（前ページ）にはそのような傾向はみられない。観光客と接する機会が多いことが、社会的満足度に影響しているといえる。

住民1人あたり観光客入込総数×経済的満足度



経済的満足度では、20人以上、30人未満の市町村でAランク・Bランクの合計割合が最も高く、札幌市を含む20人未満の市町村で低い。入込客が相対的に少ない市町村では、経済的恩恵を実感しづらいことがわかる。

住民1人あたり観光入込客数と居住地人口の関係



居住地の「住民1人あたり観光入込客数」と自治体人口規模の関係を見た。

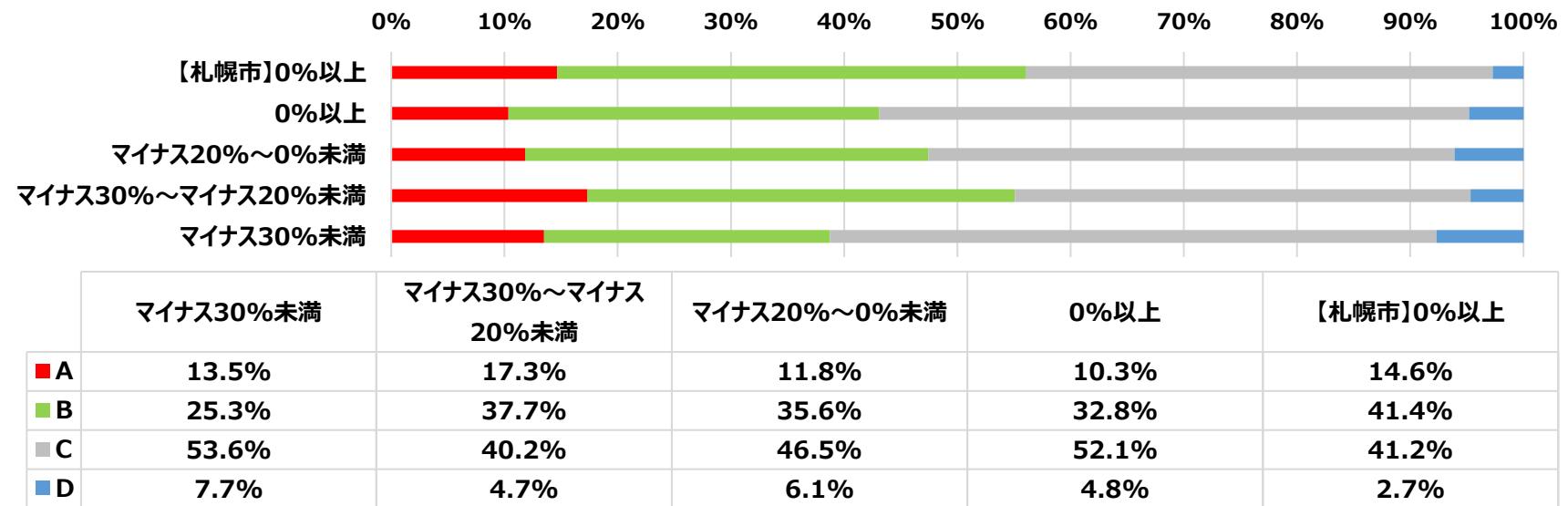
1人当たり観光入込客数が100人以上の市町村は、すべて2万人未満の小規模市町村である。

1人当たり観光入込客数50人以上、100人未満の市町村には10万人以上の都市も一定数含まれる。

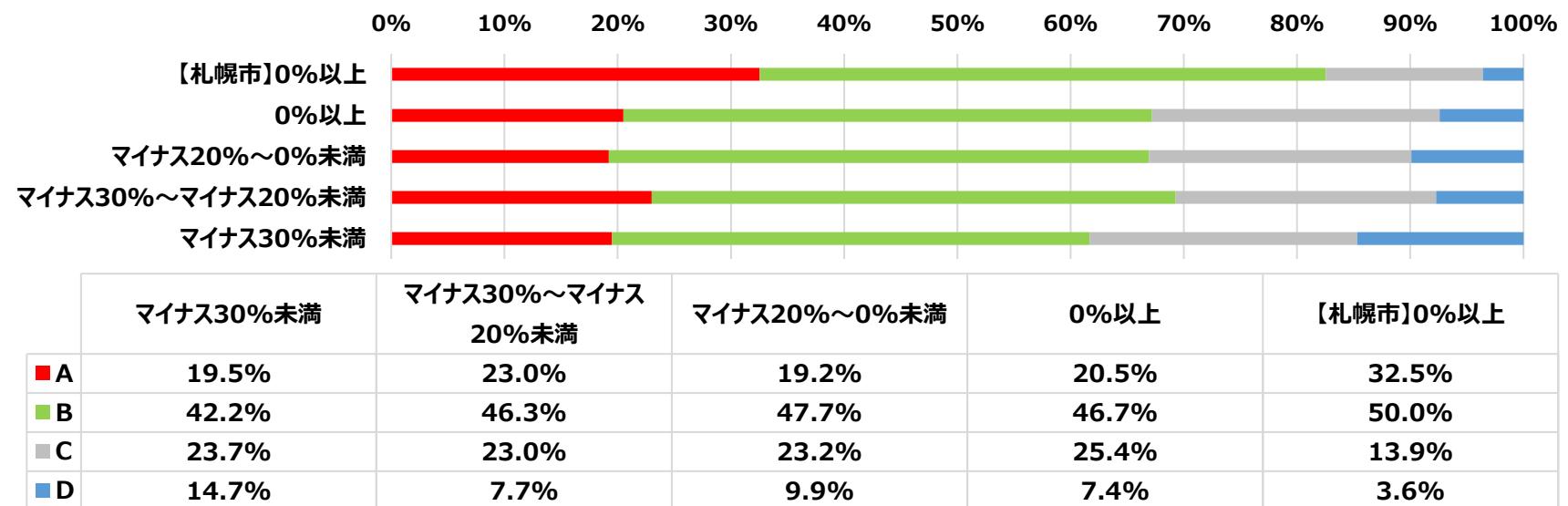
30人未満の市町村の大半（8割以上）が2万人以上の都市であり、人口に対して観光客が少ない環境である。

4-8 過疎化進行度での比較 1/2

人口増減率×総合満足度



人口増減率×居住地満足度



「過疎化進行度」の影響を見るため、「人口増減率」ごとに自治体を分類し、居住者毎の意識の違いを見た。以降の分析におけるn数（分母）は下記のとおり。

※人口増減率は令和2年度国勢調査に対して過去25年間の増減で算出。

人口増減率	人数	構成比
【札幌市】0%以上	1,191	39.7%
0%以上	397	13.2%
マイナス20%～0%未満	609	20.3%
マイナス30%～マイナス20%未満	596	19.9%
マイナス30%未満	207	6.9%
総計	3,000	100.0%

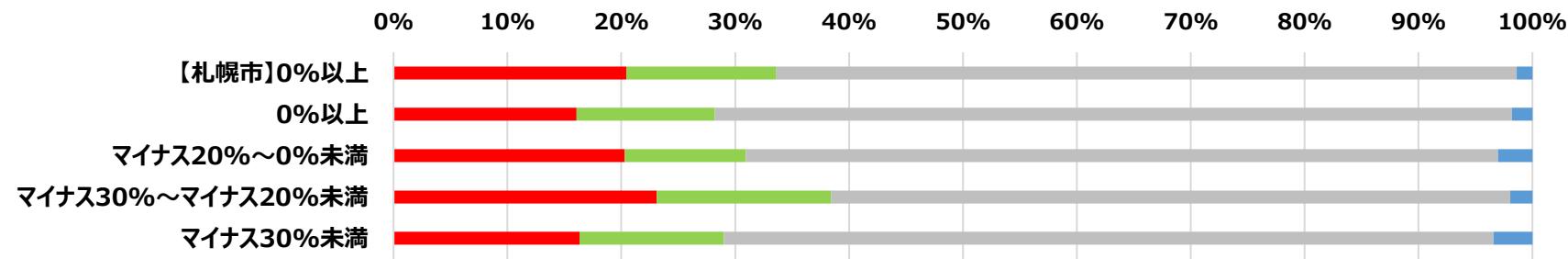
総合満足度は人口増減率マイナス30%以上の市町村でAランク・Bランクの合計が最も低くなっている。一方で、マイナス30%～マイナス20%未満の市町村ではAランク・Bランクの合計割合が札幌市と同程度に高く、人口増減率に従った明確な傾向はみられない。これは昨年度の調査と同じ特徴である。

居住地満足度でも昨年度と同様の傾向がみられる。Aランク・Bランクの合計割合は、札幌市が最も高く、マイナス30%未満の市町村で最も低くなっている。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

4-8 過疎化進行度での比較 2/2

人口増減率×社会的満足度

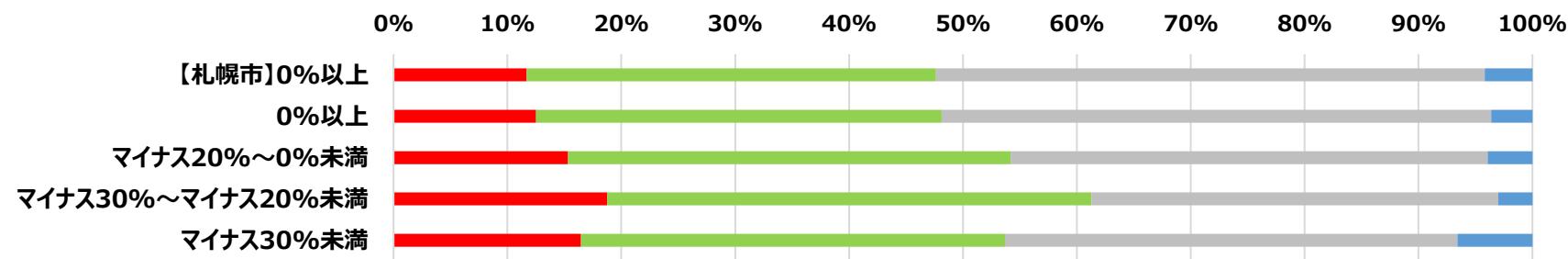


マイナス30%未満	マイナス30%~マイナス20%未満	マイナス20%~0%未満	0%以上	【札幌市】0%以上
■ A 16.3%	23.1%	20.3%	16.1%	20.4%
■ B 12.7%	15.3%	10.6%	12.1%	13.2%
■ C 67.6%	59.6%	66.0%	70.0%	65.0%
■ D 3.4%	2.0%	3.0%	1.8%	1.4%

社会的満足度でも昨年度同様、人口増減率が低い市町村ほどAランク・Bランクの合計割合が上がるが、マイナス30%未満の市町村ではAランク・Bランクの合計割合は低い。

経済的満足度でも社会的満足度と同じ特徴がみられるが、昨年度よりも人口増減率との比例関係が明確になっている。

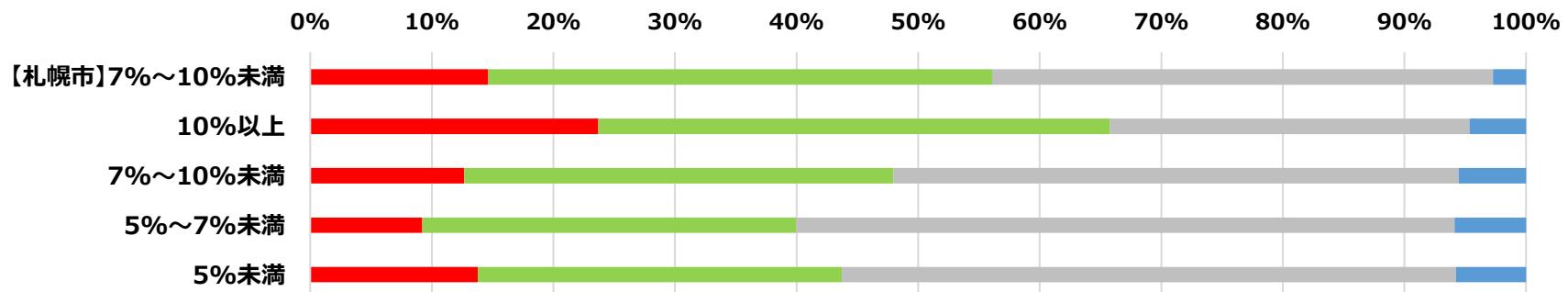
人口増減率×経済的満足度



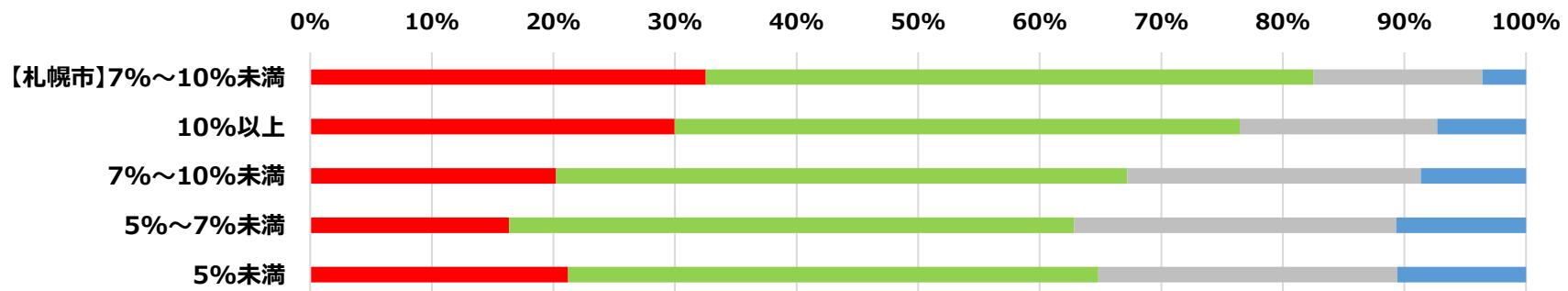
マイナス30%未満	マイナス30%~マイナス20%未満	マイナス20%~0%未満	0%以上	【札幌市】0%以上
■ A 16.5%	18.8%	15.3%	12.5%	11.7%
■ B 37.2%	42.5%	38.9%	35.6%	35.9%
■ C 39.7%	35.7%	41.9%	48.3%	48.2%
■ D 6.6%	3.0%	3.9%	3.6%	4.2%

4-9 観光産業の比重による比較 1/2

「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×総合満足度



「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×居住地満足度



「観光産業従事者数」の影響を見るため、「宿泊・飲食サービス業従業者的人口比率」を自治体毎に算出・分類し、居住者毎の意識の違いを見た。

宿泊・飲食サービス業の従業者数は「当該自治体に拠点を置く事業社の従業員数」のため、正確な数値とは言えないが、観光産業の比重を知る指標としては十分と考える。以降の分析におけるn数（母数）は以下のとおり。

宿泊・飲食従業者比率	人数	構成比
【札幌市】7%~10%未満	1,191	39.7%
10%以上	246	8.2%
7%~10%未満	913	30.4%
5%~7%未満	417	13.9%
5%未満	232	7.7%
総計	3,000	100.0%

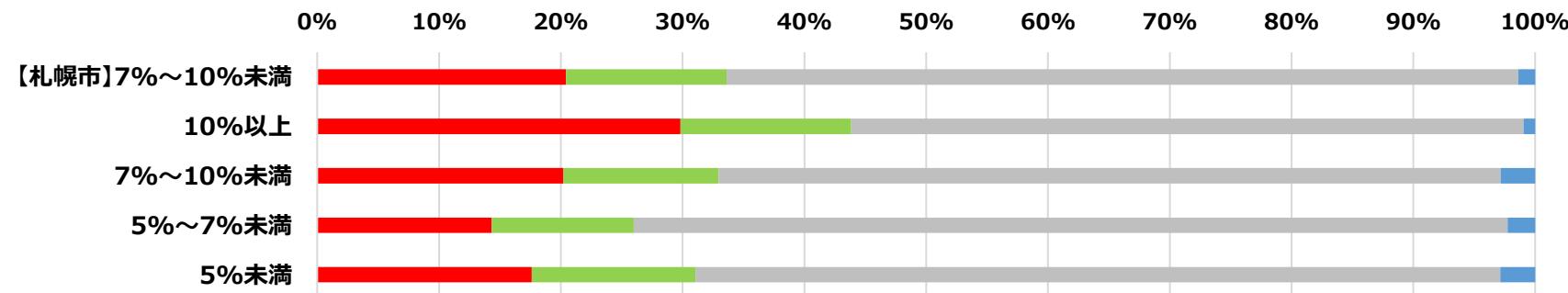
昨年度の調査同様、総合満足度、居住地満足度ともに10%以上の市町村がAクラス・Bクラスの合計割合が最も高く、観光産業の従事者割合がある程度の影響を与えてることがわかる。

一方、これも昨年度と同じく、5%未満の市町村のほうが5%~7%の市町村よりも満足度が高くなっている。

※上記「人数」は小数点以下を含むウェイトバック値の合計。表記の値の合計は総計と一致しないことがある。

4-9 観光産業の比重による比較 2/2

「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×社会的満足度

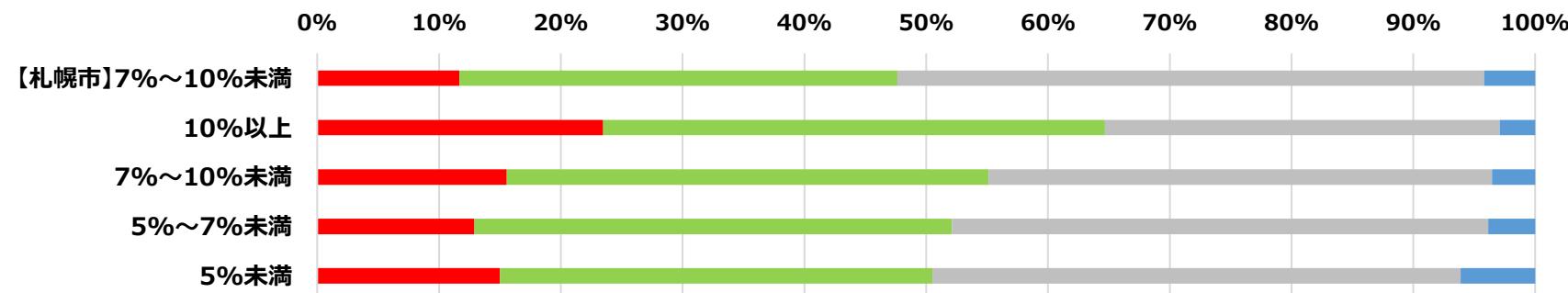


社会的満足度、経済的満足度に関しても10%以上の市町村が最もAランク・Bランクの合計割合が高く、観光産業従業者比率が下がるほどその割合が下がる傾向。

一方で、居住地満足度と同じく、社会的満足度でも5%未満の市町村では5%~7%未満の市町村よりAランク・Bランクの合計割合が高い。

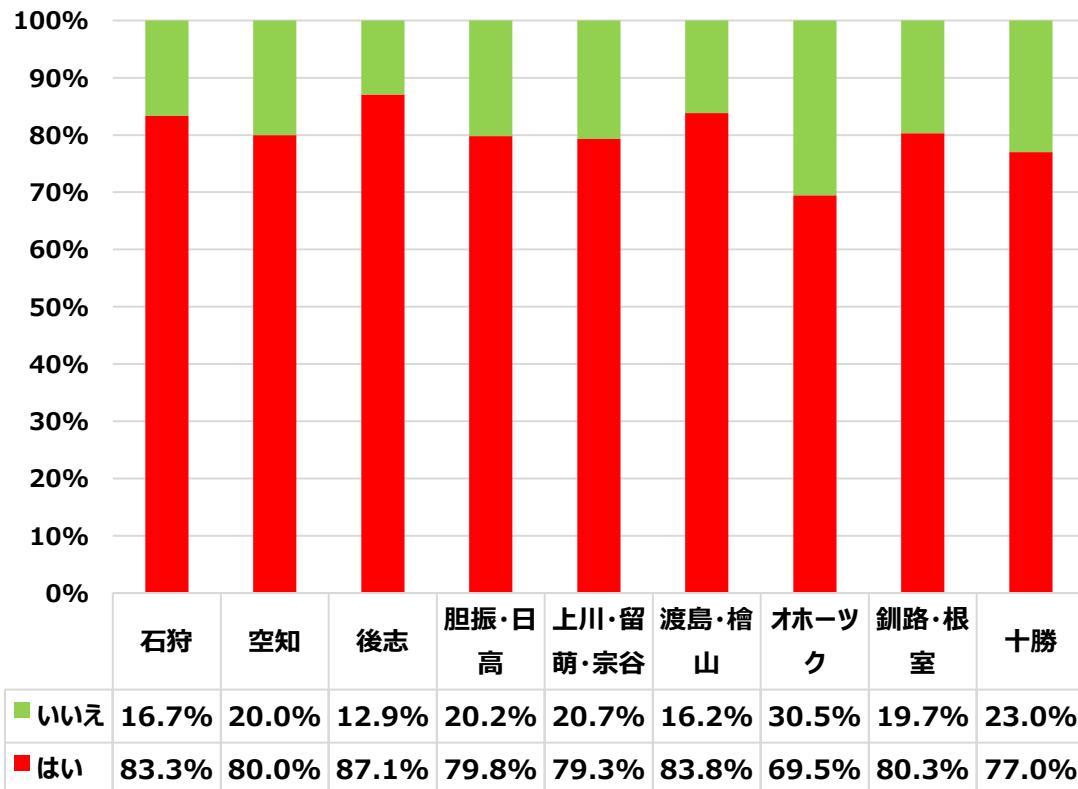
こちらも上記の傾向は概ね昨年度調査と同じである。

「宿泊・飲食サービス業」従業者比率×経済的満足度



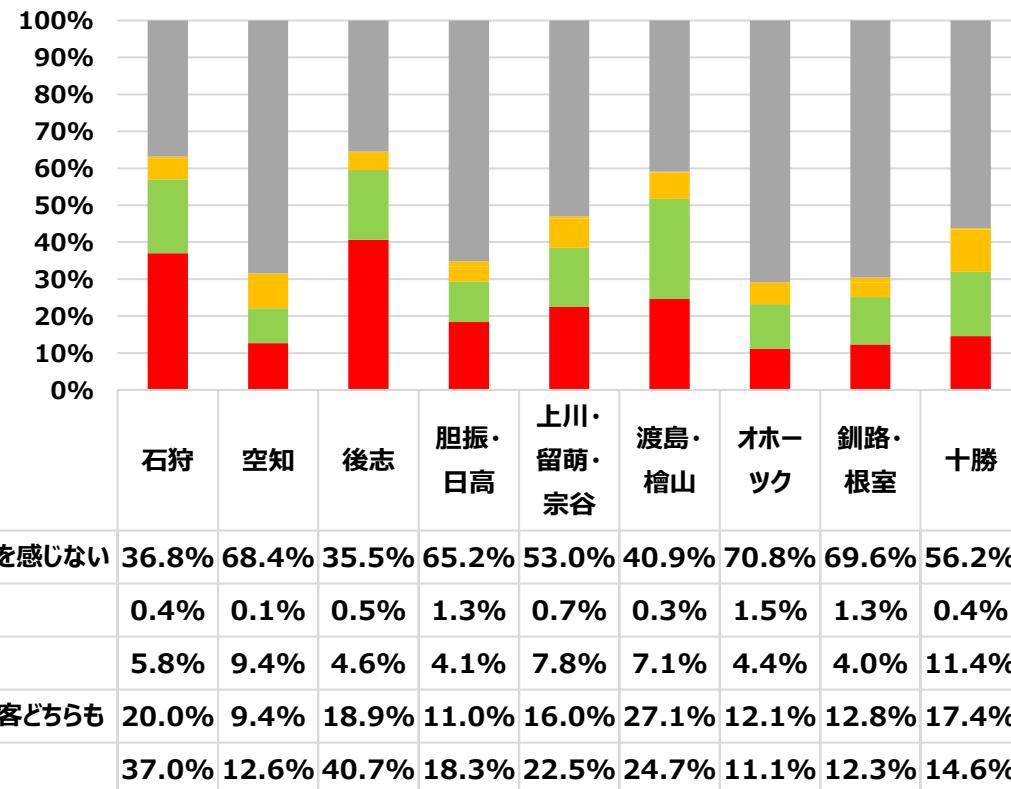
「オーバーツーリズム」への認知度

n=3000



「オーバーツーリズム」につながる観光客のタイプ

n=3000



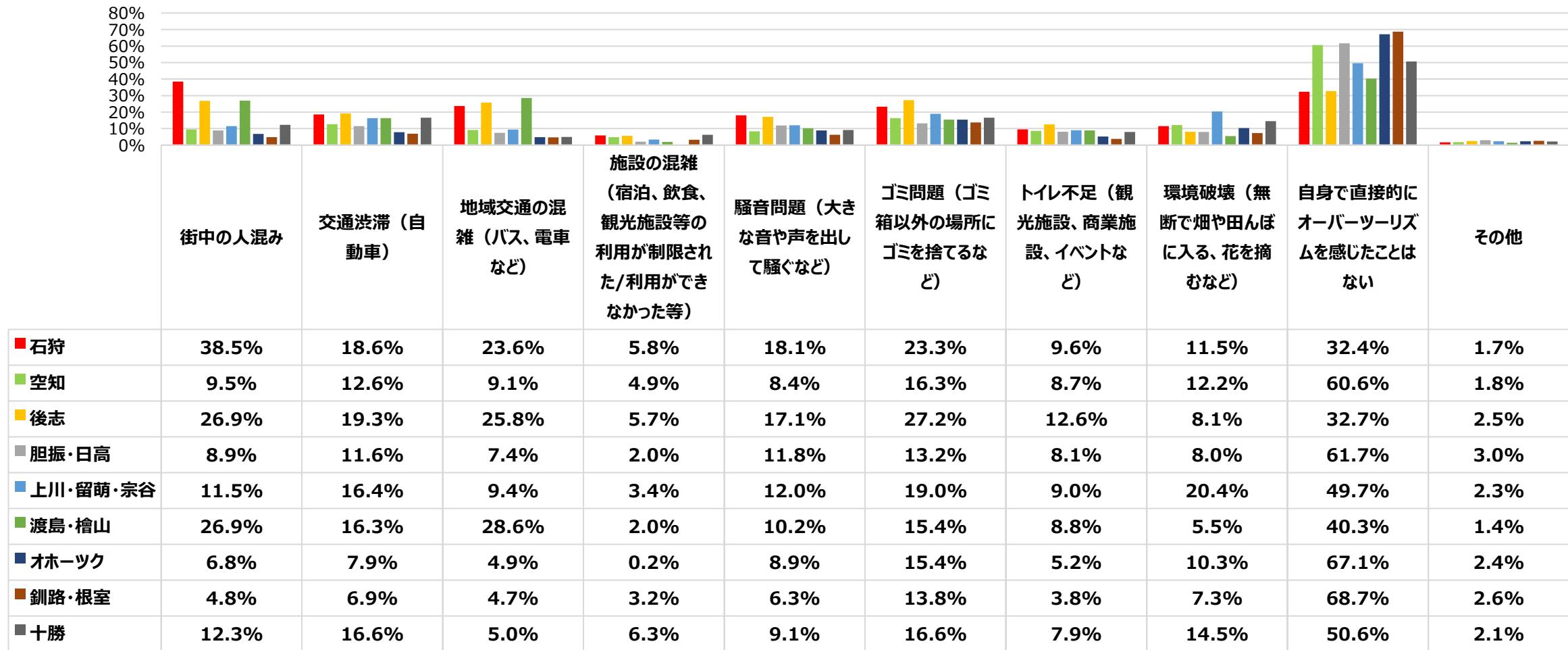
「オーバーツーリズム」という言葉の認知度は、「オホーツク」で69.5%ともっと低いが、他の地域では概ね8割前後の認知率である。

一方、「オーバーツーリズムを感じない」とする回答には地域差が大きく、「オホーツク」「釧路・根室」「空知」「胆振・日高」などで70%前後と最も高い一方、「後志」「石狩」では35%前後と顕著に低い。

「後志」「石狩」では「海外観光客」がオーバーツーリズムに繋がっているという回答が多い一方、「国内観光客」と回答した割合は他地域と大きく変わらない。

見聞きした「オーバーツーリズム」

n=3000



「街中の人混み」「地域交通の混雑」「ゴミ問題」が「石狩」「後志」「渡島・檜山」で顕著に高くなっている。

また、「環境破壊」が「上川・留萌・宗谷」で特に高いなど、起きている問題には明確な地域差があることがうかがえる。